

コンパクト オーディオ

ALLORA XF7

取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

リモコンの使いかた
時刻合わせ

アンプの操作
音場について

放送受信のしかた
グライコの操作

CD・カセットテープ
のききかた

録音のしかた

タイマーの使いかた

故障と思われる
症状ですが・・・

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

B60-0840-10 (JA) (MC)
94/12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2

KENWOOD

はじめに

ケンウッド商品をお買い上げいただき、ありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため本説明書をよくお読みになり、末永くご愛用くださるようお願いいたします。また、お読みになったあとも、大切に保存してください。

目次

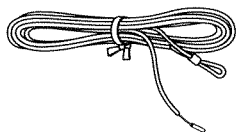
ご注意：▲のついた項目は、感電や火災からあなたを守るため、ご使用前に必ずお読みください。

▲取扱上のご注意..... 3	カセットテープのききかた.....42
ご使用前に..... 4	DPSSの使いかた.....44
システム接続のしかた..... 6	録音のしかた(Bデッキのみ)..... 46
各部の名称.....11	CDの録音のしかた(CCRS)..... 50
リモコンの使いかた.....14	TRACKモードでの録音..... 51
音を出してみましょう.....16	PGMモードでの録音..... 51
時刻合わせ.....17	ノーマル編集録音(NORMAL EDIT).....52
▲アンプの操作のしかた.....18	AI編集録音(AI EDIT).....53
音量を調節する.....18	マルチディスク編集録音(MULTI EDIT).....54
ヘッドホンできく.....19	ダビングのしかた.....56
音場について.....20	映像機器を使用するには.....57
アコースティックサウンド.....22	簡単にカラオケを楽しむには.....58
プレゼンス.....24	タイマーの使いかた.....59
ドルビーサラウンド.....26	プログラムタイマーで放送を受信する.....60
ドルビー3ステレオ.....28	プログラムタイマーでCDを再生する.....61
放送受信のしかた.....29	プログラムタイマーでテープを再生する.....62
放送を受信し、プリセットする(記憶させる).....29	プログラムタイマーで放送を録音する.....63
放送局名を表示させる.....31	ワンタッチタイマーの使いかた.....64
グラフィックイコライザーの操作.....33	AI TIMERの使いかた.....65
プリセットイコライザーパターンの使いかた.....34	スリープタイマー、カレンダーチェック.....66
AI LOUDNESSの使いかた.....35	故障と思われる症状ですが.....67
AI AUTOの使いかた(CD専用).....35	アフターサービスについて.....70
AI FOCUSの使いかた(CD専用).....36	定格.....71
CDのききかた.....37	
CDを初めからきく(TRACKモード).....37	
好きな曲を好きな順番できく(PGMモード).....39	
繰り返しきく(リピートプレイ).....41	

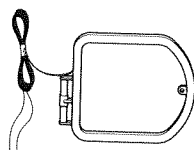
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

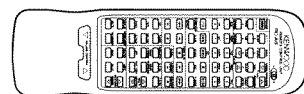
FM・TV用簡易アンテナ(1本)



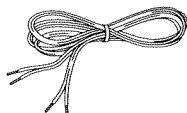
AM ループアンテナ(1個)



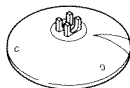
リモートコントロールユニット(1個)



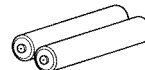
スピーカーコード(赤黒2本、青黒2本)



ループアンテナスタンド(1個)



リモコン用単4電池(2個)



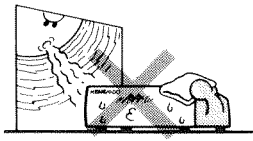
スピーカーコードはスピーカー部、その他の付属品はパワーアンプ部に同梱されています。

取扱上のご注意

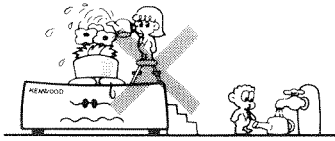
△この頁は安全確保のために必ずお読みください

■設置上のご注意

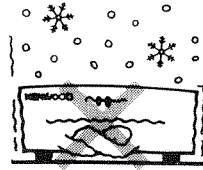
直射日光の当たる所、暖房器具など発熱物の近くは避けてください。



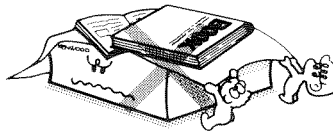
花瓶、化粧品など液体の入ったものは、上に置かないでください。また、湿気の多いところは避けてください。



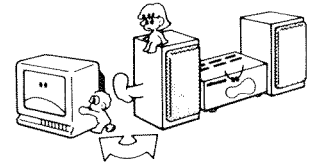
極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。



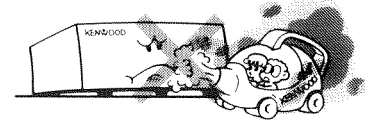
放熱をよくするため、本など、ものをセットの上に置かないでください。また、壁から10cmくらい離して置いてください。



雑音が入る場合は、テレビからできるだけ離してご使用ください。

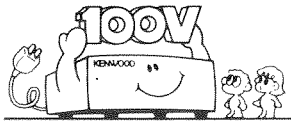


不安定な棚などは避け、ホコリ、震動の少ない水平な場所に設置してください。また、放熱孔をふさぐジュタン、ソファ、ベッド等の上では使用しないでください。

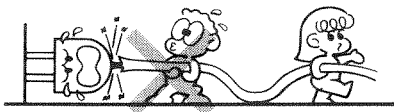


■安全上のご注意

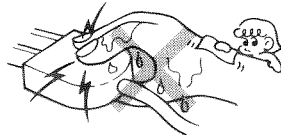
本機は、交流100V専用です。200Vでは絶対使用しないでください。



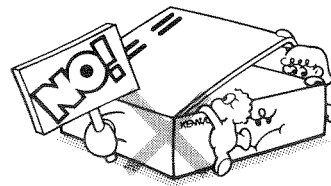
電源コードを強くひっぱったり、無理に折り曲げたり、継ぎ足したりすることは、通電しなくなったり、ショートのおそれがありますのでやめましょう。抜くときは、プラグを持ってください。



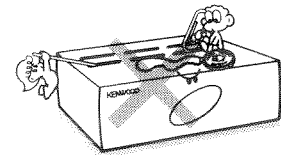
電源プラグの抜き差しは、ぬれた手で行わないでください。感電する恐れがあります。



ケースなどをはずし、内部に触れることは避けてください。内部に手を触れると感電、故障の原因となることがあります。



ケースの空気孔等にヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくにお子様へのご注意をお願いします。



■セットのお手入れ

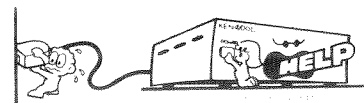
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、やわらかい布でからぶきます。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。



■異常にお気づきのさいは

万一、煙が出ている、また変なにおいがするなどの異常がおきたときは、電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速やかに購入店または最寄りのケンウッドサービスセンター、営業所へご連絡ください。

POWER OFF

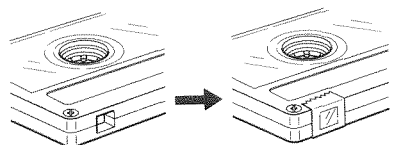
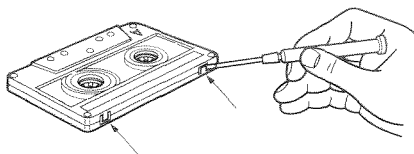


ご使用前に

カセットテープについてのご注意

誤消去防止装置

大切な録音のあとには、カセットのツメを折ってください。
誤消去・誤録音を防げます。

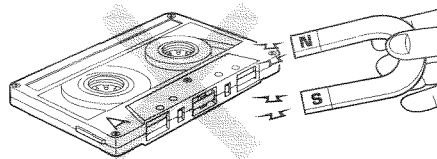


再び録音するには

折った所だけに
テープをはる

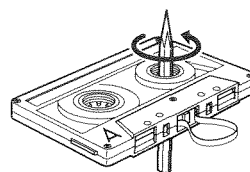
カセットテープの保管について

直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。
また、磁石や磁気は近づけないでください。



テープがたるんでいる場合

このような場合には、リール軸に鉛筆などを差し込んで、テープのたるみをとってから装着してください。



ご注意:

1. 110/120分テープについて

110/120分テープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりトラブルが発生しやすいので、ご使用はお避け
ください。

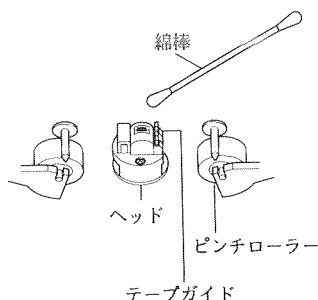
2. エンドレステープについて

エンドレステープは故障の原因となりますので、ご使用になら
ないでください。

ヘッドのお手入れ

ヘッド回りのクリーニング

いつまでも最良の状態でご使用になるには、
テープ再生時間約10時間ごとに、ヘッド（録
音／再生／消去）、キャプスタン、ピンチロー
ラーのクリーニングを心がけてください。
クリーニングは、次の手順で行ってください。



1. イジェクトキーを押し、カセットホルダーを開けます。
2. ヘッド（録音／再生／消去）、およびキャプスタン、ピンチローラーを、市販のクリーニング液を含ませた綿棒で注意深くクリーニングします。

ヘッドの消磁

録音・再生ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなり
ます。市販の消磁器（ヘッドイレーサー）
で消磁してください。

ご注意:

ヘッドのテープガイドなど、精密に調整された
部分があります。クリーニングの際は、引っかけ
たり、強い衝撃などを加えないように注意して
ください。

露付きにご注意

水蒸気が、冷たいものの表面にふれて水滴が付くことを“露付き”
といいます。この現象がおきますと、正常に動作しないか、または、
まったく動作しないことがあります。

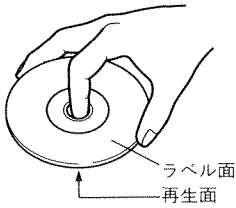
これは故障ではありませんが、露がとれるまでしばらく乾燥させ
る必要があります。

本機の電源を入れた状態で、そのまま放置しておいてください。
長くても数時間で露が乾いてきます。

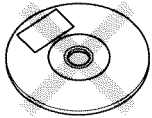
次のような状態のときは、特に露付きにご注意ください。

- 寒いところから暖かい部屋など気温差の大きいところへ持ち込んだとき。
- 暖房をきかせはじめたとき。
- 冷房のよくきいた部屋から、湿度が高く気温の高い部屋へ持ち込んだとき。
- その他本機の温度と外気温度との差が大きく、露付きの状態になりやすい条件のとき。

ディスク取扱上のご注意

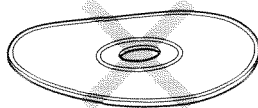
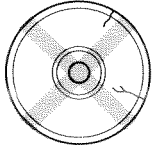


取り扱い
再生面にふれないように持ってください。



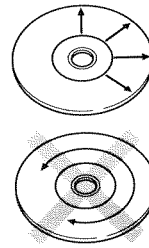
再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。

ディスク使用上のご注意

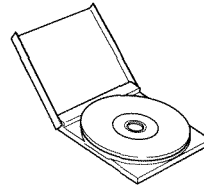


ひびやそりのあるディスクは使わない


再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。




お手入れ
ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。



保存
長い間使用しないときは、本機から取りだし、ケースに入れて保管してください。

ドルビーノイズリダクションおよびHX PROヘッドルーム エクステンションは、ドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号およびHX PROは、ドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションの商標です。

ドルビー ラボラトリー ライセンシング コーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBYおよびダブルD記号は、ドルビー ラボラトリー ライセンシングコーポレーションの商標です。

メモリーバックアップ

電源OFF (STAND BY 状態) にしてから最低3日で消えるメモリーの内容	カセットデッキ (DIRECTION、録音レベル)
電源プラグをコンセントから抜くとすぐ消えるメモリーの内容	プリアンプ/チューナーの時計表示
電源プラグをコンセントから抜いて最低3日で消えるメモリーの内容	プリアンプ/チューナーのプリセット放送局

スピーカーの設置とテレビについて

- このシステムのスピーカーは、テレビとの近接使用が可能な防磁型(EIAJ規格)ですが、設置のしかたによっては、色ムラを生じる場合があります。そのときは、一度テレビの電源を切り、15分~30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーを離してご使用ください。
- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラを発生することがありますので、設置にご注意ください。
- テレビからの電磁波の誘導作用により、ステレオの電源スイッチがOFFのときでも、スピーカーから音が聞こえることがあります。その場合も、テレビからスピーカーを離して設置してください。

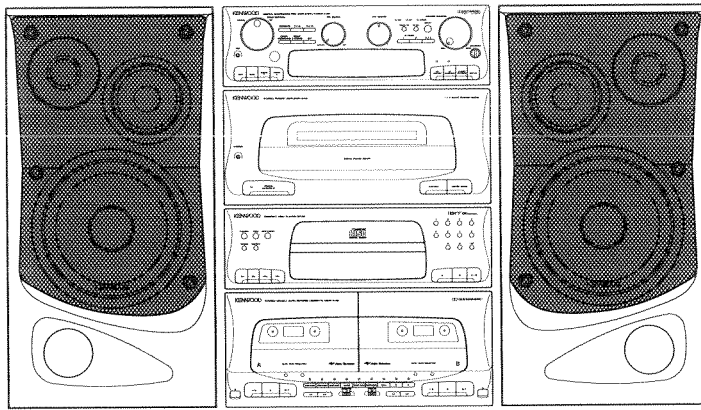
あなたが録音または録画したものは、個人として楽しむなどの場合は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

システム接続のしかた

接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

- セットの積み重ねは、接続図通りに行ってください。
- 平行コードは、ソケットの色を合わせてください。
- 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

縦に置いたとき

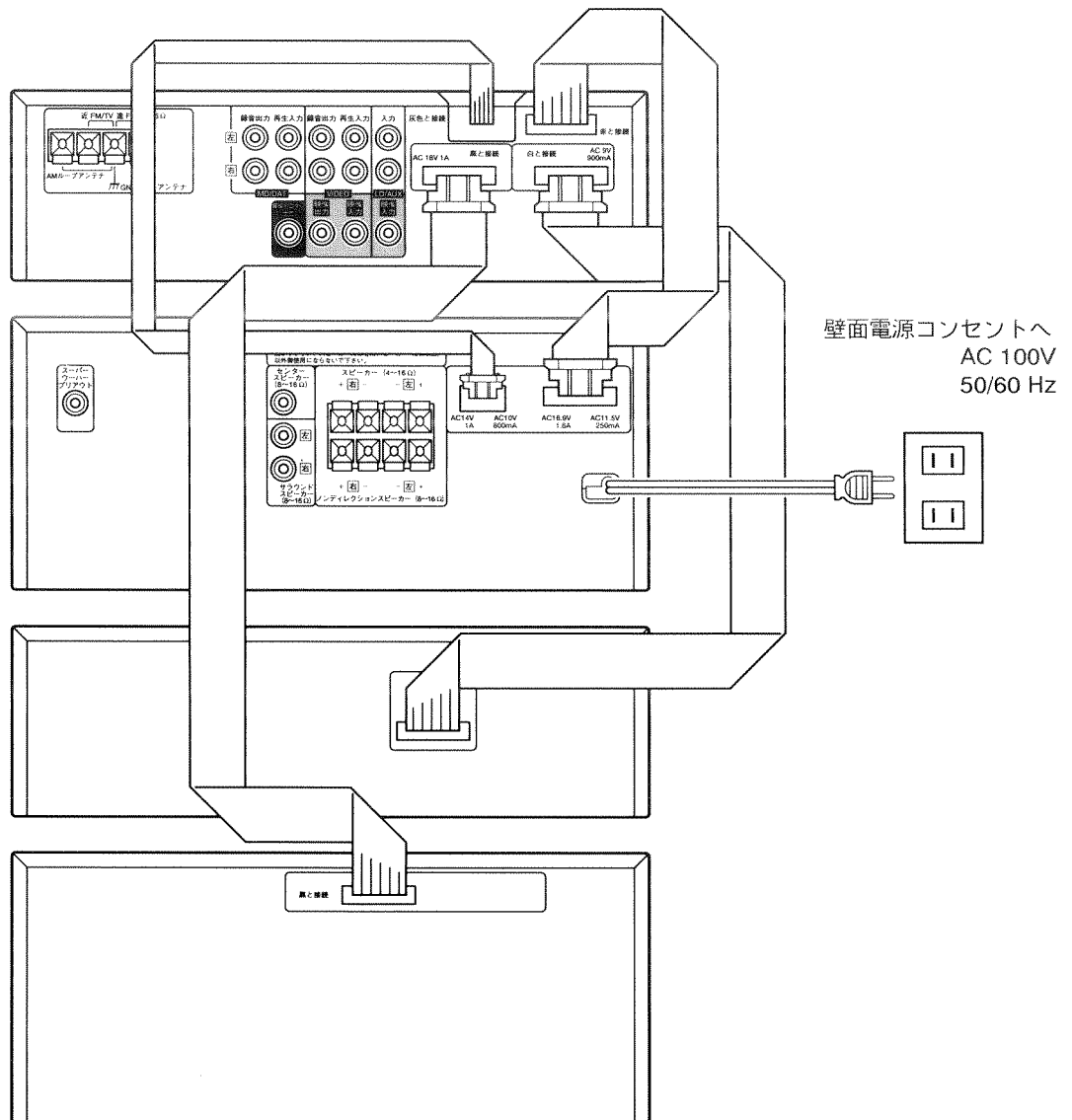


プリアンプ/チューナー
C-A9

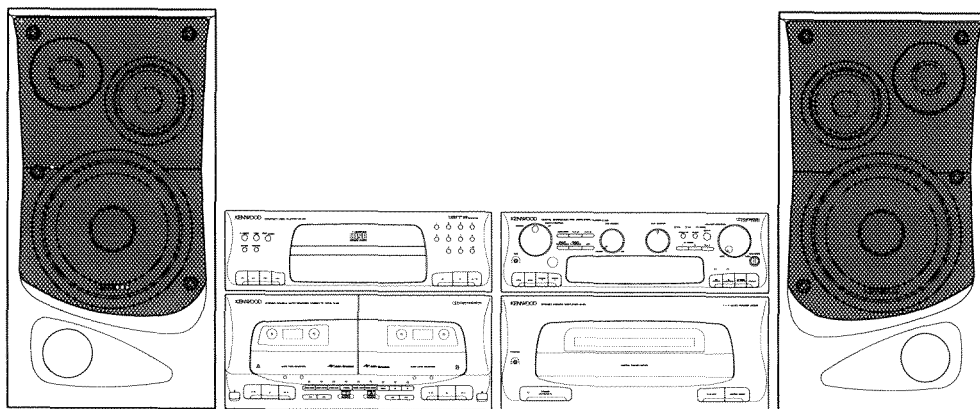
パワーアンプ
B-A9

CDプレーヤー
DP-A9

カセットデッキ
X-A9



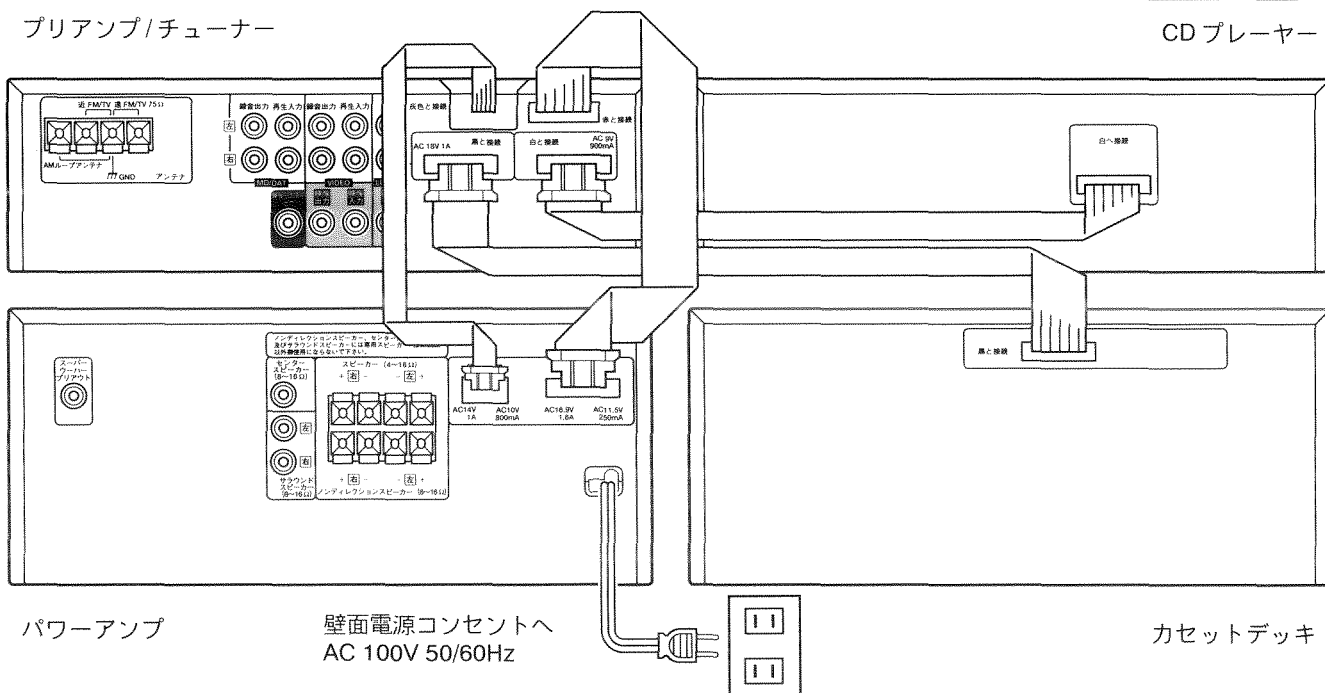
横に置いたとき



よこ置きの場合は、必ず
プリアンプ/チューナー
+パワーアンプ部をCD
プレーヤー+カセット
デッキ部の向かって右側
に置いてください。

プリアンプ/チューナー

CDプレーヤー



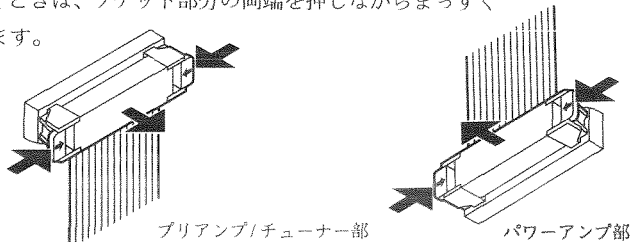
パワーアンプ

壁面電源コンセントへ
AC 100V 50/60Hz

カセットデッキ

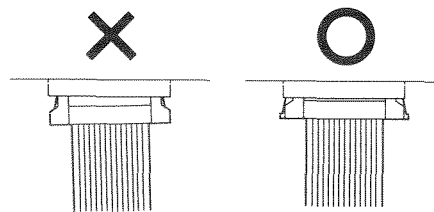
■ 平行コードの接続

- 平行コードは、カチッと音がするまで平行に差し込み、確実にロックしてください。
- 平行コードは、ソケットの色を合わせて接続します。
- コードを抜くときは、ソケット部分の両端を押しながままっすぐに引き抜きます。



プリアンプ/チューナー部

パワーアンプ部

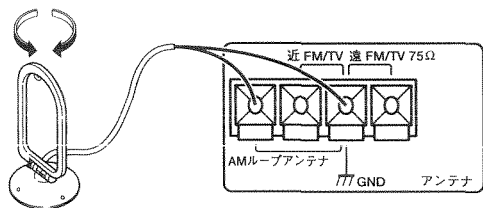


ご注意：

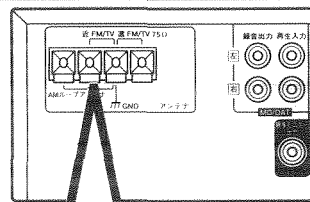
1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずに接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。

■ AM ループアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。

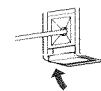
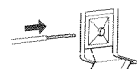


ループアンテナスタンド



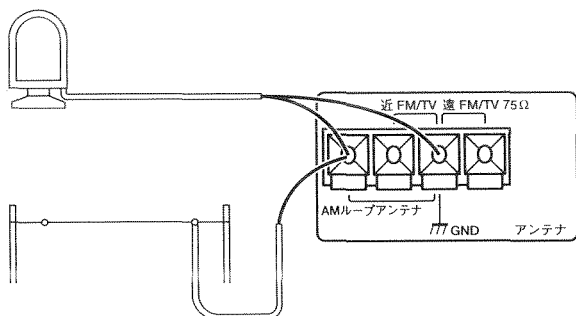
接続のしかた

- ①レバーを押す
- ②コードを差し込む
- ③レバーを戻す



■ AM 屋外アンテナの接続

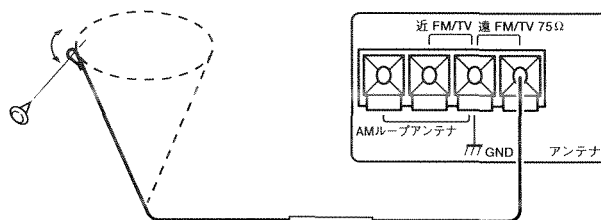
受信状態が悪い場合は、ループアンテナをつないだまま 6m 以上のビニール被覆線を屋外に張ってください。



■ FM・TV 簡易アンテナの接続

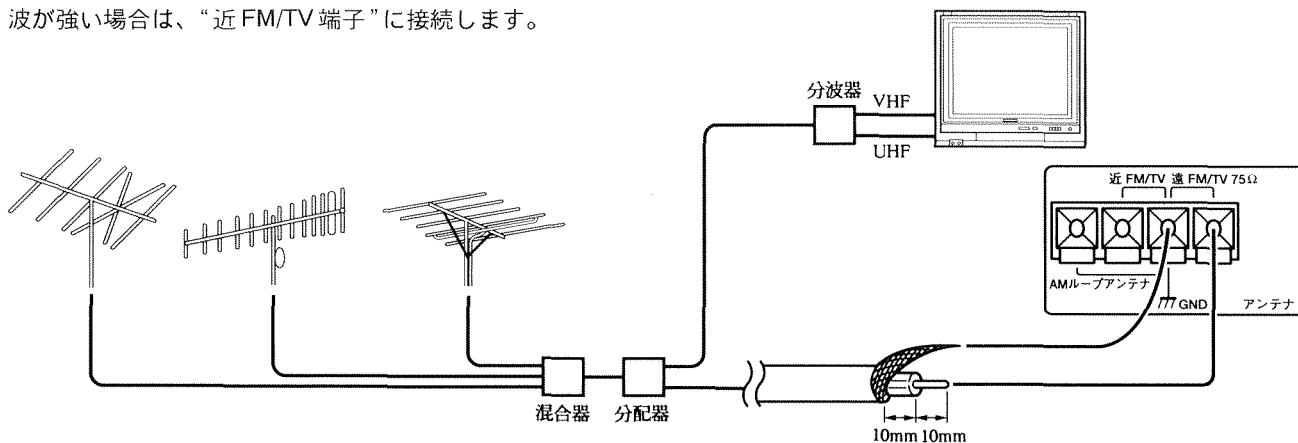
付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のために、なるべく早く屋外アンテナを接続してください。屋外アンテナを接続したら、室内用アンテナは取り外してください。

- ①コード先端の被覆を取り、ねじる。
- ②受信状態の良い位置を探す。
- ③固定する。



■ FM・TV 屋外アンテナの接続

75 Ω 同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、TV 用と本機用に分配し、“遠 FM/TV 端子”に接続します。放送局が近く、電波が強い場合は、“近 FM/TV 端子”に接続します。



■ フロントスピーカーの接続

スピーカー部

①レバーを押しながら
②コードを差し込む

③レバーから手をはなす

パワーアンプ部

①レバーを押す
②コードを差し込む

③レバーを戻す

ノンディレクションスピーカー端子
フロントスピーカー端子

NON-DIRECTION INPUT
MAIN INPUT

青 赤

スピーカー (4~16Ω) Ω
+ 固 - - 固 +

ノンディレクションスピーカー (8~16Ω)

青

- スピーカー端子には、ノンディレクションスピーカー用とフロントスピーカー用があります。青黒のコードはノンディレクションスピーカー用、赤黒のコードはフロントスピーカー用です。イラスト通り正しく接続してください。
- スピーカーコードの+と-は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性をまちがえて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音となります。正しく接続してください。

■ サラウンド(リア)スピーカー、センタースピーカーの接続

サラウンド(リア)スピーカー
CM-5ESまたはCM-7ES (別売)

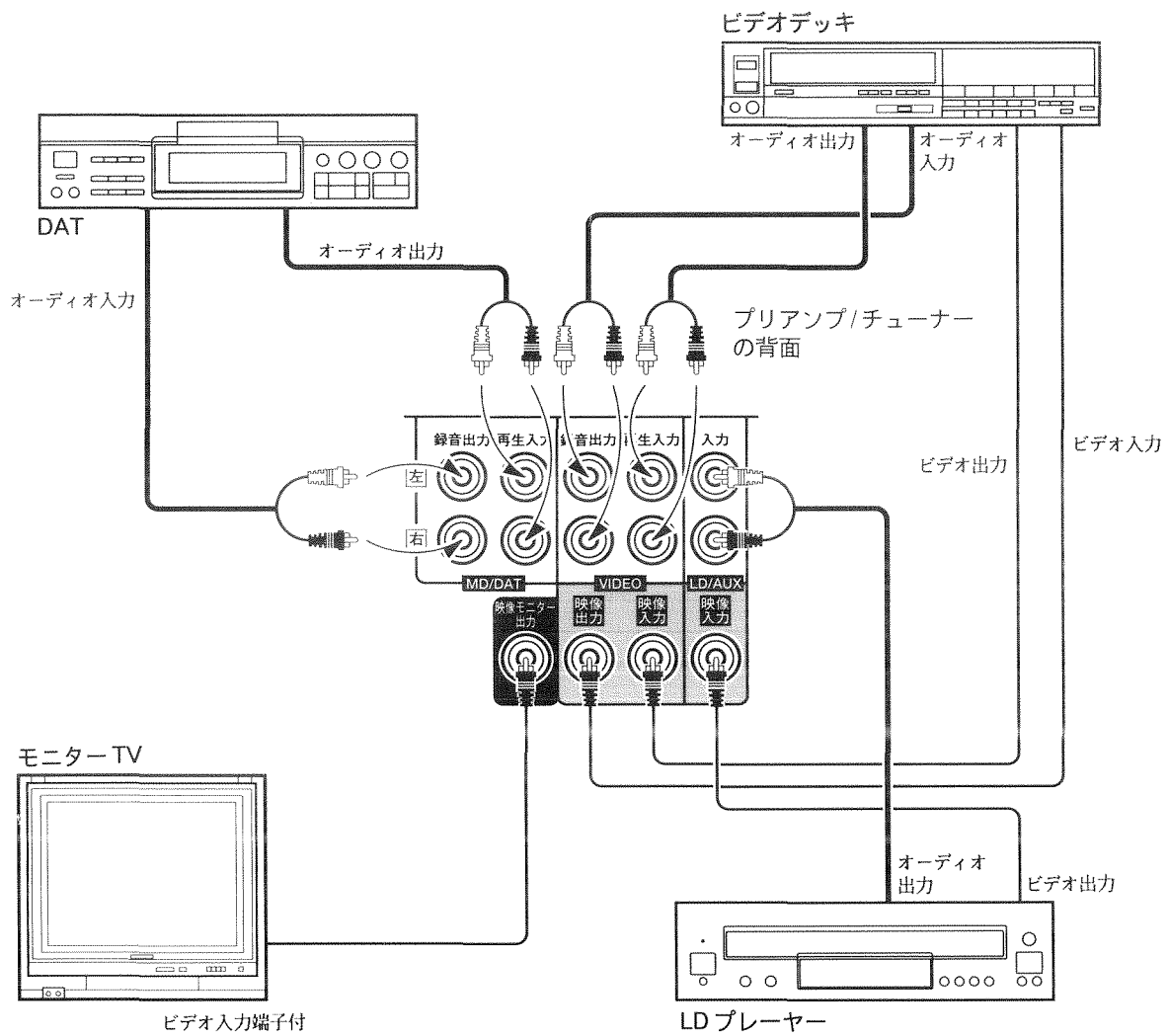
センタースピーカー
CS-6またはCS-3 (別売)

- サラウンドスピーカーは、必ず左右2本を接続してください。片側だけでは音が出ません。
- センタースピーカーは、モニターTVの上などに置いてください。

■ スーパーウーファの接続

SW-07 (別売)

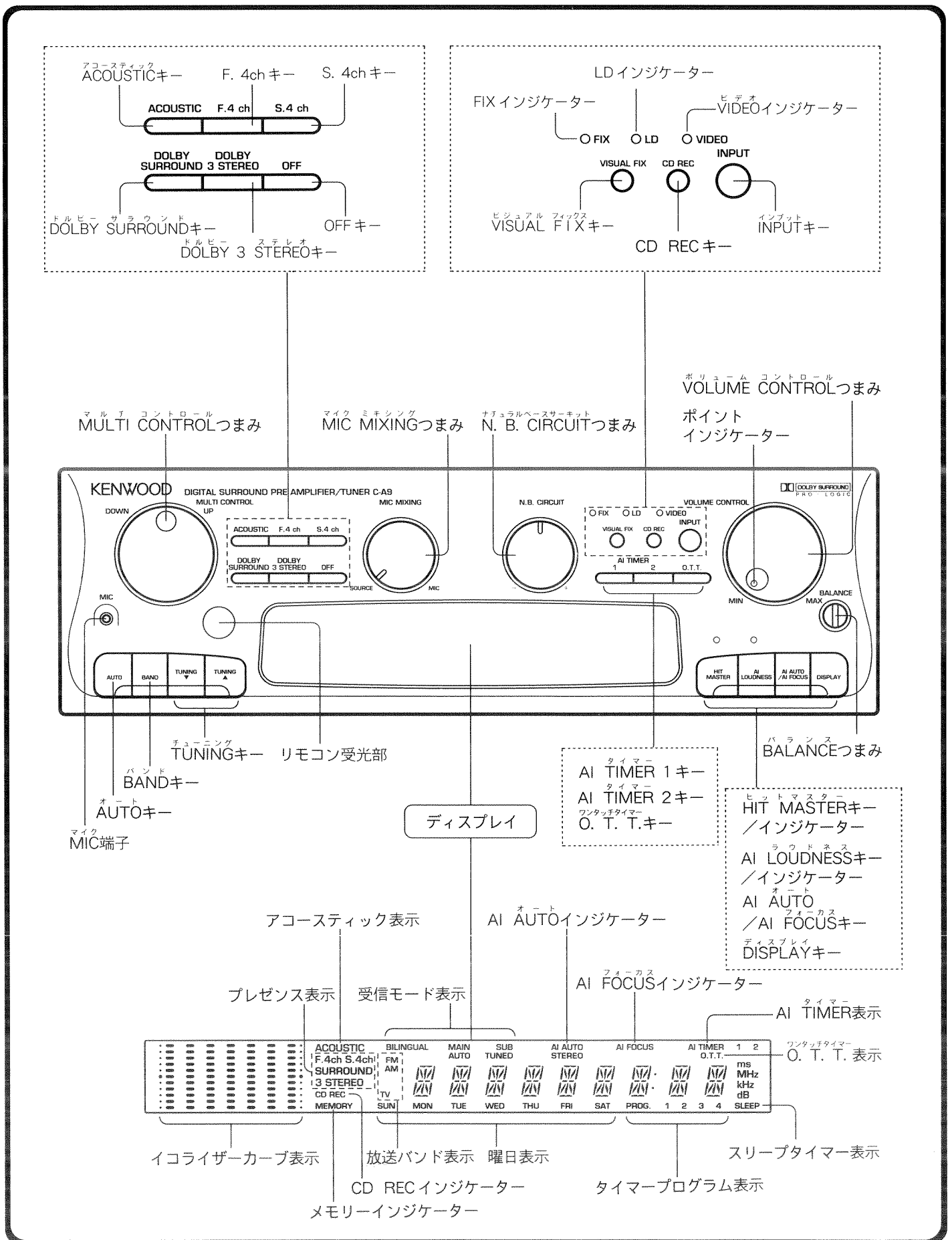
AV機器(別売)との接続



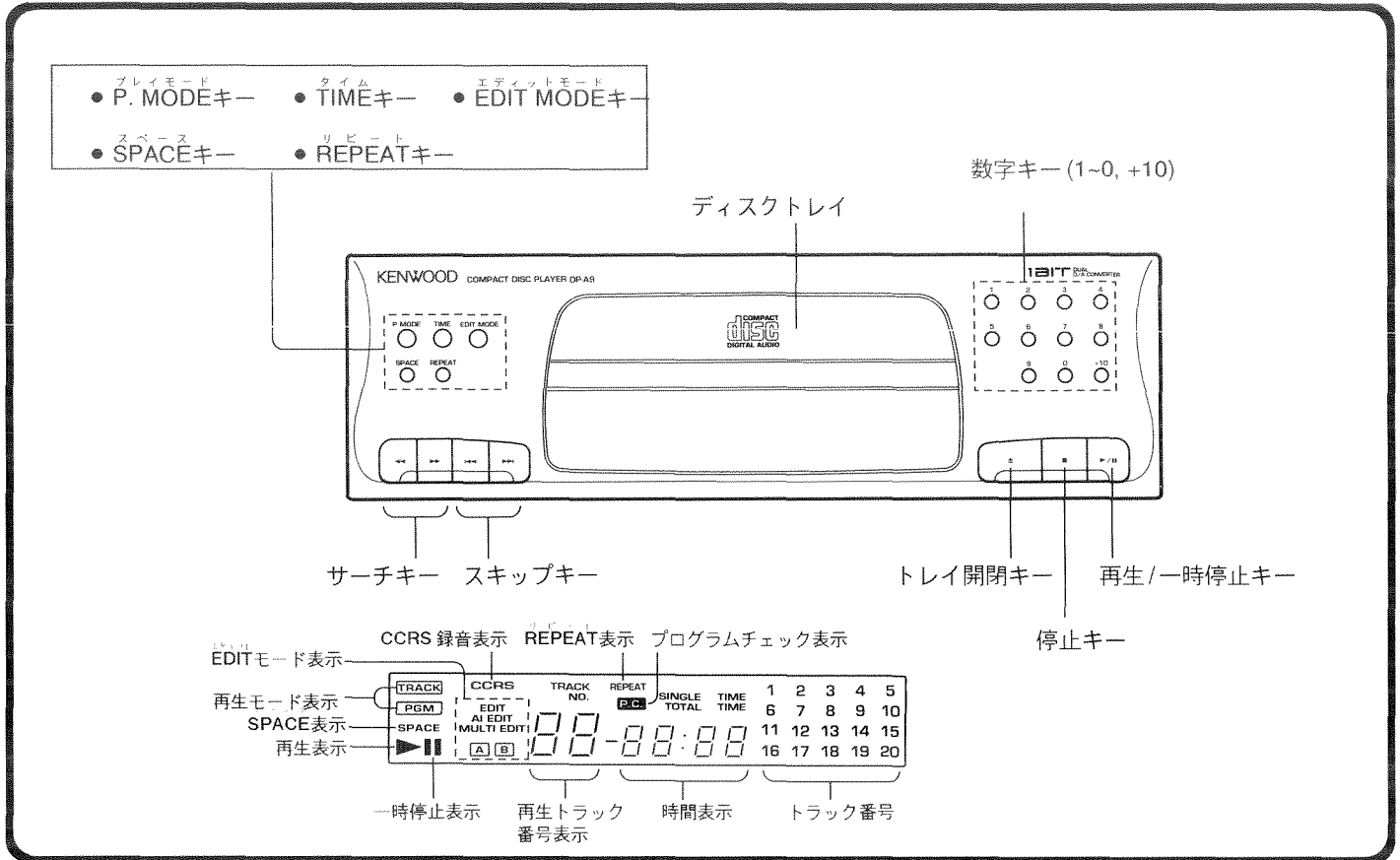
- 接続コードは、本システムには付属していません。
- LDプレーヤーのかわりに次のような映像機器が接続できます。
 - ・BSチューナー
 - ・ビデオカメラ
 - ・ビデオデッキ
- DATのかわりにMD(ミニディスク)プレーヤーなどが、接続できます。

各部の名称

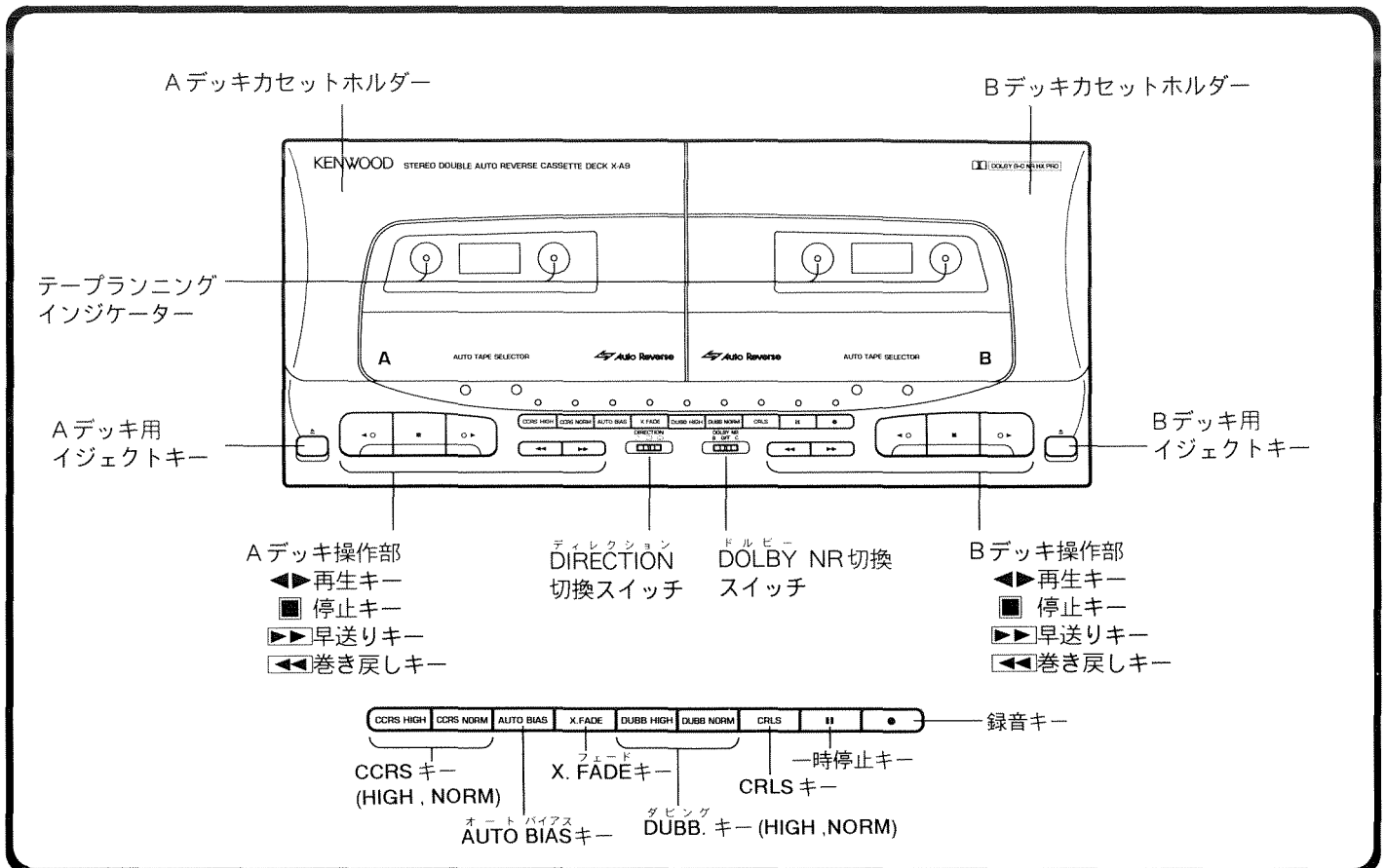
■プリアンプ/チューナー部



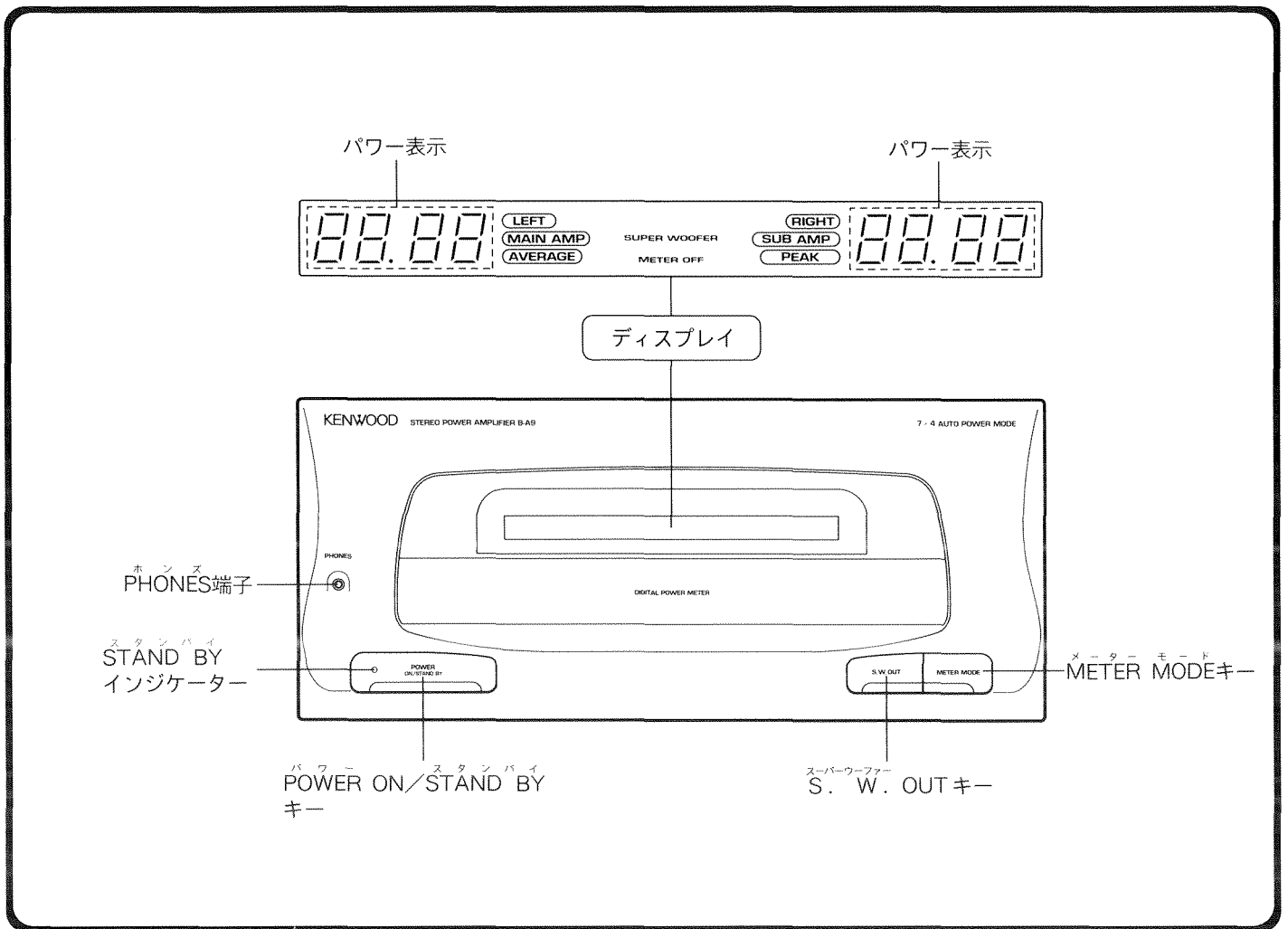
CD プレーヤー部



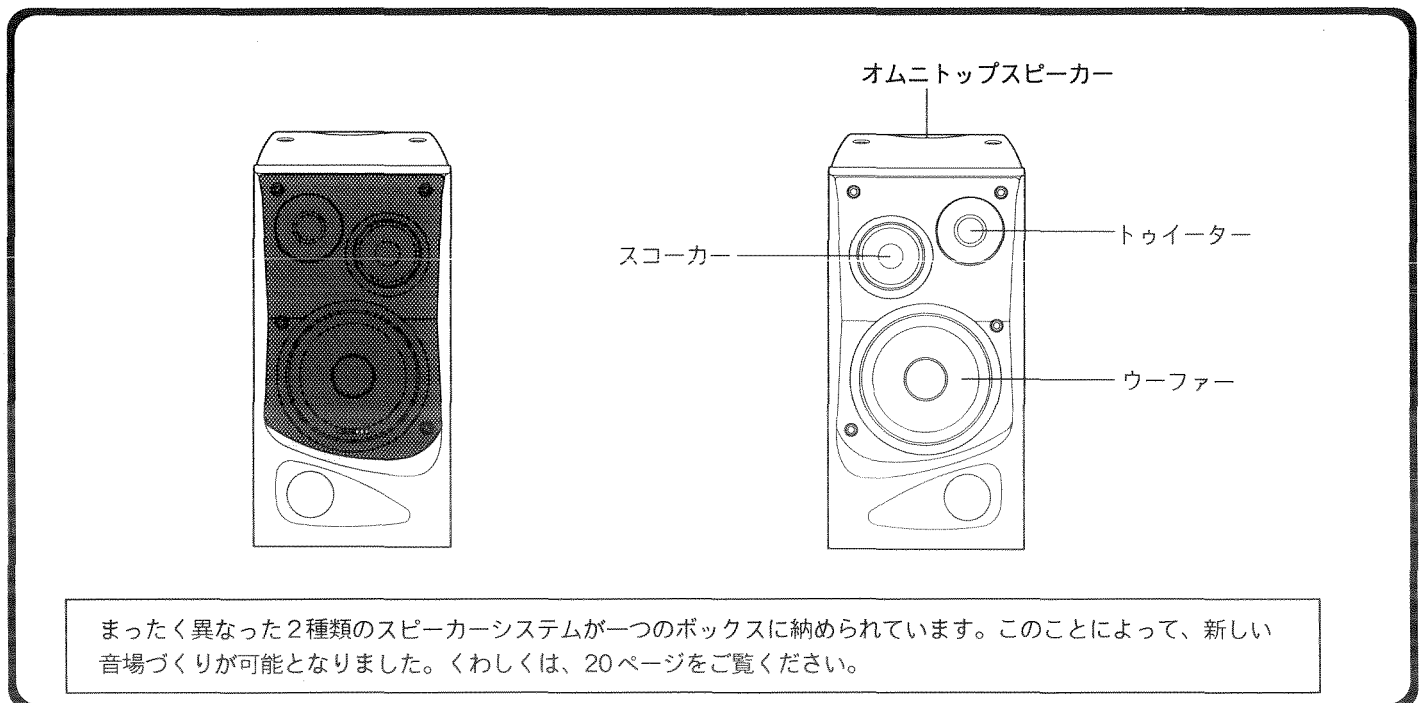
カセットデッキ部



■ パワーアンプ部



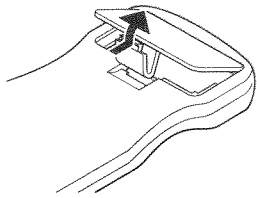
■ スピーカー部



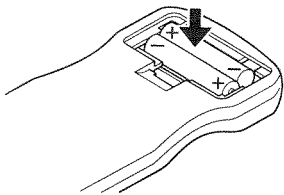
リモコンの使いかた

■電池の入れかた

1 ふたを開ける

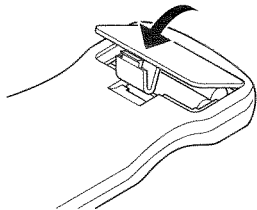


2 電池を入れる



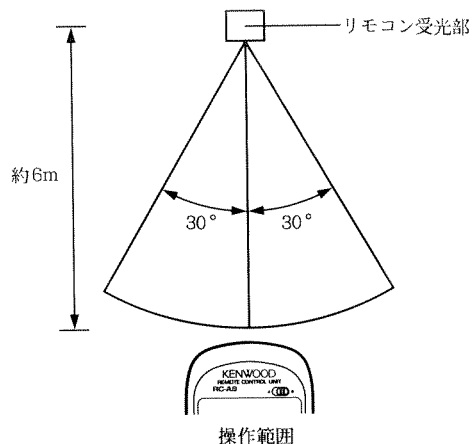
単4乾電池 (R03/UM-4) 2個を極性マークに従って入れる。

3 ふたを閉める



■操作のしかた

パワーアンプの電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンの **POWER** キーを押すと、電源がONになります。電源がONになったら、操作したい機器のキーを押します。



- リモコンの各操作キーを押してから次の操作キーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意:

1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい電池と交換してください。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

■キーの名称と働き

スーパーウーファー操作キー
(A/B 切換スイッチが B 側のとき)
スーパーウーファーを操作するときは、A/B 切換スイッチを B 側にします。
S.W.POWER キー、S.W.EFFECT キー、S.W.VOL. キー

数字 / 曜日キー
入力切換が CD のときは CD プレーヤーの数字キーとして操作できます。
入力切換が TUNER のときはチューナーの数字キーとして操作できます。
タイマー設定のときは曜日キーとして操作できます。

カセットデッキ操作キー
A デッキを操作するときは A/B 切換スイッチを A 側にします。(●) キー、(■) キーは無効
B デッキを操作するときは A/B 切換スイッチを B 側にします。

入力切換キー

DISPLAY キー
押すごとにプリアンプ / チューナーのディスプレイ表示が、変わります。

METER MODE キー
押すごとにパワーアンプのディスプレイ表示が、変わります。

HIT MASTER キー

POWER キー

リモコン機能 A/B 切換スイッチ
一部のリモコンキーは、2通りの使いかたができます。用途に応じて切り換えます。
白色の文字だけのキーは A/B 切換に関係なく使えます。
白色と茶色の文字のあるキーは、A 側のときは茶色 B 側のときは白色で表します。

チューナー操作キー
A/B 切換スイッチ:A 側のとき
TUNING/CHARACTER キー、BAND キー、DIGIT キー、CHARACTER キー、ENTER キー
A/B 切換スイッチ:B 側のとき
P. CALL キー、DIRECT キー

時計、タイマー操作キー
A/B 切換スイッチ:A 側のとき
O. T. T. キー、ENTER キー
A/B 切換スイッチ:B 側のとき
SLEEP キー、C. CHECK キー、PROG. キー、EXE. キー、CLEAR キー、ADJUST キー

CD 操作キー
◀▶ キー、● キー、▶/|| キー
CLEAR キー、CHECK キー、EDIT キー
P. MODE キー
A/B 切換スイッチ:B 側のとき
REPEAT キー

イコライザー操作キー
AI AUTO / AI FOCUS キー、AI LOUDNESS キー
M. CALL キー

プレゼンスキー
ACOUSTIC キー、S. 4CH キー、F. 4CH キー、DOLBY 3STEREO キー、DOLBY SURROUND キー
MULTI CONTROL キー (☑ ☐)、OFF キー
TEST TONE キー

プレゼンス調整キー
CENTER キー、ASFC キー、REAR キー、DELAY キー
MULTI LEVEL CONTROL キー (☑ ☐)

VOLUME CONTROL キー
音量を調節できます。操作中は本体のボリュームコントロールつまみのインジケーターが速い点滅をしながら動きます。

型名 : RC - A9
赤外線方式

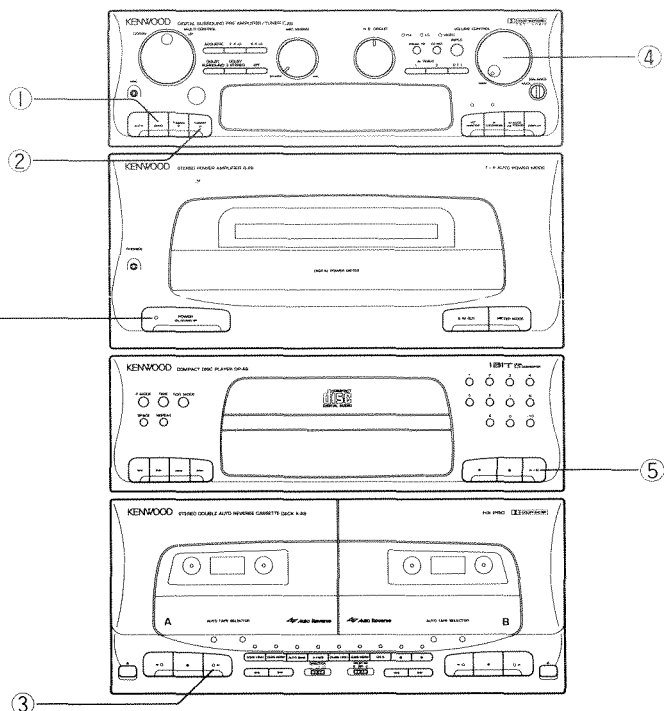
※本機では、1~P のキーと P.OPEN/CLOSE キーは機能しません。

音を出してみましよう

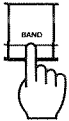
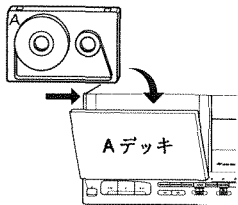
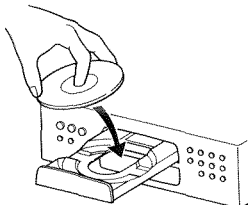
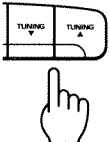
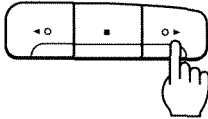
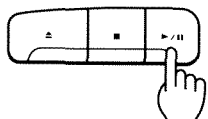
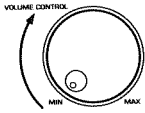
詳しくは、各機器の操作ページをご覧ください。
 プリアンプ/チューナー部の時刻合せは、次のページをお読みください。

パワーアンプは、回路素子保護のため冷却用のファンを内蔵しています。パワーアンプ背面のファンの近くには、物を置かないでください。

パワーアンプの電源キー
 (POWER) を押す



音を出してみましよう

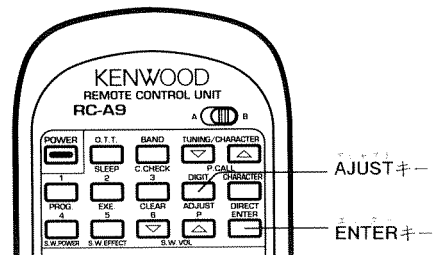
	放送をきくとき	テープをきくとき	CDをきくとき
1	チューナーを選ぶ BAND キー①を押し、放送バンドを選ぶ。 	テープをAデッキに入れる 	ディスクをトレイに入れる 
2	放送局を選ぶ TUNING ▲, ▼ キー②を押す。 	再生する 再生キー③を押す。 	再生する ▶/ キー④を押す。 
3	音量を調節する 		

● VOLUME CONTROLつまみ⑤を右にまわして、音の大きさを決めます。

ご注意: 音が出ない場合は6ページ以降の“システム接続のしかた”を、もう一度確認してください。

時刻合わせ

プリアンプ/チューナーには、時計機能がついています。
タイマーを使う前に必ず正確な時刻を合わせてください。



1 ADJUST キーを押す



INPUT YEAR
↓
YEAR 1991

2 西暦年を数字キーで入力し、ENTER キーを押す

1992年 : 1、9、9、2と入力する



YEAR 1992
↓
INPUT DATE

● 数字キーを間違えて押したときは、CLEAR キーを押して、やり直してください。

3 月、日を入力し、ENTER キーを押す

3月7日 : 0、3、0、7と入力する



12月30日 : 1、2、3、0と入力する

DATE 0101
↓
DATE 1230
↓
INPUT TIME

● 数字キーを間違えて押したときは、CLEAR キーを押して、やり直してください。

4 時刻を合わせる

午前9時5分 : 0、9、0、5と入力する

午後4時50分 : 1、6、5、0と入力する

● 数字キーを間違えて押したときは、CLEAR キーを押して、やり直してください。

TIME 0000
↓
TIME 1650

5 ENTER キーを押す



TIME 1650
↓
END

● 時報と同時に押すと正確な時刻合わせができます。

時計が動き出します。

ご注意 :

停電があったり、電源プラグをコンセントから抜いたときは時刻表示が点滅します。その場合は、もう一度時刻合わせをしてください。

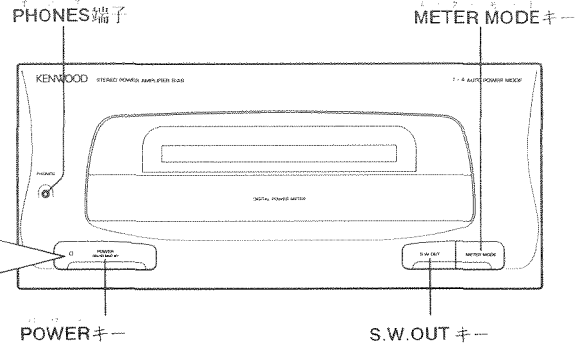
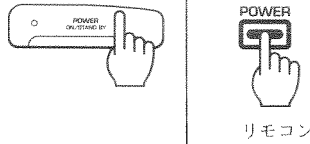
ディスプレイの表示と DISPLAY キー

DISPLAY キーを押すごとに、放送局を受信しているときは、周波数→放送局名→プレゼンス表示→現在時刻→月日に切り換わります。年月日または時刻表示のとき、チューナーの選局に関するキーを押すと、自動的に周波数表示に切り換わり、数秒後、元の表示に戻ります。電源がOFFのときは、月日/時刻表示の切り換えになります。

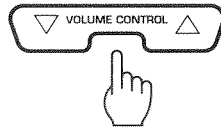
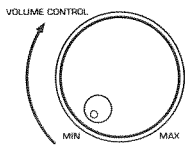
アンプの操作のしかた

パワーアンプの電源キー (POWER) を押す。

- パワーアンプのPOWER キーだけで基本システムの電源ON/OFFができます。



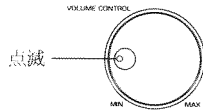
■音量を調節する



リモコン

- リモコンで調節すると、キーを押している間、VOLUME CONTROLつまみのポイントインジケータが点滅しながら回転します。

一時的に音を消したいとき リモコンのみ



- もう一度押すと、元の音量に戻ります。

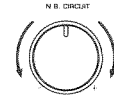
■左右の音量を調節する



右側の音が小さくなる

左側の音が小さくなる

■重低音の補正



サーキット ナチュラル ベース サーマット
N.B. CIRCUIT : Natural Bass CIRCUIT

- 通常はセンターの位置にしておいてください。
- より自然な低音にするために調節します。

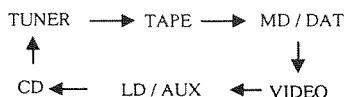
■入力ソースを切り換える

本体



繰り返し押す。または押し続ける。

下のように切り換わります。



リモコン



POWER スイッチの STAND-BY について

本機では電源プラグをコンセントに接続すると、電源ON/OFFに関係なくディスプレイおよびパワーアンプのスタンバイインジケータが点灯します。

これは電源OFF時にも、メモリーの保護のため、微弱な通電を行っているためです。これをスタンバイ状態といいます。ディスプレイが点灯しているとき、リモコン操作によっても電源のON/OFFができます。

入力切換とイージーオペレーション機能について

入力(TAPE、TUNER、CD)を切り換えるだけで、選んだ機器が再生を始めます。逆に、ソースになる機器を再生させると、入力が自動的にその機器に切り換わります。

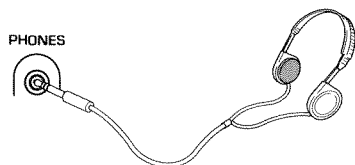
リモコンでも同様に操作できます。

なお、電源を入れたときは、電源を切る前にきいていた入力ソース(TUNER、CDなど)になります。

アンプの操作のしかた

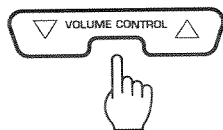
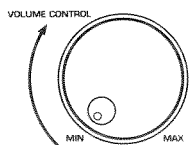
■ヘッドホンできく

1 ヘッドホンのプラグを PHONES 端子に差し込む



- すべてのスピーカーから音が出なくなります。
- アコースティックモードのNON DIRECTION I のときヘッドホンから音はでません。

2 音量を調節する

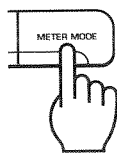


リモコン

- プラグを抜くときは音量を絞ってから抜いてください。

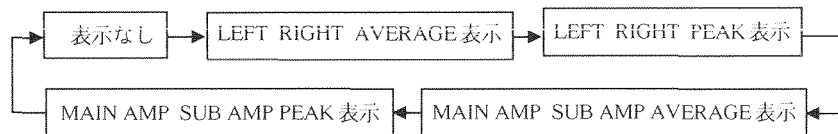
JAH - 0700

パワーアンプの METER MODE について

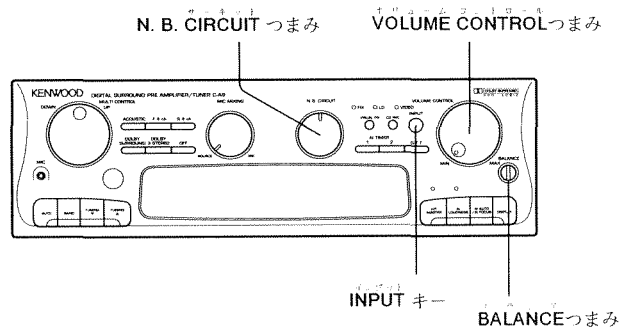


本システムのパワーアンプ部は現在のパワーをデジタル変換して数字で表示しています。

[METER MODE]キーを押すごとにディスプレイの表示内容が下のようになります。



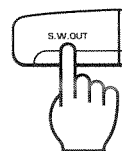
	左側表示部	右側表示部
LEFT, RIGHT AVERAGE 表示	(Front Lch + Presence Lch) の平均値	(Front Rch + Presence Rch) の平均値
LEFT, RIGHT PEAK 表示 (1 秒間ホールド)	(Front Lch + Presence Lch) のピーク値	(Front Rch + Presence Rch) のピーク値
MAIN, SUB AMP AVERAGE 表示	Front(Lch + Rch) の平均値	Presence(Lch + Rch) の平均値
MAIN, SUB AMP PEAK 表示 (1 秒間ホールド)	Front(Lch + Rch) のピーク値	Presence(Lch + Rch) のピーク値



■スーパーウーファーで重低音を楽しむ

別売りのスーパーウーファーを接続すると、臨場感ある重低音が楽しめます。(9ページ参照)

1 S.W. OUT キーを押す



本体



リモコン

- パワーアンプの“SUPER WOOFER”インジケーターが点灯。

2 スーパーウーファーの音量を調節する

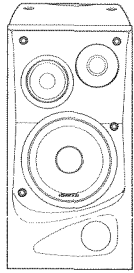
リモコンかスーパーウーファーのボリュームコントロールで調節する

- スーパーウーファーの音量を一度決めると、あとは VOLUME CONTROL だけで、同じバランスのまま増減します。

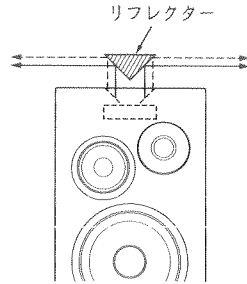
アンプの操作のしかた

音場について

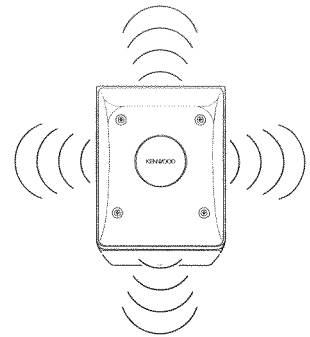
本機のスピーカーボックスには、異なった2種類のスピーカーシステムが、納まっています。一つは、従来システムと同様の3ウェイスピーカーシステムです。もう一つは、スピーカーボックス上部に取りつけられているオムニトップスピーカーシステムです。



3ウェイスピーカーシステム



スピーカーシステム上部断面



スピーカーシステムを上から見たときの音の伝わりかた

上の図のようにオムニトップスピーカーは無指向(ノンディレクション)技術を応用したスピーカーで、リフレクター(反射器)の働きによって、すべての方向に向かって音が広がります。本機では、このオムニトップスピーカーの特徴を生かして新しい音場を、作り出しています。

一つは電氣的に音を操作しないで自然な音場を作っているアコースティックモードであり、もう一つはDSPを用いてコンサートや劇場などのつつみこまれるような臨場感を再現するプレゼンスモードです。

またドルビーデコーダーを内蔵していますので、ドルビーサラウンドサウンドによる劇場映画の迫力を楽しむこともできます。自分の目的に応じてお好みの音場をお楽しみください。詳しくは次ページ以降の各操作手順をお読み下さい。

各モードについて

入力切替がチューナーのとき、アコースティックモードのみ働き、他のモードは働きません。

アコースティックモード

オムニトップスピーカーの特徴を最大限に生かした音場で、NON DIRECTION 1、NON DIRECTION 2、BGMの3種類あります。

(図-4参照)

プレゼンスモード

F.4ch

内蔵のプレゼンススピーカーの働きでフロントスピーカーのみで7種類(ディスコ、映画館、アリーナ、教会、ジャズクラブ、スタジアム、ゲーム)の臨場感が再現できます。さらに、細かく調整して自分の好みに合った音場を作って楽しむこともできます。(図-4参照)


S.4ch

センタースピーカー、サラウンド(リア)スピーカーを接続する場合はこのモードを選びます。F.4chと同様に、7種類の臨場感が再現できます。(図-1参照)

AI LINK^{エアリンク}イコライザー効果

F.4ch、S.4chを選んだときは、7種類のプレゼンス音場に合ったイコライザーカーブが自動的に作られ、プレゼンス効果が強調されます。

DOLBY SURROUND PRO LOGIC^{サラウンドプロロジック}

 DOLBY SURROUND のマークが入ったビデオソフト/LDソフトを再生すると、映画館と同じようなドルビーサラウンド音響効果が楽しめます。(図-1、3参照)

DOLBY 3 STEREO^{ステレオ}

サラウンドリアスピーカーを設置しないときは、ドルビー3ステレオを選びます。センターの音の定位が良くなります。(図-2参照)

■ スピーカーの配置のしかた

標準的な配置

ドルビーサラウンドプロロジックモード (NORMAL、WIDE)

S.4CHモード

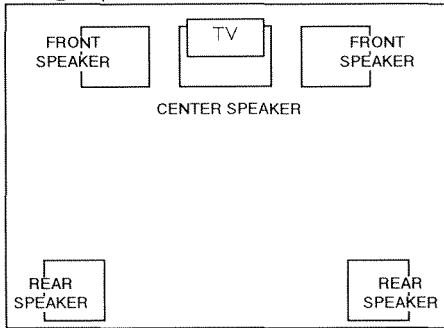


図-1

サラウンドリアスピーカーのない場合

ドルビー3ステレオモード

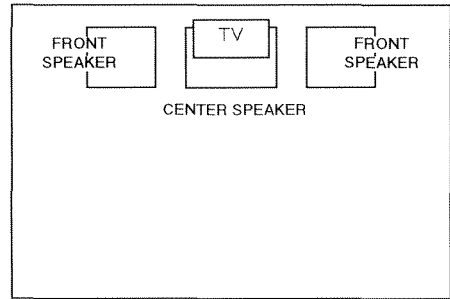


図-2

センタースピーカーのない場合

DOLBY SURROUND PRO LOGICモード (PHANTOM)

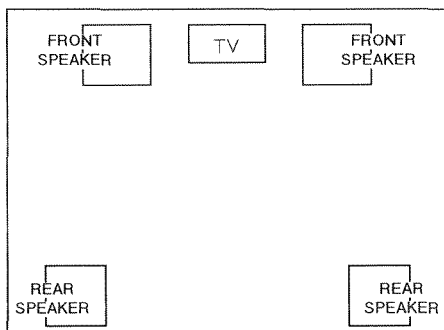


図-3

スピーカー2個の場合

F.4CHモード
アコースティックモード

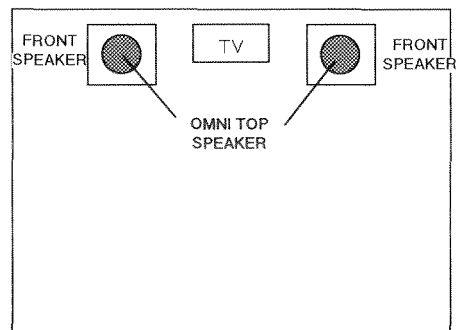


図-4

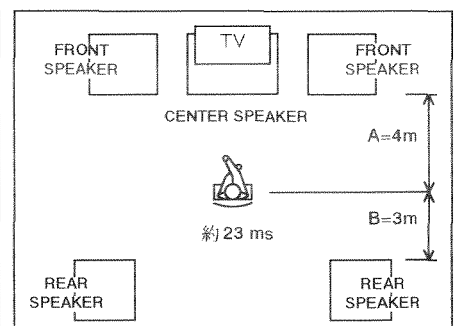
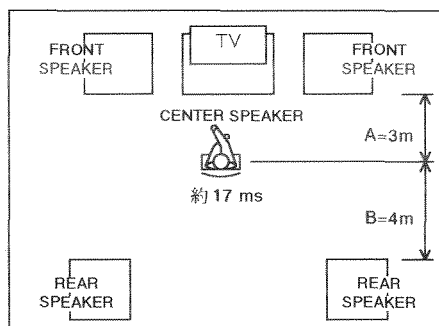
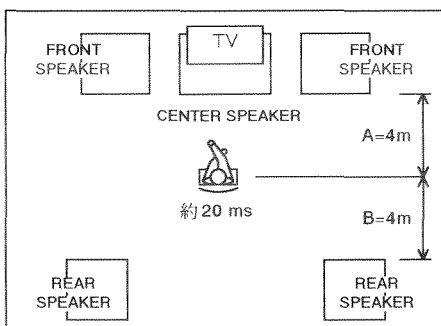
ご注意： フロントスピーカー内蔵のオムニトップスピーカーはACOUSTICおよびF.4chのときのみ出力されます。

遅延時間 (DELAY TIME) の設定のしかた DOLBY SURROUND PRO LOGICのみ

お聞きになる位置でフロントスピーカーまでの距離とサラウンドリアスピーカーまでの距離の違いにより、遅延時間の調整が必要です。下記の算出式を目安に遅延時間を調整してください。

リア(サラウンド)スピーカーの取り付け位置と、リスニングポジションにおける遅延時間の関係：

$$\text{遅延時間} = 20 \text{ ms} + 3 \text{ ms} \times (A - B) \text{ m}$$



アコースティックサウンド

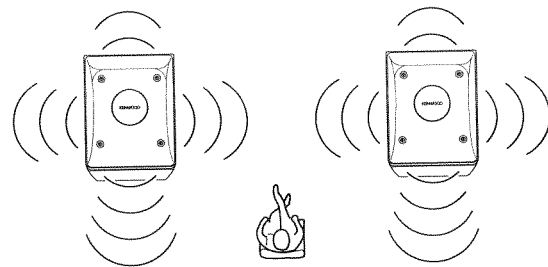
本機では、20ページでも述べましたように、スピーカーシステム上部にあります全方向性(無指向性)のオムニトップスピーカーから出てくる音に、従来のスピーカーシステムの音を加えて新しい音場を作っています。他にスピーカーシステムを加えないで本機のスピーカーシステムのみで次に述べる3種類の音場を楽しむことができます。

アコースティックモード

NON DIRECTION 1

スピーカーシステム上部のオムニトップスピーカーのみ音がでます。

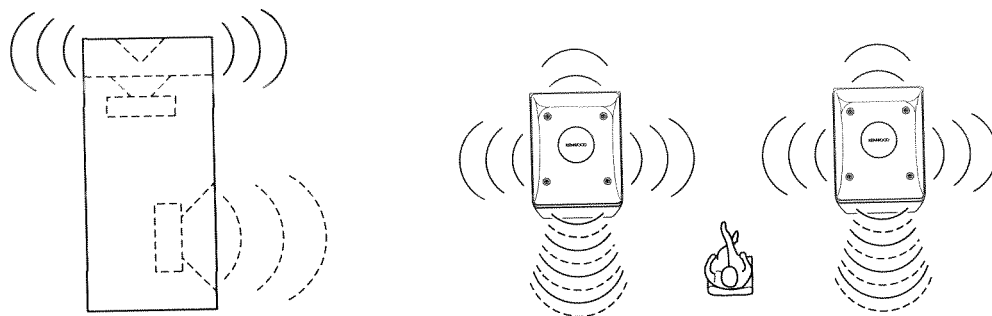
全方向性スピーカーの特徴である奥行き感、音場感を再現し、部屋全体に音楽が漂います。音楽をさりげなくリラックスした状態できたいときなど、このモードでお楽しみください。



NON DIRECTION 2

NON DIRECTION 1の音に加えて、3ウェイスピーカーシステムのウーファー部分が、豊かな重低音を再生します。

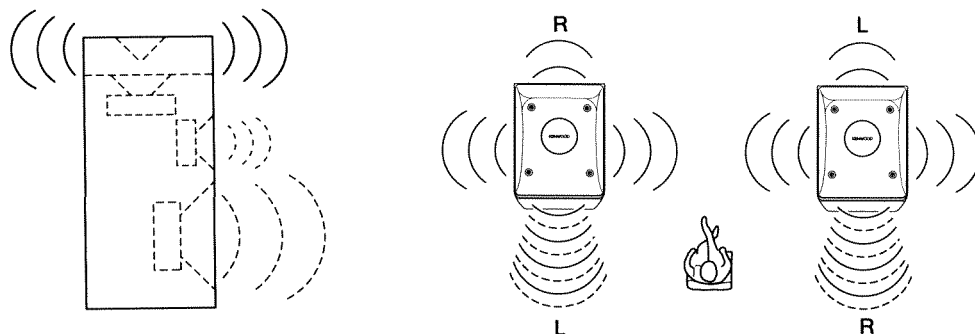
NON DIRECTION 1より、もう少しパンチのある音で楽しみたいときなどに適しています。



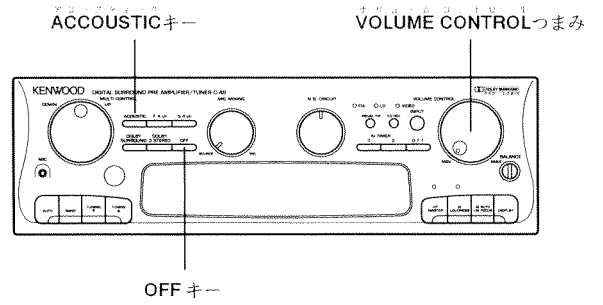
BGM

3ウェイスピーカーシステムは通常のL, R再生を行い、LchのオムニトップスピーカーからはRの音が、RchのオムニトップスピーカーからはLの音が出ます。

片方のスピーカーから、L, R両方の音が出て、ステレオとして聞けるサービスエリアが広がります。

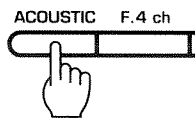


アコースティックサウンド

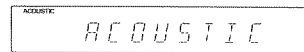


■アコースティックサウンドの再生

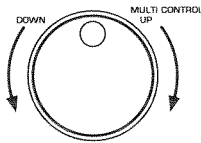
1 アコースティックモードにする



"ACCOUSTIC" 点灯



2 再生モードを選ぶ

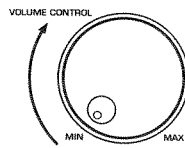


NON DIRECTION 1 ↔ NON DIRECTION 2 ↔ BGM

3 音楽を再生する

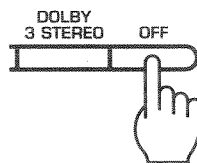
- お好みのプリセットイコライザーパターンを選びます。(34ページ参照)

4 音量を調整する



全体の音量が調整できます

ステレオ再生に戻すには



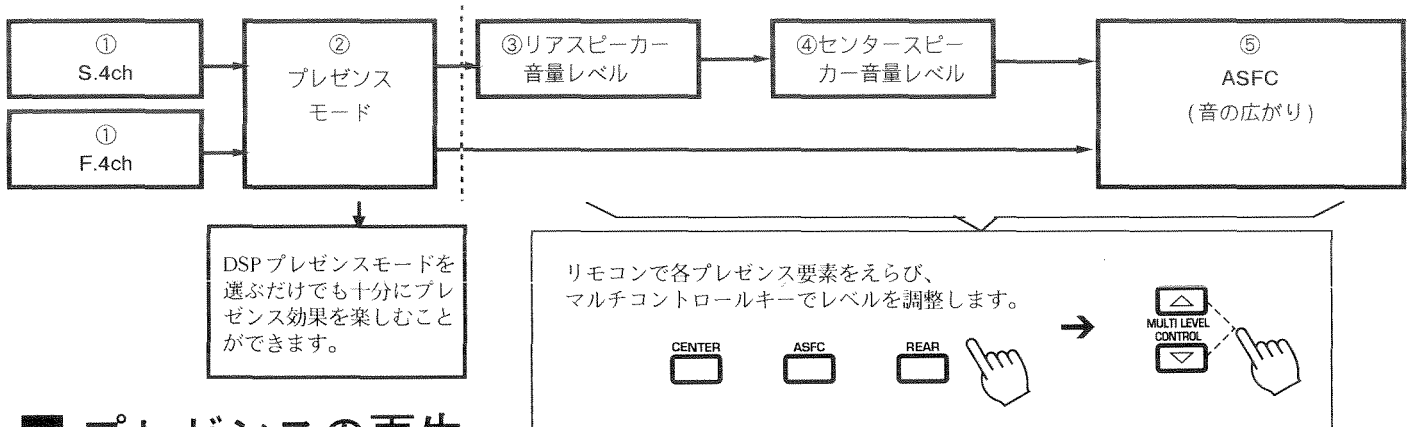
"ACCOUSTIC" 消灯



アコースティックサウンド

プレゼンス

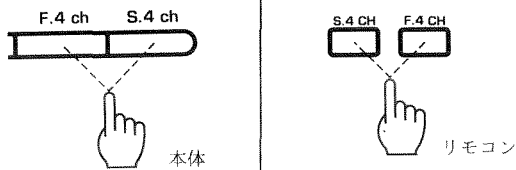
DSP(デジタルシグナルプロセッサ)により、いろいろな会場の雰囲気が楽しめます。5つの基本プレゼンス要素をそれぞれ設定できます。



■ プレゼンスの再生

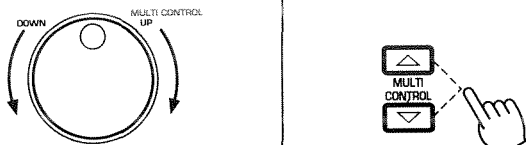
音楽を再生する

1 サラウンド条件を選ぶ

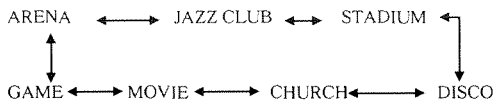


●入力切替がチューナーのとき、働きません。

2 プレゼンスモードを選ぶ



下のように切り換わります。



●プレゼンスモードの種類と効果については、25ページをごらんください。

3 リアスピーカーの音量を調整する

S.4chのときに調整

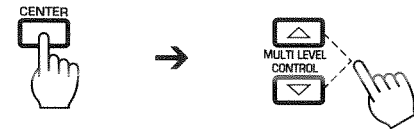
リモコンのみ



4 センタースピーカーの音量を調整する

S.4chのときに調整

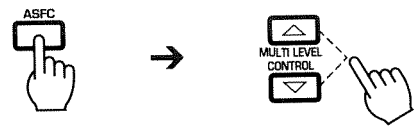
リモコンのみ



音の広がりを調節する

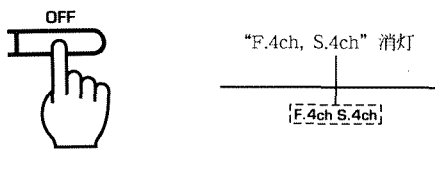
お好みの音場にする場合、調整します。

リモコンのみ



●1-7の範囲で可変します。

プレゼンスを解除するには

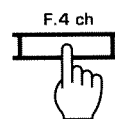


●プレゼンス再生をしないときは、必ずOFFにしてください。

プレゼンス効果を録音するには

① F.4chモードにする

② プレゼンスモードを選ぶ



③ 音楽を再生し、録音する

●CRLS, CCRSを用いて録音レベルを設定してください。

ASFC (Acoustic Surround Field Control)

音の広がりを調整し、プレゼンス効果を高めます。
(F. 4ch、S. 4chのみ)

DSP (Digital Signal Processor)

プレゼンス効果を高める残響音成分をデジタル信号に変換し、音楽ソースの音質を損なうことなく、デジタル信号の処理だけで色々なプレゼンス効果を作っているシステムです。

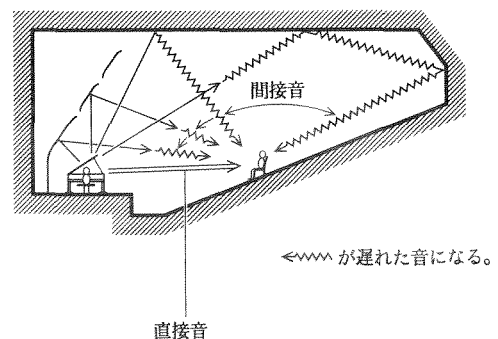
プレゼンスモードの種類と効果

ARENA	高域の反射が多く残響時間の長いホール効果を再現します。
JAZZ CLUB	シンバルの響きわたるジャズライブハウスを再現します。
STADIUM	スタジアム特有の場内反射音をPAスピーカーの音に模して雰囲気盛り上げます。
DISCOTHEQUE	心地良い残響音とグライコの併用で中高音の盛り上がったディスコ気分を再現します。
CHURCH	荘厳な教会の豊かな残響音を再現します。
MOVIE	センターは反射音を押しさえ、他のスピーカーからはゆったりとした残響音を再現します。
GAME	GAMEソフトの持っている効果音をさらに高め、臨場感や迫力のある音を再現します。

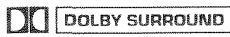
音の広がりについて (ASFC) **F.4CH、S.4CH**

図のコンサートホールのように、ステージで演奏したピアノの音は、ピアノから直接届く直接音のほかに反射板、天井、壁、後壁に二度当って跳ね返ってくる間接音、および無数に反射を繰り返して消えていく残響音とが混ざりあった合成音として聞こえます。

間接音は直接音に対して必ず遠回りの間を通ることになります。その遅れた時間を遅延時間 (DELAY TIME) といい、間接音または残響音の大きさを残響音レベル (PRESENCE) といいます。この遅延時間を伴った間接音が良い音響効果と会場の臨場感を出す重要な役目となっています。ASFCは、遅延時間と残響音レベルを同時に変えています。お好みに合ったASFCの値をお選びください。



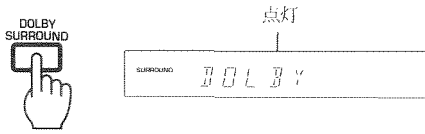
ドルビーサラウンド

 のマークの入ったビデオソフトを再生すると、映画館と同じようなドルビーサラウンド音響効果が楽しめます。

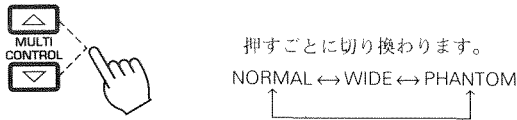
■ドルビーサラウンドの調整

リモコンのみ

1 ドルビーサラウンドモードにする



2 センターモードを選ぶ



●下記の“センターモードについて”を参照してください。

3 TEST トーンを出す



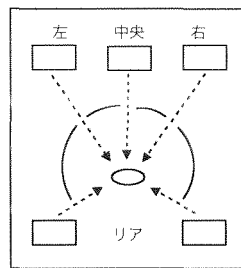
4 音量を調節する

① TEST TONE キーを押す

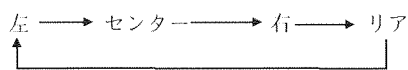


TEST TONE キーを

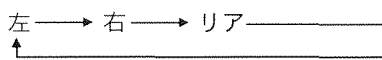
- 1回押すと2秒ごとに、(調整用)
 - 2回押すと1秒ごとに、(確認用)
- “ザー”というテストトーンが移動し、
3回目で“OFF”になります。



NORMAL および、WIDE の状態では：

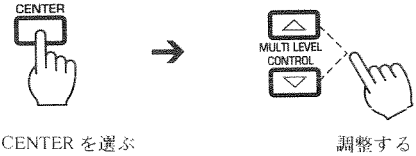


PHANTOM の状態では：



②音量を調節する

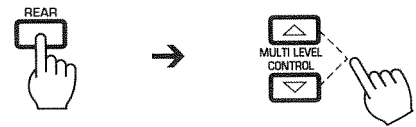
センターレベルを合わせる



CENTER を選ぶ

調整する

リアレベルを合わせる



REAR を選ぶ

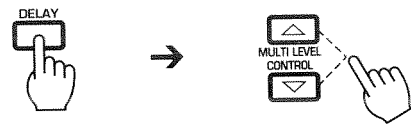
調整する

- 各スピーカーの音が同じ音量で聞こえるように調整します。
- 調整中のレベルはディスプレイに表示されます。

5 テストトーンを止める



6 遅延時間を設定する



DELAY を選ぶ

調整する

- 21ページの算出式を目安に調整します。
- 遅延時間は15ms - 30msの範囲で調整できます。
- 遅延時間はディスプレイに表示され、押すたびに1.0msステップで調節することができます。
- 一度設定した遅延時間は自動的に記憶され、再度設定しない限り、ドルビーサラウンドを選ぶ度に同じ遅延時間が表示されます。

センターモードについて

サラウンドスピーカーの形態、有り無しによってセンターモードを選んでください。

NORMAL: 小型センタースピーカーを接続したとき選びます。

WIDE: 中型以上のセンタースピーカーを接続するとき選びます。

- 中型か小型スピーカーかの判定に迷うときは、NORMAL と WIDE をそれぞれ試して、音像定位のよいほうを選んでください。

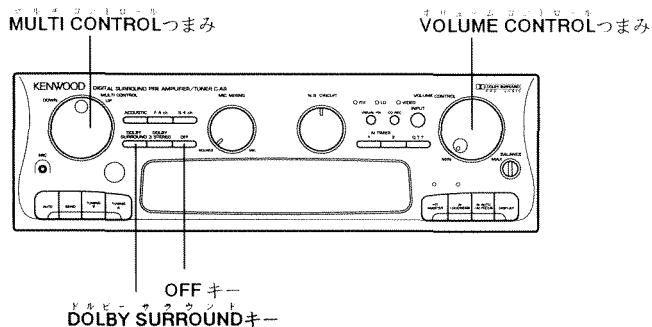
PHANTOM: センタースピーカーがないとき選びます。

- センタースピーカーがなくても、中央の定位が崩れないように疑似的に処理され、ドルビーサラウンドがたのしめます。

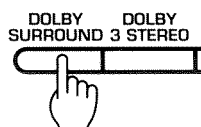
■ドルビーサラウンドの再生

DOLBY SURROUND のマークの入ったビデオソフトを再生すると、映画館と同じようなドルビーサラウンド効果が楽しめます。

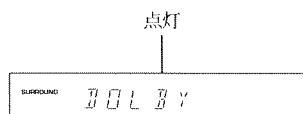
ドルビーサラウンドを再生する前に、必ず“ドルビーサラウンドの調整”をおこなってください。



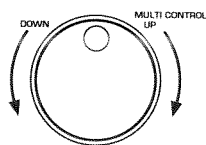
1 ドルビーサラウンドモードにする



●入力切替がチューナーのとき、働きません。



2 センターモードを確認する

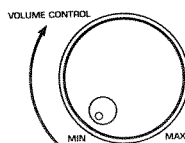


●通常は前の状態を記憶しています。もし異なる場合は、“ドルビーサラウンドの調整”手順2で設定したモードを選びます。(26ページ参照)

3 ドルビーサラウンドソフトを再生する

●本機では、インプットバランスは自動的に調整されます。

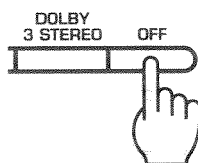
4 音量を調整する



全体の音量が調整できます。

●センター、リアスピーカーの音量バランスが悪い時は、再度“ドルビーサラウンドの調整”をやり直してください。

ステレオ再生に戻すには



ドルビーサラウンド

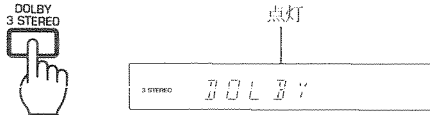
ドルビー3ステレオ

ご家庭で映画等のビデオソフトを楽しむとき、センタースピーカーを加えることによって、せりふ等の定位を良くします。

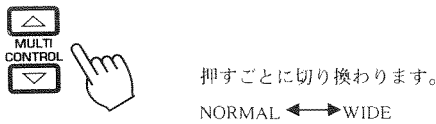
■ドルビー3ステレオの調整

リモコンのみ

1 ドルビー3ステレオモードにする



2 センターモードを選ぶ



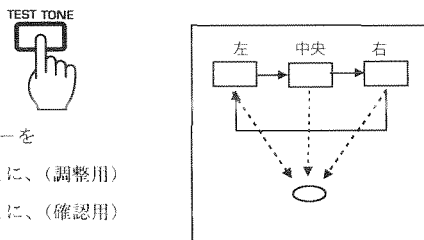
- センタースピーカーが小型の場合はNORMAL、中型以上の場合はWIDEにします。

3 TEST トーンを出す



4 センタースピーカーの音量を調節する

① TEST TONE キーを押す

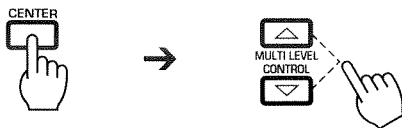


TEST TONE キーを

- 1回押すと2秒ごとに、(調整用)
 - 2回押すと1秒ごとに、(確認用)
- “ザー”というテストトーンが移動し、
3回目で“OFF”になります。

② 音量を調節する

センターレベルを合わせる

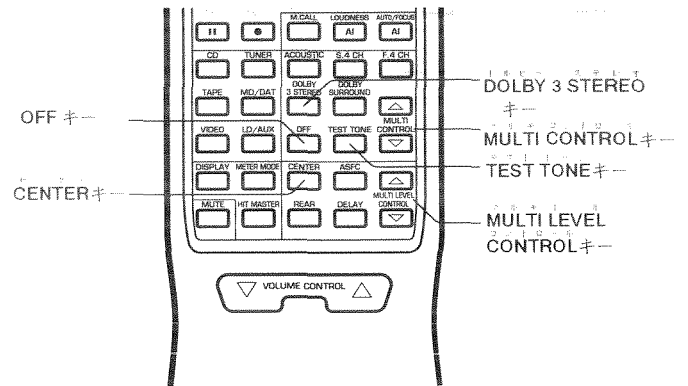


CENTER を選ぶ

調整する

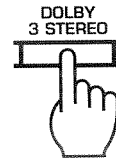
- 左右のスピーカーとセンターからの音量が同じレベルになるように調整します。

5 テストトーンを止める



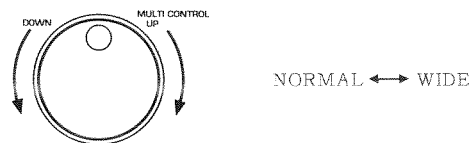
■ドルビー3ステレオの再生

1 ドルビー3ステレオモードにする



- 入力切替がチューナーのとき、働きません。

2 センターモードを確認する

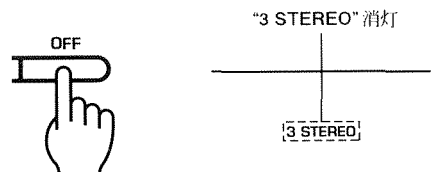


- センタースピーカーが小型の場合はNORMAL、中型以上の場合はWIDEにします。

3 ステレオサラウンドソフト、またはドルビーサラウンドソフトを再生する

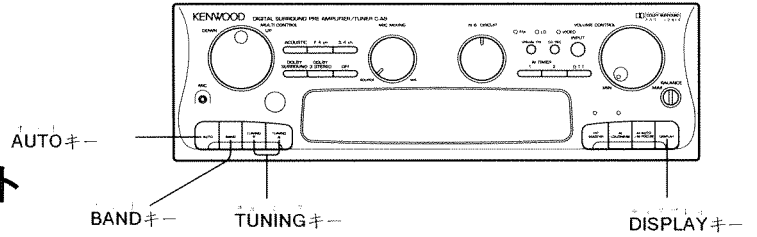
4 音量を調節する

ステレオ再生に戻すには



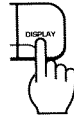
放送受信のしかた

■放送を受信し、プリセットする (記憶させる)



1 周波数表示にする

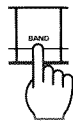
- [DISPLAY] キーを押すごとに
周波数→放送局名→プレゼンス表示→現在時刻→月日 と表示が変わります。



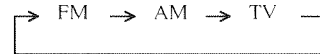
周波数表示

2 放送バンドを選ぶ

- 放送受信に関するキーを押すと表示は他の表示になっているときでも数秒間、周波数表示になります。

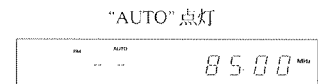
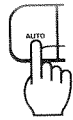


[BAND] キーを押すごとに放送バンドが切り換わります。



3 選局モードを選ぶ

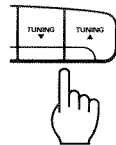
- 通常は AUTO(点灯) にしておきます。



キーを押すごとにオート選局 (AUTO 点灯) またはマニュアル選局 (AUTO 消灯) になります。

4 希望する放送局を受信する

周波数が
下がる



周波数が
上がる

- 放送局を受信すると "TUNED" が点灯する。
- 電波が弱く雑音が多いときは、マニュアルで受信してください。
このとき FM 放送は強制 MONO となります。

オート選局のとき	マニュアル選局のとき
1回押す (放送局を受信すると自動的に止まる)	希望局を受信するまで 繰り返し押す、 または、押し続ける

5 放送局を記憶させる

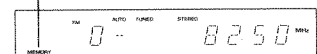
リモコンのみ

- ENTER キーを押す



- "MEMORY" が点灯しているうちに②を行います。

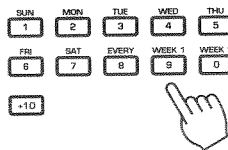
約5秒間 "MEMORY" 点灯



- 数字キーを押す

入力例:

"15" にプリセットするとき: [+10] [5]
"20" にプリセットするとき: [+10] [+10] [0]



"MEMORY" 消灯



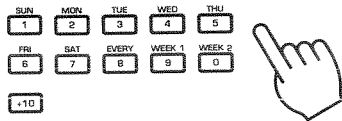
- すでにプリセットした数字キーを押すと、新しい放送局に変わります。
- プリセットを続けるときは、手順2から5までを繰り返します。
- 放送バンドに関係なく、放送局を20局記憶させることができます。

■プリセットした局を受信する

リモコンのみ

希望する放送局を選ぶ

プリセットした数字キーを押す

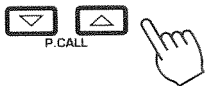


- 受信した放送局の周波数、TVチャンネルを表示します。

■プリセットした局を順にきく (プリセットコール)

リモコンのみ

P. CALL キーを押す



- Δ (UP) を押すごとに 1→2...19→20→1...、 ∇ (DOWN) を押すごとに、20→19...2→1→20... の順でプリセットされている放送局を受信します。
- キーを押し続けると、プリセットされている放送局を0.5秒間隔で受信します。手を離れたときの放送局をそのまま受信します。

■数字入力で受信する

放送局の周波数わかっているとき、数字キーで直接入力し、受信することができます。

リモコンのみ

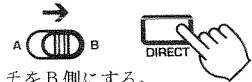
1 放送バンドを選ぶ

FM, AM, TV のいずれか



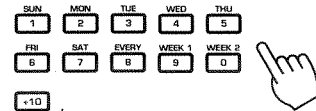
A/B 切換スイッチを A 側にする。

2 DIRECT キーを押す



A/B 切換スイッチを B 側にする。

3 受信したい周波数または TV のチャンネルを数字キーで入力する



入力例

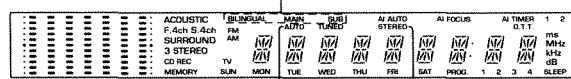
受信したい局	数字キーを押す順序
AM 810 kHz	8 1 0
AM 1242 kHz	1 2 4 2
FM 80 MHz	8 0 0
FM 82.5 MHz	8 2 5
TV 1チャンネル	0 1
TV 8チャンネル	0 8
TV 12チャンネル	1 2

- 途中で間違えたときは、**CLEAR** キーを押し、やり直してください。
- 間違った周波数を入力すると、ディスプレイが点滅します。正しい周波数を入力し直してください。

AUTO キーの使いかた



バイリンガルモード表示



キーを押すごとに表のように切り換わります。

AUTO 表示 STEREO 表示

TVの音声多重放送を受信しているとき				FM・TVのステレオ放送を受信しているとき		
点灯する表示			きこえる音声	点灯する表示	きこえる音声	
TV	BILINGUAL	MAIN SUB	AUTO	左スピーカーから主音声 右スピーカーから副音声	AUTO STEREO	ステレオ
TV	BILINGUAL	MAIN ---	AUTO	左右スピーカーから主音声		
TV	BILINGUAL	--- SUB	AUTO	左右スピーカーから副音声		
TV	---	MAIN ---	---	左右スピーカーから主音声	---	モノラル

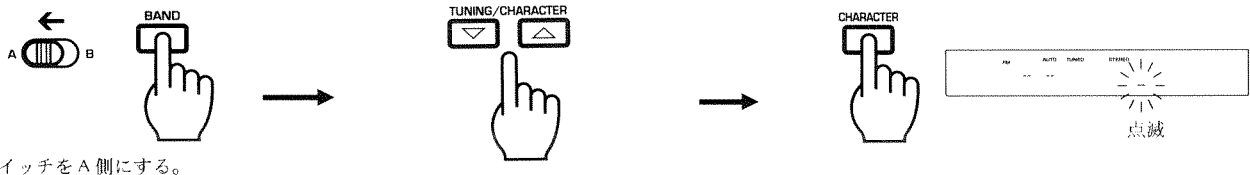
■放送局名を表示させる

リモコンのみ

文字や記号などを最大4文字まで表示できます。

例: FM 83.4 MHzを受信し、“CBE”と文字を入力し、数字キーの **3** にプリセットするとき。

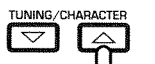
1 FM 83.4 MHzを受信し、文字入力待ち状態にする



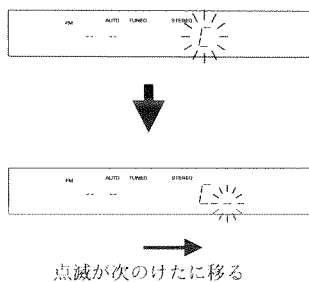
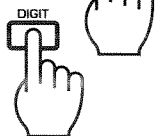
A/B 切換スイッチをA側にする。

2 表示したい文字を入力する

①表示する文字を出す



②確定する



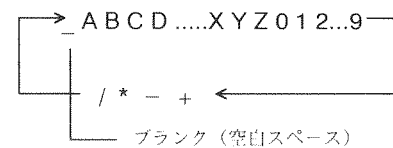
点滅が次のけたに移る

③手順①、②をくり返し、必要な文字を入力します。

- “C”を入力するときはUP側を3回押します。
- スペースのときは、**DIGIT** キーを押します。

入力できる文字の種類

CHARACTER キーを押したあと
TUNING / CHARACTER キーを押すと、
文字が表示できます。

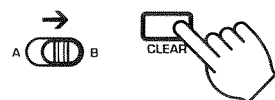


3 文字入力を終了する

4文字入力した時は自動的に終了します。



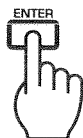
3文字以内で終了するときは確定後 **CHARACTER** キーを押します。



途中で間違えたときは、**CLEAR** キー
を押し、1けた目からやり直します。

4 数字キーの **3** に記憶させる

① ENTER キーを押す



“MEMORY” が点灯



②数字キーで **3** を選ぶ



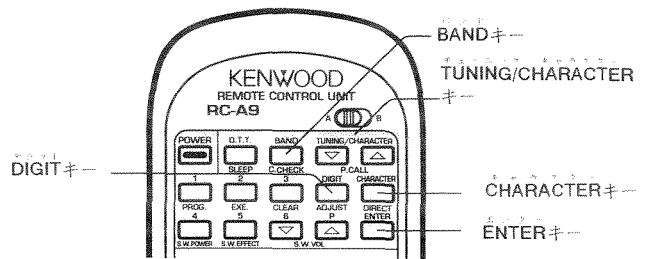
(**DISPLAY** キーを押して放送局名表示にしたときの例)

“MEMORY” が点灯しているうちに押す

■放送局名を変更する

リモコンのみ

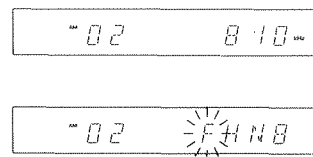
例：数字キーの **2** にメモリーされている、“FHN 8”
という AM810kHz の局名を“FEN”に変更するとき。



1 **2** をプリセット選局し、文字入力待ち状態にする



A/B 切換スイッチを A 側にする。



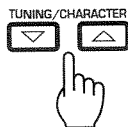
2 点滅を次のけたに移す



点滅が次のけたに移る



3 TUNING/CHARACTER キーで、“E”を選ぶ



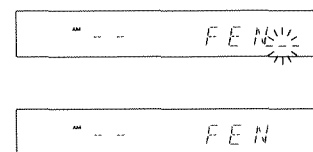
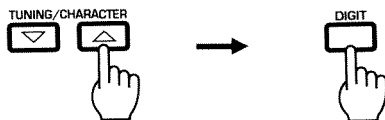
4 点滅を2けた移す



2 回押す



5 TUNING/CHARACTER キーで、空白を選ぶ



● 4文字目の入力が終了すると自動的に文字入力終了になります。

6 数字キーの **2** に記憶させる

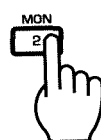
① ENTER キーを押す



“MEMORY”点灯

② 数字キーで **2** を選ぶ

“MEMORY” が点灯しているうちに押す。



“MEMORY”消灯

([DISPLAY] キーを押して放送局名表示にしたときの例)

グラフィックイコライザーの操作

本機では準備された7つのイコライザーカーブでの音響補正ができるだけでなく、次のような^{エーアイ}AI (人工知能)機能により、音楽ソースに適した音質で聴くことができます。

1. AI-AUTO (CD専用)

ディスクの収録内容を自動的に確認、分析し、そのディスクに適したイコライザーカーブで再生します。

2. AI-FOCUS (CD専用)

プレゼンスモード時：ディスクの記録内容に適したASFCの値(1~7)と、イコライザーカーブが自動的に設定され、その場にいるような臨場感をつくりだします。

アコースティックモード時：ディスクの記録内容に適したイコライザーカーブが自動的に設定され、自然な音の広がりををつくりだします。

3. AI-LOUDNESS

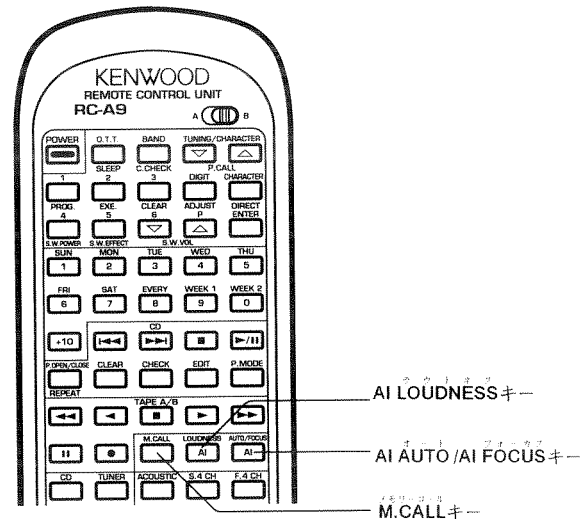
ボリューム位置に対応し、低域が増強されます。小音量時に効果的です。

4. プリセットパターンモード

5つのプリセットパターン、およびカーステレオで再生するための録音用に“CAR AUDIO”、ヘッドホンステレオで再生するための録音用に“HP STEREO”、が登録されています。

5. AI-LINK

プレゼンスモードを選ぶと、そのモードに最適なイコライザーカーブが自動的に選ばれ、プレゼンス効果を高めます。



ドルビーサラウンド、プレゼンスキーについて

20~28ページの“プレゼンスについて”をお読みください。

ヒットマスター
HIT MASTERキーについて

58ページの“簡単にカラオケを楽しむには”をお読みください。

AI: ^{アーティフィシャルインテリジェンス}Artificial Intelligenceの略。ソースや音楽のジャンルに合わせて、人工知能が自動的に音質を調整します。

■プリセットイコライザーパターンの使いかた

7通りのイコライザーパターンを手軽に呼び出すことができます。

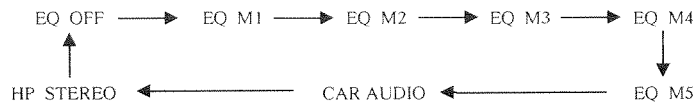
リモコンのみ

1 音楽ソースを再生する

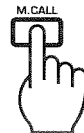
2 イコライザーパターンを選ぶ



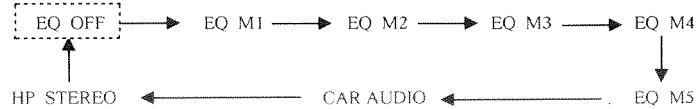
押すごとに図のように切り換わります。



イコライザー効果を解除するには
“EQ. OFF”



押すごとに図のように切り換わります。



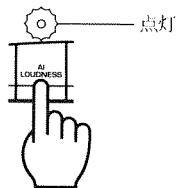
■イコライザーパターン一覧表

M1 : (ソフト 1)		:BGMなど、耳に優しい音で聞きたいとき。(ポピュラー音楽)
M2 : (クリアー)		:低音を抑えた、きらめくような音で聞きたいとき。(ポピュラー音楽)
M3 : (スケール 1)		:よりエキサイティングな音で聞きたいとき。
M4 : (ソフト 2)		:オーケストラなどの音楽を、耳に優しい音で聞きたいとき
M5 : (スケール 2)		:オーケストラなどの演奏を、広がりを持たせて聞きたいとき。
CAR AUDIO		:カーステレオ用に音質を調整して録音するとき。
HP STEREO		:ヘッドホンステレオ用に音質を調整して録音するとき。

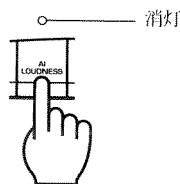
■ AI LOUDNESS の使いかた

音量が小さいときの低音不足を自動的に補います。

AI LOUDNESS 効果をかける



AI LOUDNESS を解除するには
もう一度押す



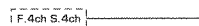
■ AI AUTO の使いかた (CD 専用)

プレゼンスが OFF のとき、AI AUTO/AI FOCUS キーを押すだけで、そのディスクに合ったイコライザーカーブが自動的に設定されます。

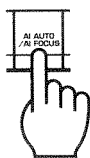
1 CD プレーヤーにディスクを入れる



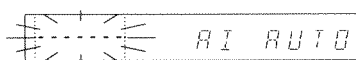
プレゼンス表示 (F.4ch、S.4ch) が消えていることを確認する。



2 AI AUTO/AI FOCUS キーを押す



CD のサンプリング中



"AI AUTO" と表示

約 30 秒後、終了し、停止する



グラフィックイコライザー表示

- "AI AUTO" が点灯するまで約 30 秒間お待ちください。

CD プレーヤーが自動的に再生を始めます

ご注意:

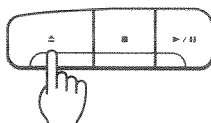
AI AUTO 設定中は、AI AUTO/AI FOCUS キー以外は機能しません。

AI AUTO を解除するには



2回押す

または

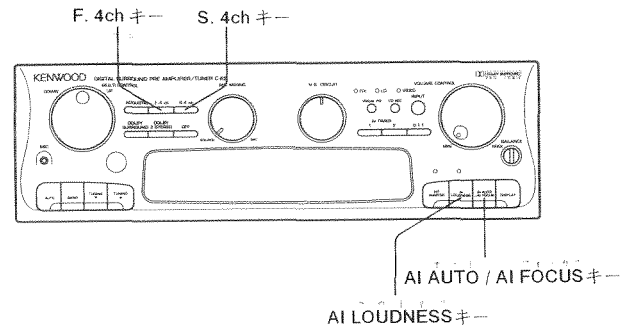


CD プレーヤーのトレイ開閉キー

AI AUTO 消灯



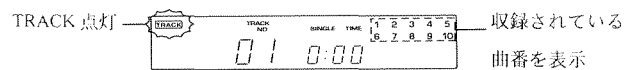
- AI AUTO 設定中に解除すると、M.CALL キーで呼び出した最後のパターンが表示されます。



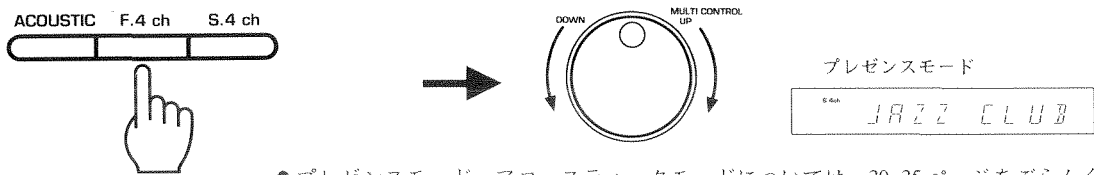
■ AI FOCUS の使いかた (CD 専用)

プレゼンスモードを選び、AI AUTO/AI FOCUS キーを押すだけで、そのディスクの収録内容に適した、ASFCの値 (プレゼンスモードの時)、イコライザーカーブが自動的に設定されます。

1 CDプレーヤーにディスクを入れる

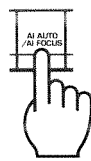


2 プレゼンスモードまたはアコースティックモードを選ぶ

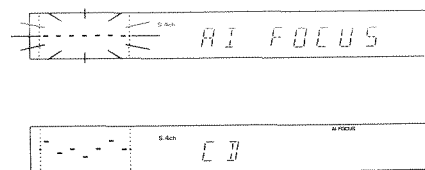


● プレゼンスモード、アコースティックモードについては、20~25 ページをごらんください。

3 AI AUTO/AI FOCUS キーを押す



プリアンプ/チューナーの表示

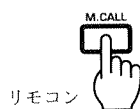


- “AI FOCUS” が点灯するまで約 30 秒間お待ちください。
- 選ばれたプレゼンスモードに対応した ASFC の値 (プレゼンスモードのとき)、イコライザーカーブが設定されます。
- CD プレーヤーが自動的に再生を始めます。

ご注意:

AI FOCUS 設定中は、**AI AUTO/AI FOCUS** キー以外は機能しません。

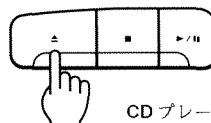
AI FOCUS を解除するには



リモコン

2 回押す

または

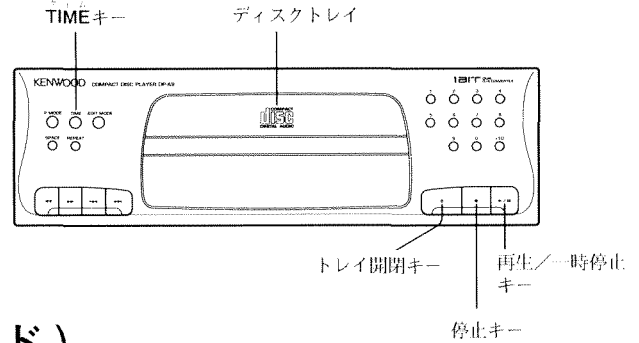


CD プレーヤーのトレイ開閉キー

“AI FOCUS” 消灯

- AI FOCUS 設定中に解除すると、**M.CALL** キーで呼びだした最後のパターンが表示されます。
- AI FOCUS 設定終了後に解除すると、カーブは AI LINK のカーブまたは、**M.CALL** キーで呼びだした最後のカーブになります。

CDのききかた

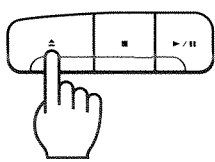


■ CDを初めからきく (トラック トラックモード)

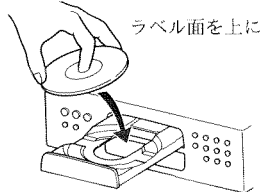
1 アンプの入力切換をCDにする

2 ディスクを入れる

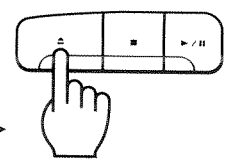
①トレイを開ける



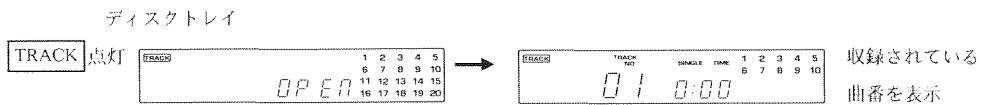
②ディスクを入れる



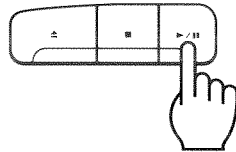
③トレイを閉める



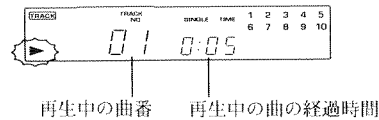
- 再生面に触れないように持つ。
- ディスクは必ず1枚だけ入れる。



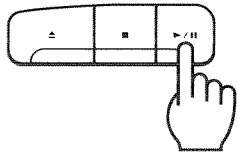
3 再生を始める



- 数秒後に1曲目から再生します

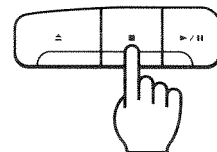


一時停止するには



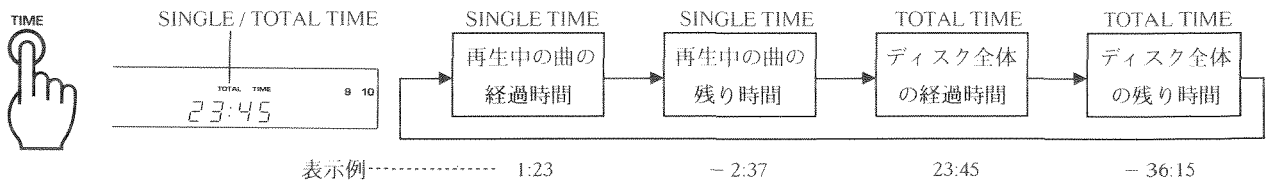
再生に戻るときは、もう一度▶/IIキーを押す

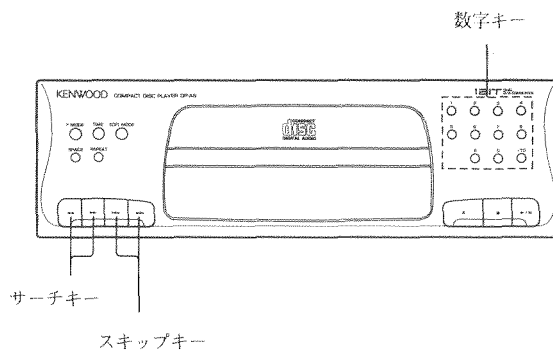
再生を止めるには



TIME キーについて

再生中の曲の経過時間・残り時間を知りたいときは、**TIME**キーを押してください。押すごとに、ディスプレイは下の図のように切り換わります。ただし、44曲目以降の曲の再生のときは、SINGLE TIMEの残り時間表示が“—:—”になります。





好きな曲からきく

スキップキーで選ぶ

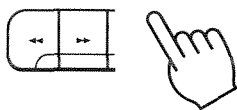
飛び越したい方向のスキップキーを押す



- 押した方向に飛び越し、選んだ曲の頭から再生します。
- 再生中に を1回押すと、再生している曲の初めに戻り、もう一度同じ曲をきくことができます。

サーチキーで選ぶ

早送り・早戻ししたい向きのサーチキーを押す



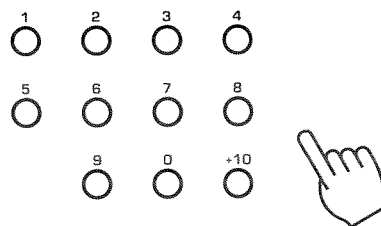
- 押し続けると、さらに早くなります。
- 手を離れたところから再生します。

数字キーで選ぶ

1 TRACKモードであることを確認する

- **PGM** が点灯しているときは **P. MODE** キーを押します。

2 ききたい曲番を選ぶ



入力例

23 曲目:

+10	+10	3
-----	-----	---

40 曲目:

+10	+10	+10	+10	0
-----	-----	-----	-----	---

- 選んだ曲以降を再生します。

ご注意:

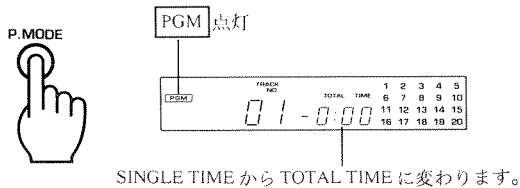
1. トレイを開けた状態でディスクにない曲を選ぶとディスクの最後の曲を再生します。
2. トレイを閉めたあと、または再生が始まってからでは、存在しない曲は受け付けません。

好きな曲を好きな順番できく (PGM モード)

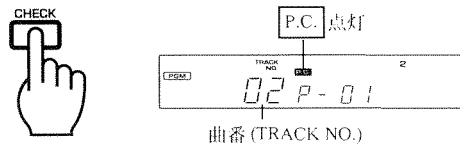
プログラム

1 PGMモードにする

P. MODE キーを押す

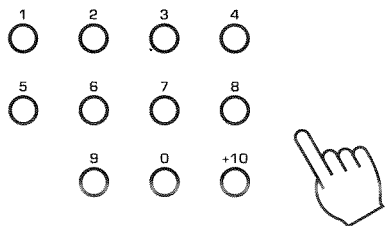


選曲の順番を確認するには リモコンのみ



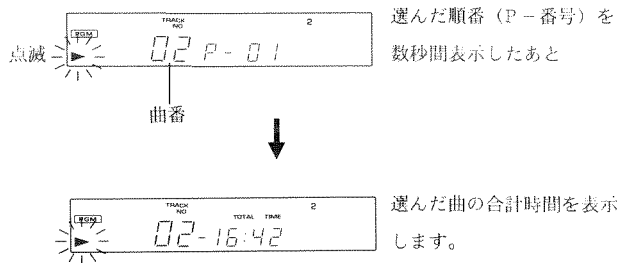
- 押すごとに選んだ順番 (P-番号) と曲番を表示します。
- 数秒後に元の表示に戻ります。

2 好きな曲を順に選ぶ



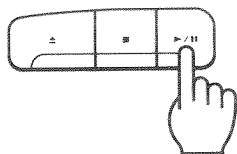
入力例

2、5、25 曲目を選ぶ: 2 5 +10 +10 5



- 20 曲まで選べます。21 曲になると "FULL" と表示します。
- 間違えたら、CLEAR キーを押して、選び直してください。
- トレイを開けた状態で、ディスクラベルを見ながら選ぶこともできます。
- 曲番 44 以降を選んだ場合は、ディスク全体の残り時間を表示しません。

3 再生する



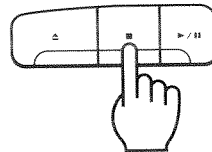
- 選んだ順 (P-番号) に再生します。
- 再生中にスキップキー ▶▶ または ◀◀ を押すと、押した方向へ飛び越します。

曲番順の再生にするには



- 再生中の曲から曲番順の再生に戻ります。

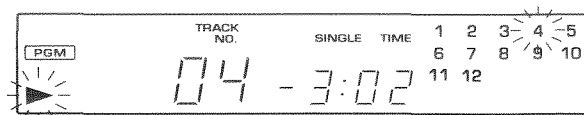
再生を止めるには

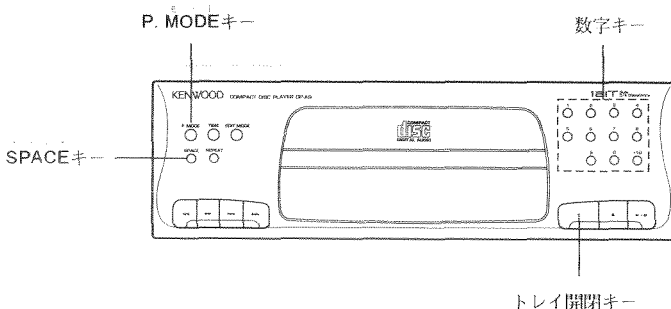
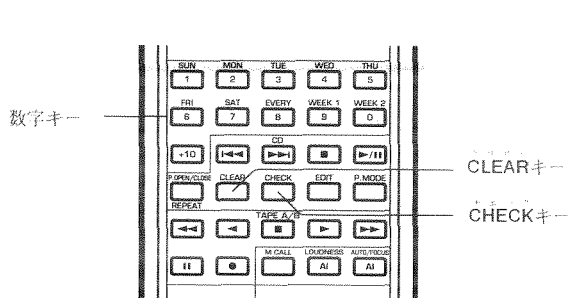


曲ごとの再生時間を知るには

PGM モードで、停止中にスキップキー ▶▶、◀◀ を押すと、1 曲目から順に再生時間が表示されます。

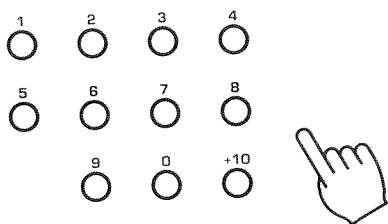
- 数秒後に元の表示に戻ります。





■ 選ぶ曲を追加する

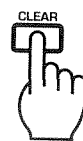
追加したい曲番を選ぶ



■ 選んだ曲を取り消す

後ろから順に消していく

リモコンのみ

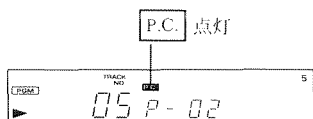


- 1回押すごとに最後の曲から1曲ずつ消えていきます。

■ 選んだ曲を変更する

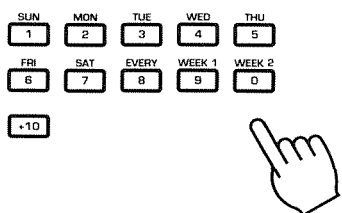
リモコンのみ

1 CHECK キーを押す



変更したい曲番号になるまで繰り返し押す

2 変更する曲番を押す

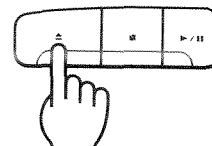


P.C. の点灯中に押す

- 再生している曲は変更できません。

全部消す

どちらかを押す

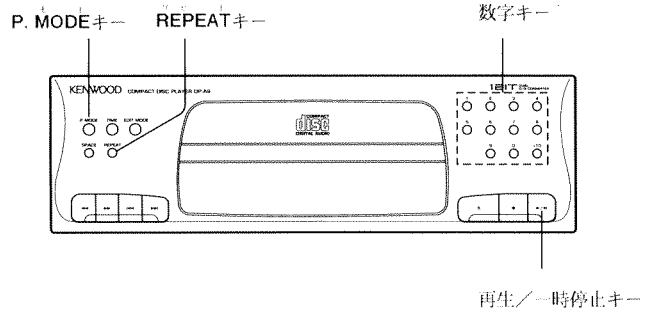


オートスペース機能について

PGMモードのとき **SPACE** キーを押すと、曲と曲の間に約4秒間の音のない部分が自動的に作られます。これはカセットデッキのDPSSのためのものですが、クラシック音楽や、ライブ音楽など、曲と曲がつながっているものでも無録音部分を作ることがあります。



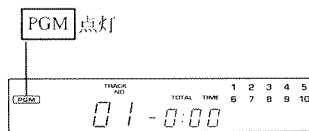
- 総所要時間表示は、スペース時間を加えた表示になります。
- 解除するときは、再度 **SPACE** キーを押します。



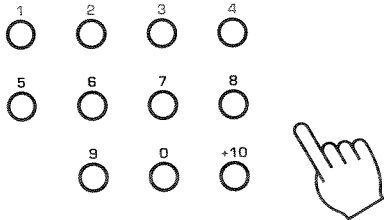
■ 繰り返しきく (リピートプレイ)

選んだ曲の繰り返し

1 PGMモードにする

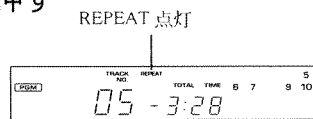


2 好きな曲を選ぶ

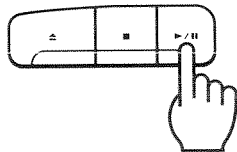


- 選んだ曲全部を繰り返します。
- 一曲を選んだ場合は、その曲だけを繰り返します。

3 REPEATキーを押す

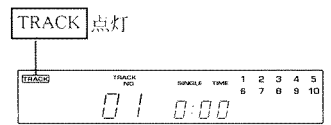


4 再生する

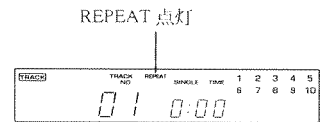


ディスク全部の繰り返し

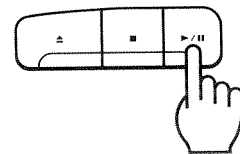
1 TRACKモードにする



2 REPEATキーを押す



3 再生する



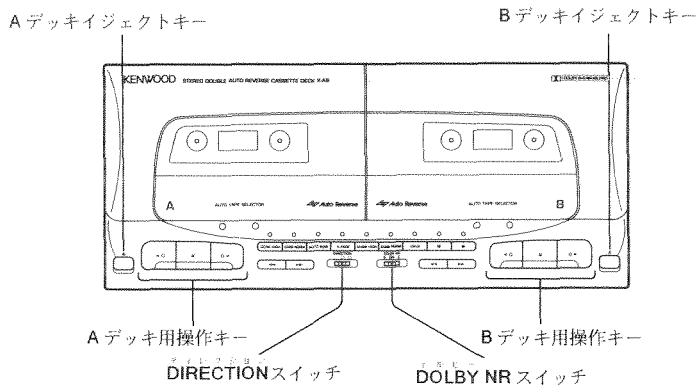
普通の再生に戻るには

REPEATキーを再度押す



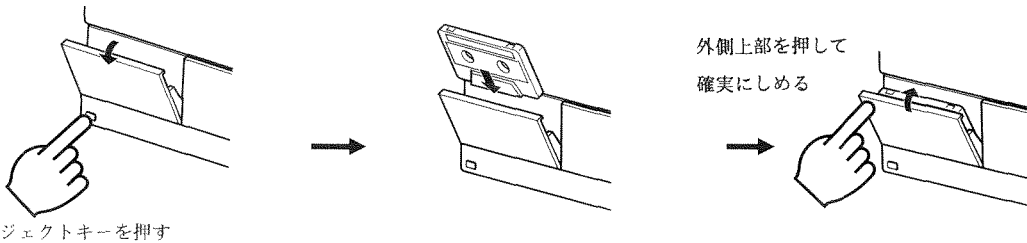
- CDプレーヤーのモードに従った再生になります。

カセットテープのききかた



■テープの再生

1 カセットテープを入れる



- ノーマル、クローム、メタルのテープ選択は自動設定されます。
- テープはたるみのない状態にして入れてください。

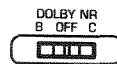
2 再生条件を決める

①再生モードの選択



エンドレス再生をする ∞
両面を再生して止まる ⇄
片面のみを再生して止まる 二

② DOLBY NR の選択



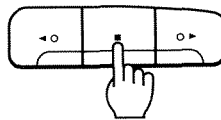
テープに合わせて選ぶ

3 再生する



再生を止めるには

- テープが完全に停止するまで、イジェクトキーを押さないでください。



ドルビーノイズリダクション [NR] システムについて

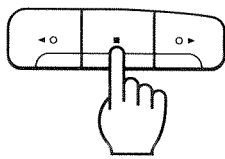
ドルビーNRシステムは、テープ再生の際に発生する“サー”というテープヒスノイズを、聴感上、極力小さくするためのシステムです。ドルビーNRシステムは、録音時と再生時とが同じ方式を使用することで初めて効果が得られます。異なった方式で再生すると正しい音質での再生音が得られません。必ず録音時と再生時のドルビーNR方式を合わせてください。

ドルビーB NR: 一般普及型のドルビーNR方式として、一般家庭用機器でドルビーNRシステムといえばドルビーB NRを指します。
ドルビーC NR: ドルビーB NRに比べ、さらに優れたノイズ低減効果が得られます。本機だけで録音再生するときはドルビーC NRの利用をおすすめします。

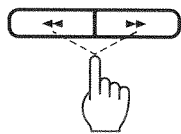
ドルビーNRシステムで録音したテープには“B”“C”の区別を明記しておきましょう。

■早送りのしかた

1 再生を止める

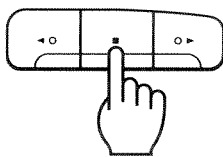


2 ◀◀キー、または▶▶キーを押す



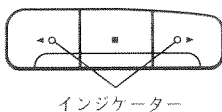
◀◀: ◀方向に早送りする ▶▶: ▶方向に早送りする

早送りを止めるには

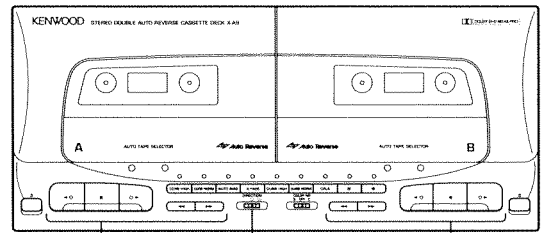


走行方向表示

再生、または録音するテープが進む方向を再生キー ◀ ▶ のインジケータの点灯で示します。最後にテープを止めたときの方向が、電源を切ってもそのまま保持されます。イーザーオペレーション等で自動スタートするとき表示の方向にスタートします。走行方向を変えて止めたいときは、反対向きの再生キーを押してから止めてください。



インジケータ



Aデッキ操作キー

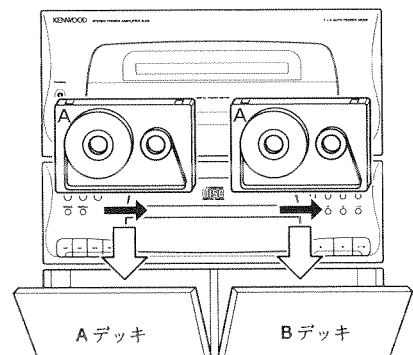
DIRECTIONスイッチ

Bデッキ操作キー

■リレー再生のしかた

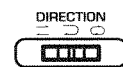
A、B両デッキに入れたテープを交互に繰り返し再生します。

1 テープを入れる



●テープは走行方向表示と同じ向きの面を再生します。

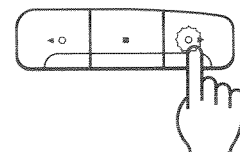
2 再生モードを選ぶ



- コ--- A、Bデッキの両面を繰り返し再生します。
- ニ--- A、Bデッキの片面のみを繰り返し再生します。

●◦になっているとリレー再生になりません。

3 再生する

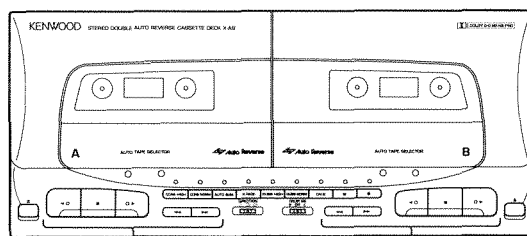
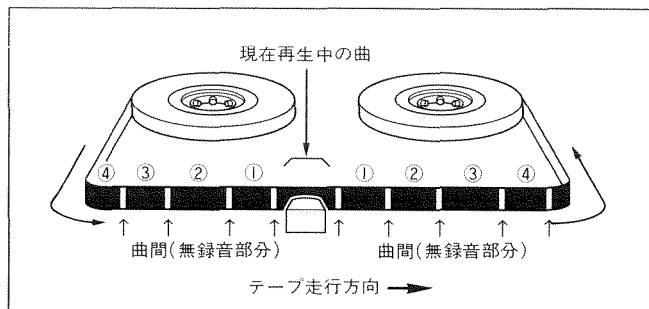


●押したほうのデッキから再生を始めます。

DPSS の使いかた

DPSS (Direct Program Search System) 機能により、操作キーで指示を与えると、以下のような便利な使いかたができます。(両デッキ同時にはできません) DPSS は曲と曲の間の 4 秒以上の無録音部分を検出して機能します。

1. 飛越選曲 : 再生中に数曲先の曲(または前の曲)を選ぶと、途中の曲を飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。最大 16 曲まで飛越選曲することができます。
2. 1 曲リピート再生 : 同じ曲を 16 回繰り返し再生します。
3. 巻戻し再生 : テープを巻き戻し、テープの初めから再生します。
4. ダッシュ&プレイ : テープの途中に 10 秒以上の無録音部分があると、その間を早送りしながら、繰り返し再生します。



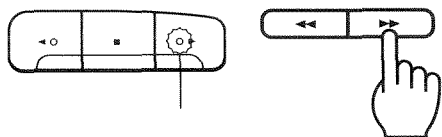
A デッキ操作キー

B デッキ操作キー

飛越選曲

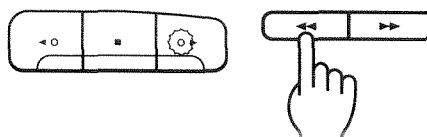
下の図は走行方向表示が▶のときの例です。走行方向表示の向きが◀のときは、いずれの場合も図とは反対方向のキーを押します。

1 曲先の曲をきくとき



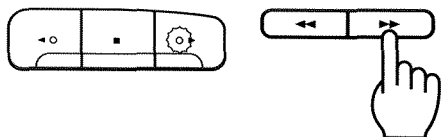
再生中に 1 回押す

再生中の曲を初めからきくとき



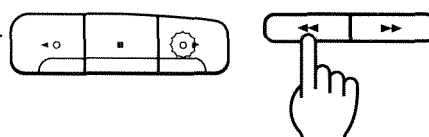
再生中に 1 回押す

4 曲先の曲をきくとき



再生中に 4 回押す

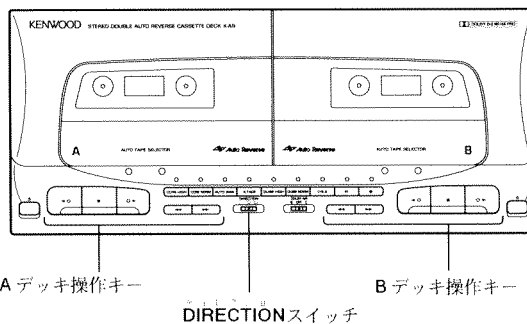
4 曲前に戻してきくとき



再生中に 5 回押す

次のようなテープでは、DPSS は正常に動作しません

- 会話、落語などで、音声 が 4 秒 ぐ ら い 途 切 れ る テー プ。
- クラシック音楽など、曲のなかで極端にレベルの低い部分や、無録音部分があるテープ。
- 曲間に大きな雑音などが録音されているテープ。
- 曲間が 4 秒未満のテープ。
- 低いレベルで録音されたテープ。
- X.FADE 録音されたテープ。



■ 巻戻し再生

リモコンではできません。

走行方向表示の向き：▶

同時に押す

点灯

走行方向表示の向き：◀

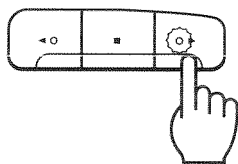
同時に押す

■ 1曲リピート再生

1 繰り返したい曲を再生する

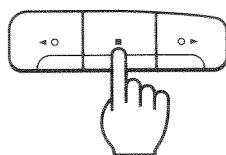
2 同じ方向の再生キーを押す

走行方向表示の向き：▶



- 同じ曲を16回繰り返したあと、通常の再生に戻ります。

途中で解除するには



- 再生が停止します。

■ ダッシュ&プレイ

無録音部分を自動的に早送りして再生します。

リモコンではできません。

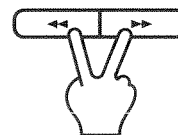
1 再生モード(条件)を決める



- “∞”のとき……両面8回繰り返し再生して停止する。
- “□”のとき……両面1回のみ再生して停止する。
- “◻”のとき……片面のみ8回繰り返し再生して停止する。

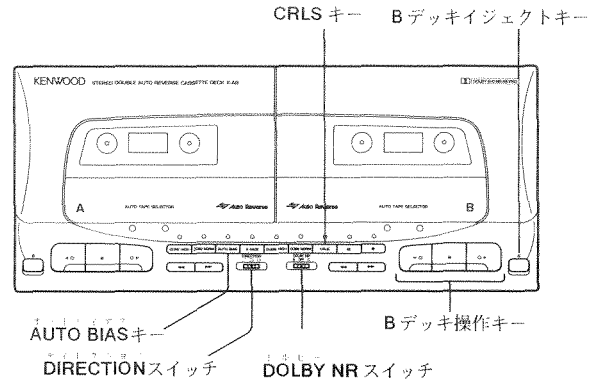
- “◻”のときテープが両方のデッキに入っているときは、片方のデッキがダッシュ&プレイを終えると、他方のデッキがダッシュ&プレイを始め、16回繰り返し再生して停止します。

2 ◀◀キーと▶▶キーを同時に押す



録音のしかた (Bデッキのみ)

本機はDOLBY HX Pro headroom extensionとオートバイアス機能により、高域特性の優れた録音ができます。



■普通の録音

1 カセットデッキの準備をする

① Bデッキにテープを入れる

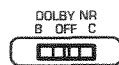
② 走行方向を合わせる

③ 録音する面を選ぶ

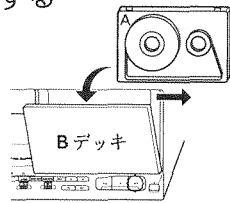


コ：両面録音のとき
ニ：片面録音のとき

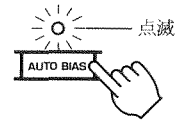
④ DOLBY NRを選ぶ



● マイクを使用しないときはMIC MIXINGつまみを左いっぱいに戻しておいてください。



3 オートバイアスの設定をする

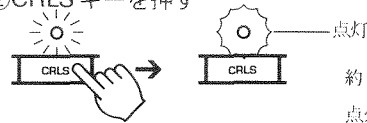


- 約45秒で適正バイアス値が設定され、停止します。
- バイアス調整中に解除したいときは、停止キーを押します。
- オートバイアスの設定は省略しても録音できます。

4 録音レベルを合わせる

① 音楽ソースを再生する

② CRLSキーを押す



約20秒後、レベル合わせ完了。
点灯するまでお待ちください。

- 録音待機状態になります。
- 点滅中に録音キーを押すと、録音された音がひずむことがあります。
- 点滅中に[CRLS]キーを押すと、その時点でレベル合わせを中断し、録音待機状態になります。
- [CRLS]キーを押して約5秒以内にソースの音が入ってこないとき、録音レベルの設定は中断します。

2 録音する音楽ソースを選ぶ



TAPE以外の音楽ソースを選びます。

イコライザー効果をかけるときは

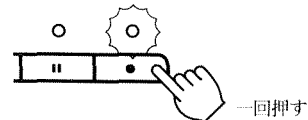
49ページ参照

- カーステレオ、ヘッドホンステレオ用の録音をするときは、CAR STEREO, HP STEREOを選びます。(34ページ参照)

5 録音を始める

① 音楽ソースを初めから再生する

② 録音キーを押す



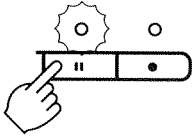
- 録音が始まります。
- 録音する面が終了すると自動的に停止します。

オートバイアス機能とは

ノーマル、クロームテープには普及品から高級品まで幅広い種類があり、特性も様々ではありません。本機にはどんな種類のノーマル、クロームテープにも適した録音をするためのオートバイアス機能があります。ノーマル、クロームテープのときは、オートバイアスのご使用をおすすめします。

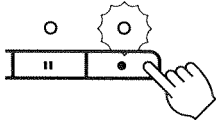
- オートバイアス調整中は、Aデッキの[▶▶]キー、[◀◀]キー、[■]キー、Bデッキの[■]キー以外は働きません。
- テープの残量が少ないときは、オートバイアスの調整が途中で解除され、停止することがあります。
- オートバイアスはBデッキのイジェクトキーを押すと解除されます。

■録音を一時停止する



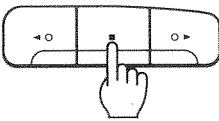
●インジケーターが点灯します。

録音を再開するには



■録音を止める

1



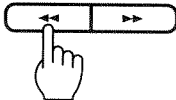
2 音楽ソースを止める

■録音をとり直しする

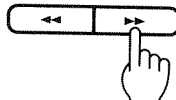
曲の途中で録音をとり直すときに便利です。
録音開始位置の前に約4秒間の無録音部分が必要です。

1 録音を中止し、巻き戻す

▶方向録音中は



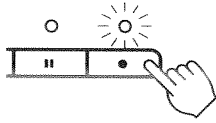
◀方向録音中は



●録音は中止され、録音中の曲の最初まで戻り、前の曲から約2秒間の無録音部分を送った後、停止します。

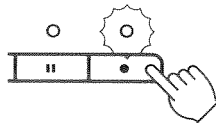
2 録音を開始する

①録音キーを2回押す



●約4秒間の無録音部分を作って止まります。

②録音キーを1回押す



●録音が始まります。

CRLS キーについて

Computer controlled Recording Level System:

音楽ソースのレベルを約20秒間サンプリングし、自動的に適切な録音レベルを決める機能です。

- **CRLS** キーを押し忘れても..... 基本録音レベルで録音できます。
各入力切替キー共通の基本録音レベルが出荷時に決めてあります。
- 一度決めた録音レベルは記憶している..... 入力切替キー (LD / AUX, VIDEO, MD / DAT, TUNER, CD) ごとに **CRLS** キーで決めた録音レベルが記憶され、2度目からは **CRLS** キーを押さなくても同じレベルで録音できます。
- **CRLS** キーを押してしまったけれど、前のレベルに戻したいとき..... CRLS インジケーターが点滅している間に停止キーを押します。前の状態に戻ります。
- **CRLS** キーを3秒以上押し続けると..... インジケーターが遅い点滅をしたあと消えます。このときに点灯していた入力切換に記憶していたレベルは基本録音レベルに戻ります。

ドルビーHX Proについて

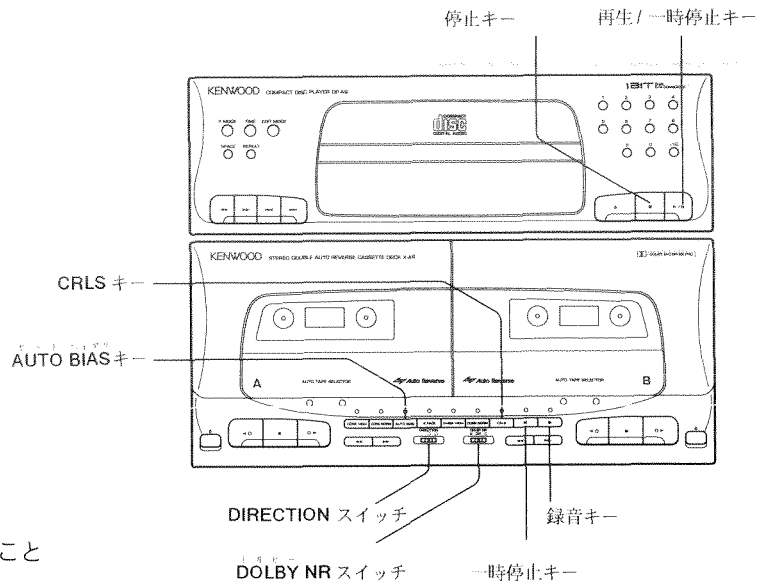
Bデッキで録音すると自動的に Dolby HX Pro headroom extension が働き、高域特性の優れた録音ができます。

一般の高周波バイアス方式における録音では、録音しているソースによって音楽などに含まれている高周波成分により、一定であるべき高周波バイアス電流が増加し、録音特性 (特に高域でのひずみ、ダイナミックレンジ、周波数特性) を劣化させます。

DOLBY HX Pro は、録音している音楽ソースに含まれる高周波成分を検出し、その分だけバイアス電流を抑え、バイアス電流が一定になるようにコントロールします。この結果、高域の録音特性が大幅に改善され、本機以外の一般再生デッキにおいても、すぐれた高音域再生を楽しむことができます。

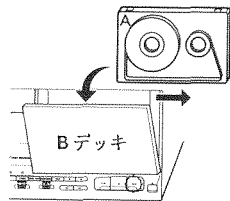
■ CDのシンクロ録音

カセットデッキとCDプレーヤーを同時にスタートさせることができます。



1 録音の準備をする

①Bデッキにテープを入れる



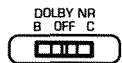
②走行方向を合わせる

③録音する面を選ぶ

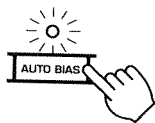


コ：両面録音のとき
ニ：片面録音のとき

④DOLBY NRを選ぶ



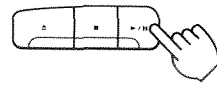
2 オートバイアスを設定する



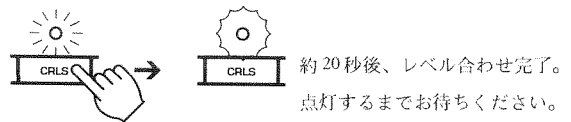
●約45秒で設定終了します。

3 録音レベルを合わせる

①CDを再生する

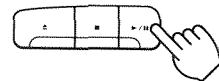


②CRLS キーを押す



●録音待機状態になります。

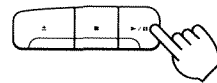
③CDを一時停止させる



4 CDを再生する

①録音を始めたい曲番の数字キーを押す

②再生する



●同時に録音が始まります。

●CDプレーヤーの再生が終わると、デッキは録音を終了し停止します。

一時停止CDプレーヤーの▶/||キーを押す

録音再開始CDプレーヤーの▶/||キーを押す

停止CDプレーヤーの■キーを押す

●カセットデッキの停止キーを押すと、カセットデッキは止まりますが、CDプレーヤーは止まりません。

■ CD REC キーの使いかた

CDを録音しながら、他の音楽ソースがきけます。

1 プリアンプ/チューナーのCD RECキーを押す



2 CDを録音する

“CDのシンクロ録音” “CDの録音のしかた (CCRS)” を参照して録音します

3 好きな音楽ソースを選ぶ



押すごとに切り換わります。

TAPE以外の音楽ソースを選びます。

CD RECを解除するには

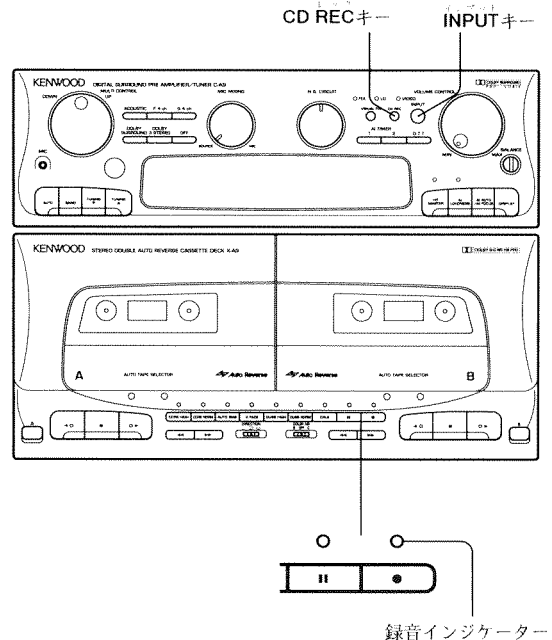
もう1度押す



- 録音インジケーターが点灯中または点滅中は、受けつけません。

ご注意:

1. **CD REC** キーがONのときは、CDの録音にはイコライザー効果はかけられません。
2. CD REC 終了後は、必ず **CD REC** キーを押してCD REC をOFFにしてください。



本機の録音状態

本機では、下記のモードで録音ができます。お好みに合わせて選んでご使用ください。

① CD REC モード

CD REC キーで指定する

CDの音をダイレクトに録音するモード。高品位な音質で録音することができます。また録音しながら、他のソースをきくことができます。

② PRESENCE REC モード

F. 4ch にする

プレゼンス効果のかかった音で録音します。ヘッドホンステレオやカーオーディオできくとき、プレゼンス効果のかかった音が楽しめます。(24ページ参照)

③ EQ. REC モード

DSP OFF または ACOUSTIC ON にする

イコライザー効果のかかった音で録音します。(34ページ参照)

上記モード以外は、ソースの音がそのまま録音されます。

- プレゼンス効果または、イコライザー効果をかけて録音されたテープを再生するときは、各々の効果を解除してください。

CDの録音のしかた (CCRS)

録音するディスクの最適録音レベルと録音するテープの録音バイアスを自動的に設定し、録音を開始する CCRS 機能と組み合わせ、次のような便利な録音ができます。(録音は B デッキのみ可能です)

- TRACK モードでの録音 : CD の 1 曲目から順に録音し、曲の途中でテープの折返し部になったとき、フェードアウト/フェードインで折返して録音します。
- PGM モードでの録音 : プログラムされた順番で録音し、曲の途中でテープの折返し部になったとき、中途半端になった曲を消去し、その曲からあらためて裏面に録音します。
- ノーマル編集録音 (NORMAL EDIT) : 録音時間を指定すると、テープエンドの曲がとぎれないように自動的に編集します。最大 20 曲まで編集録音をします。(PRIORITY EDIT: CD の好きな曲をあらかじめプログラムしておくとして優先して編集されます)
- AI 編集録音 (AI EDIT) : 1 つのテープのなかに、完全に時間がオーバーする CD の全曲を、1 曲ごとにフェードアウトして全曲録音します。(AI PRIORITY EDIT: CD の好きな曲をあらかじめプログラムしておくとして選ばれた曲はフェードアウトをしないで優先的に編集されます)
- マルチディスク編集録音 (MULTI EDIT) : 1 つのテープに複数の CD で編集録音することができます。
- X. FADE 録音 : 曲の終わりと初めをフェードアウト/フェードインし、曲の切れ目のない音楽テープが作れます。
- CCRS 倍速録音 : CD を 2 倍の速さで録音します。

“CD のききかた” の項目をあわせてご覧ください。

コンピュータ コントロールド レコーディング
システム (Computer Controlled CD Recording System) とは

CCRS キーを押すだけで、次のことを自動的に行い、CD 録音を始められる機能です。

1. CD プレーヤーが再生を開始し、ディスクの収録レベルから、ピーク値をサンプリングします。
2. サンプリングしたピーク値から、そのディスクの最適録音レベルを決め、設定します。
3. カセットデッキが録音するテープのバイアスを自動的に設定します。
4. 約 90 秒で以上の録音準備を終え、録音を始めます。
5. 録音が終了 (CD プレーヤーが停止したとき、またはテープが終わったとき) すると、デッキと CD プレーヤーは停止します。

- CCRS、AUTO BIAS インジケータの点灯中は、設定した録音レベル、オートバイアスレベルが維持されています。
- CCRS 録音レベルは、CD プレーヤーの開閉キーを押したときに、オートバイアスレベルは B デッキのイジェクトキーを押したときに、また電源を切ったときは両方共に解除されます。

CCRS 作動中のカセットデッキ部の表示

点灯 ○ 点滅 消灯 ●

	インジケータ	CCRS *1	AUTO BIAS *2	一時停止	録音
録音レベル 設定中		 早い点滅	●	○	○
オートバイ アス設定中				●	○
				●	●
録音中		 遅い点滅	○	●	○
録音停止		○	○	●	●

*1. CCRS 設定の解除 : CD プレーヤーの開閉キーを押す。
*2. A. BIAS 設定の解除 : カセットデッキのイジェクトキーを押す。
*3. 録音する曲数によって設定時間が異なります。

フェードイン/フェードアウトとは

音楽を再生するときに、小音量から始めて通常の音量までだんだん大きくしていくことをフェードインといい、逆に通常の音量からだんだん小さくしていったって終わることをフェードアウトといいます。

フェードイン
フェードアウト

CCRS 倍速録音について

CD とカセットデッキを通常の倍のスピードで回転させて録音します。録音時間が約半分に短縮できます。このとき、倍の音程とスピードで再生されているため、スピーカーで録音をモニターしても音楽として楽しむことはできません。

CCRS 倍速録音したテープは DOLBY NR OFF で録音されますので、再生するときは DOLBY NR OFF で再生してください。

CCRS 倍速録音をする場合は、イコライザー効果を解除してください。(34 ページ参照)

■ TRACKモードでの録音

テープの折り返し部で、フェードアウト/フェードインします。

1 入力切換をCDにし、ディスクを入れる

2 “普通の録音”手順2まで済ませる

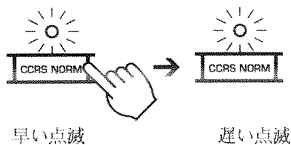
- 46ページをごらんください。

3 TRACKモードであることを確認する

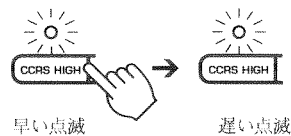
- **PGM** が点灯しているときはP. MODE キーを押します。

4 録音する

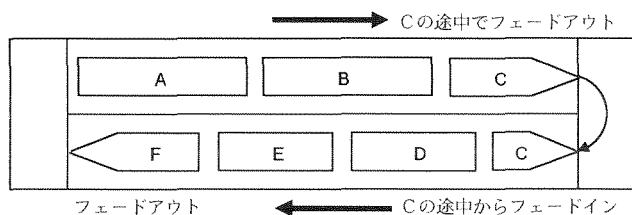
普通の録音のとき



倍速録音のとき



- CCRS 機能により、約 90 秒後、録音が始まります。
- ディスクの曲番順に録音されます。
- テープの折り返し部では、図のようになります。



■ PGMモードでの録音

テープの折り返し部で、曲がとぎれないように録音します。

1 入力切換をCDにし、ディスクを入れる

2 “普通の録音”手順2まで済ませる

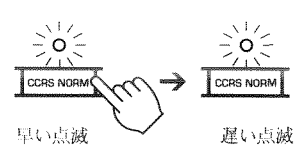
- 46ページをごらんください。

3 PGMモードで録音する曲の順番を選ぶ

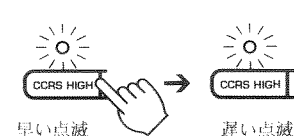
- 39ページをごらんください。

4 録音する

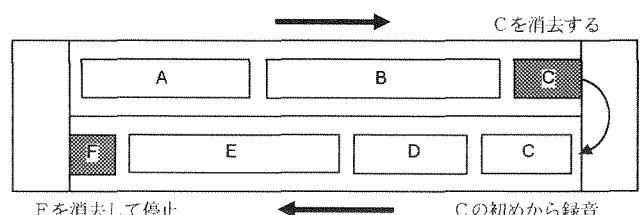
普通の録音のとき



倍速録音のとき



- CCRS 機能により、約 90 秒後、録音が始まります。
- 選んだ曲の順に録音されます。
- テープの折り返し部では、図のようになります。

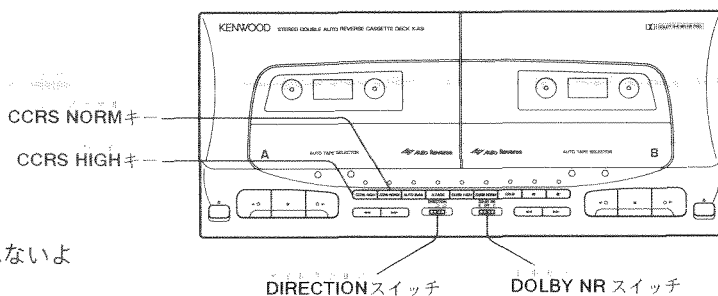


ご注意:

1. CD プレーヤーの再生中に **CCRS** キーを押すと、再生を中止し、CCRS 設定に入ります。
2. CCRS 録音では録音レベルを合わせる必要はありません。
3. CCRS はディスクのピークレベルを約 90 秒で探すため、ごくまれに最適レベルの調節ができないことがあります。
4. クラシックなど、1 曲が長いものは、テープの片面に録音しきれないため CCRS が使えません。
5. カセットデッキの DIRECTION スイッチが **ニ** になっていると、それぞれのテープエンドの処理は表面のみになります。
6. テープエンドにかかった曲がフェードアウトされる時、前の曲との間が短いと前の曲の最後も一部消去されることがあります。

■ ノーマル編集録音 (NORMAL EDIT)

録音時間を指定すると、テープエンドの曲がとぎれないように自動的に編集します。



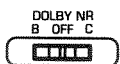
1 Bデッキの録音準備をする

- ①カセットを入れる
- ②走行方向を確認する
- ③録音する面を選ぶ



コ: 両面録音を選ぶ

- ④ DOLBY NR を選ぶ



イコライザー効果をかけるときは

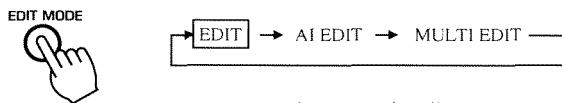
49 ページ参照

2 入力切換を CD にする

3 CDプレーヤーにディスクを入れる

- プログラム選曲をするときは手順4の前にすませておきます。
- オートスペース機能 (40 ページ参照) を使用するときには **[SPACE]** キーを押します。

4 CDのEDITモードをEDITにする



押すたびに切り換わります。

- EDIT を選んだあと、8秒以内に次の手順の入力をしてください。8秒過ぎたときはもう一度押してください。

5 テープの時間を入力する

CDプレーヤーの数字キーで入力する

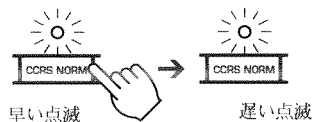
C-30 のとき: **[+10]** **[+10]** **[+10]** **[0]**

C-46 のとき: **[+10]** **[+10]** **[+10]** **[+10]** **[6]**

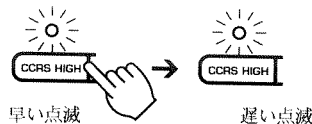
- **[TIME]** キーを押すごとに 46、54、60、90 を選ぶことができます。このときは **[EDIT MODE]** キーを再度押します。
- A面B面の自動編集が行われ、編集が終了すると **[EDIT]** が点滅から点灯になります。
- あらかじめ数曲をプログラムしていると優先して録音ができます。
- **[EDIT]** が点灯したあと **[EDIT MODE]** キーを押すと、表示に "SHUFFLE" と表示され再編集を行います。

6 CCRS キーを押す

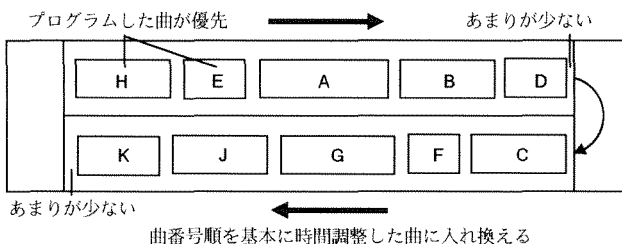
普通の録音のとき



倍速録音のとき



下図のように録音されます



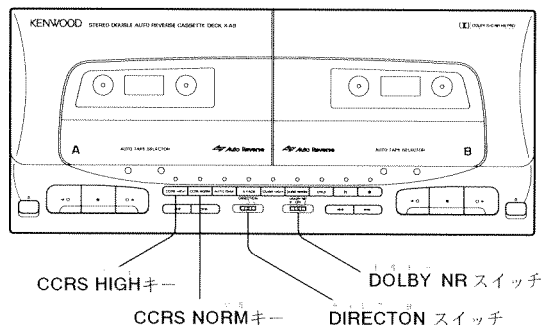
- 録音が終了すると自動的に停止します。

ご注意:

1. 曲番号 44 以後をプログラムしたときは編集できません。
2. **[REPEAT]** キー機能は働きません。
3. オートスペースを解除するには、**[P. MODE]** キーを押し、手順4からやり直してください。

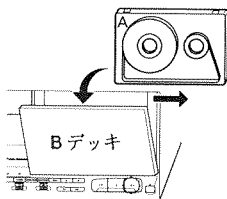
■ AI 編集録音 (AI EDIT)

録音したいCDの時間に比べテープの時間が短いとき、録音する曲の最後の部分をフェードアウトでカット編集し、全曲を録音します。カットしたくない曲を指定できます。(AI PRIORITY EDIT)

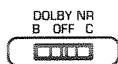


1 Bデッキの録音準備をする

- ①カセットを入れる
- ②走行方向を確認する
- ③録音する面を選ぶ
- ④DOLBY NRを選ぶ



☐: 両面録音を選ぶ



イコライザー効果をかけるときは

49 ページ参照

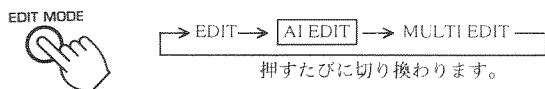
2 入力切換をCDにする

3 CDプレーヤーにディスクを入れる

4 ノーカットで録音したい曲を選ぶ

- ① P. MODE キーを押す
 - [PGM] が点灯します。
- ② 曲番号を数字キーで入力する
 - 希望する順番に続けて入力します。
 - 詳しくは 39 ページの“好きな曲を好きな順番できく”を参照してください。

5 CDのEDITモードをAI EDITにする



- AI EDIT を選んだあと、8秒以内に次の手順の人力をしてください。8秒過ぎたときはもう一度押してください。

6 テープの時間を入力する

CDプレーヤーの数字キーで入力する

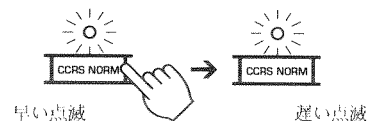
C-30のとき: [+10] [+10] [+10] [0]

C-46のとき: [+10] [+10] [+10] [+10] [6]

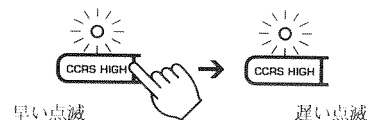
- [TIME] キーを押すごとに 46、54、60、90 を選ぶことができます。このときは [EDIT MODE] キーを再度押します。
- A面B面の自動編集が行われ、編集が終了すると [AI EDIT] が点滅から点灯になります。

7 CCRS キーを押す

普通の録音のとき

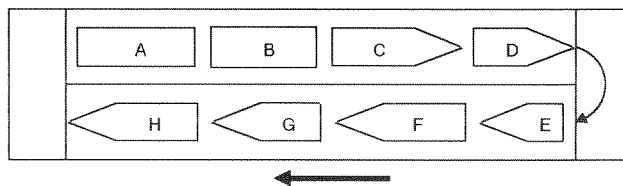


倍速録音のとき



下図のように録音されます

←プログラムした曲→



- プログラムをした曲を優先にノーカットで録音し、その他は曲の最後がカット編集されます。
- テープの時間に余裕があるときは全曲最後まで録音されます。
- 録音が終了すると自動的に停止します。

ご注意:

1. テープの時間を極端に短くすると、自動編集されなかったり、ノーカットで録音したい曲がカットされることがあります。
2. [SPACE] キー、[REPEAT] キー機能は働きません。
3. 曲番号44以後をプログラムしたときは編集できません。
4. X.FADE 録音はできません。

■ マルチディスク編集録音 (MULTI EDIT)

一つのテープに、複数のCDを取り換えながら一枚20曲まで編集録音ができます。

1 Bデッキの録音準備をする

- ①カセットを入れる
- ②走行方向を確認する
- ③録音する面を選ぶ コ: 両面録音を選ぶ
- ④DOLBY NRを選ぶ

イコライザー効果をかけるときは

49 ページ参照

2 入力切換をCDにする

3 CDプレーヤーにディスクを入れる

4 CDのEDITモードをMULTI EDITにする



押すたびに切り換わります。

- MULTI EDITを選んだあと、8秒以内に次の手順の入力をしてください。8秒過ぎたときはもう一度押してください。

5 テープの時間を入力する

CDプレーヤーの数字キーで入力する

C-30のとき: **+10** **+10** **+10** **0**

C-46のとき: **+10** **+10** **+10** **+10** **6**

- **TIME** キーを押すごとに46、54、60、90を選ぶことができます。このときは**EDIT MODE** キーを再度押します。
- **MULTI EDIT** が点滅から点灯に変わり、プログラム入力待ちになり、A面の録音可能時間が表示されます。

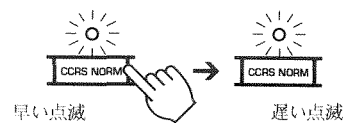
6 録音したい曲を選ぶ

CDプレーヤーの数字キーで、録音したい曲順に曲番号を入力する

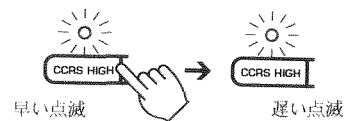
- TOTAL TIME 表示にはA面、またはB面の残り時間が表示されます。
- ディスプレイに“FULL”と表示されたとき、それ以上のプログラムは入力できません。

7 CCRSキーを押す

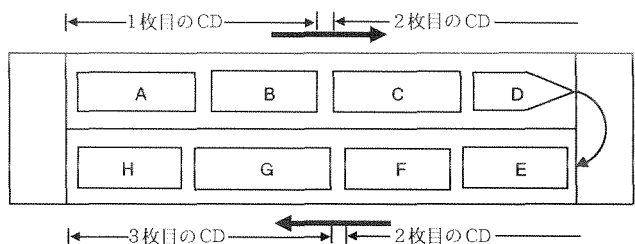
普通の録音のとき



倍速録音のとき



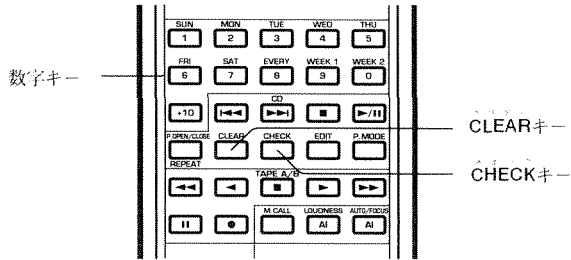
下図のように録音されます(三枚のCDを録音した例)



- 一枚目の録音が終了するとCDプレーヤー、カセットデッキ共に停止し、CDプレーヤーのトレイが自動的にオープンします。
- 二枚目、三枚目を録音するときは、ディスクを入れ換え、ディスクトレイを閉めたのち、手順6~7を繰り返します。

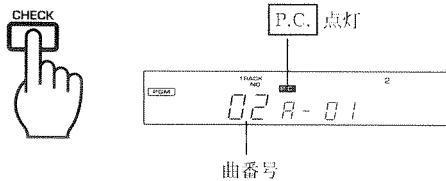
ご注意:

1. 手順6で、テープの残り時間以上の曲を入力するとCDプレーヤーの表示部がFAeEとなり、時間がオーバーする部分がフェードアウトでカットされます。ディスプレイに表示されている残り時間を参考にして入力してください。
2. 曲番号44以後は入力できません。
3. **SPACE** キー、**REPEAT** キー機能は働きません。



■編集した内容を確認する

リモコンのみ



- 押すごとに編集した曲番号が順に表示されます。
- MULTI EDITのときはセットしてあるディスクのみです。

■編集した内容を取り消す

リモコンのみ

編集した最後の曲から順に取り消すには
(MULTI EDITのみ)



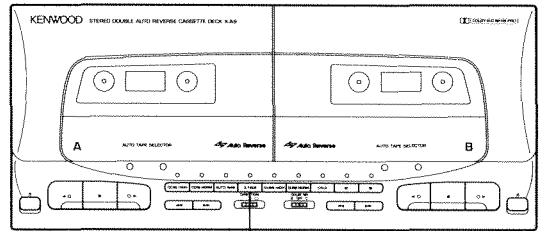
- 押すごとに最後の曲から順に消えます。
- 現在セットしてあるディスクのみです。

編集内容全部を一度に消すには

どちらかのキーを押す



- MULTI EDITのときはセットしてあるディスクのみです。



X.FADEキー

クロスフェード

■X.FADE録音のしかた

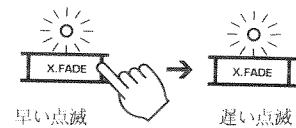
倍速ではできません

1 入力切替をCDにし、ディスクを入れる

2 “普通の録音”手順2まで済ませる

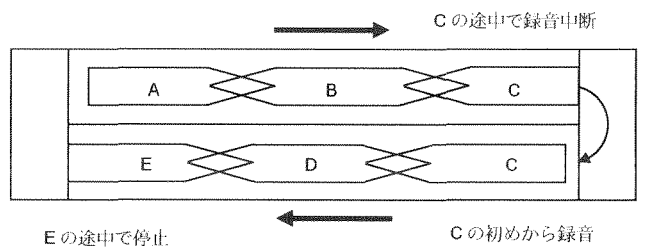
- 46ページをごらんください。

3 録音する

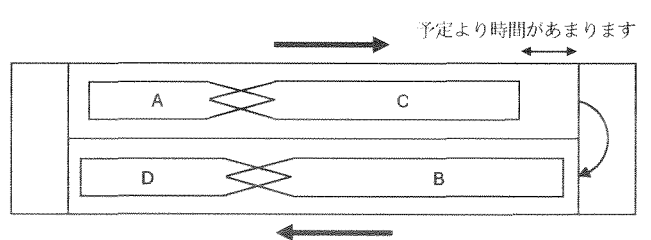


- CCRS機能により、約90秒後、録音が始まります。
- CDプレーヤーのモードに従った録音になります。

TRACK またはPGM モードのとき



先に編集(NORMAL EDIT、MULTI EDIT)したとき



ご注意：

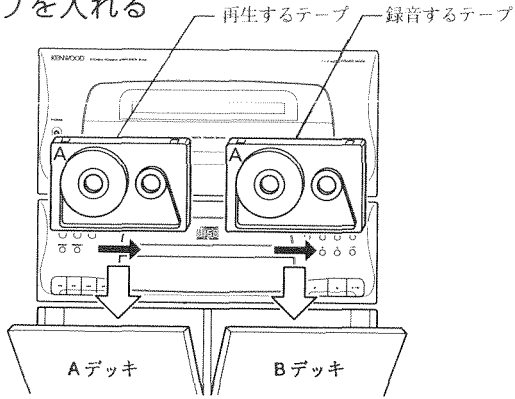
もともとフェードアウト/フェードインされた曲をX.FADE録音すると、曲間が空いてしまうことがあります。

ダビングのしかた

録音済みのテープを別のテープへコピーすることをダビングといいます。(Aデッキのテープ→Bデッキのテープ)

ノーマルダビング：通常で速度でコピーします。
 高速ダビング：通常約2倍の速度でコピーします。

1 テープを入れる



2 テープの走行方向を合わせる

35ページをお読みください。



3 片面、両面を選ぶ



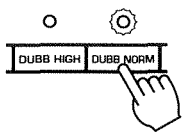
☐：両面ダビングのとき
 ○：片面ダビングのとき

4 AUTO BIAS キーを押す

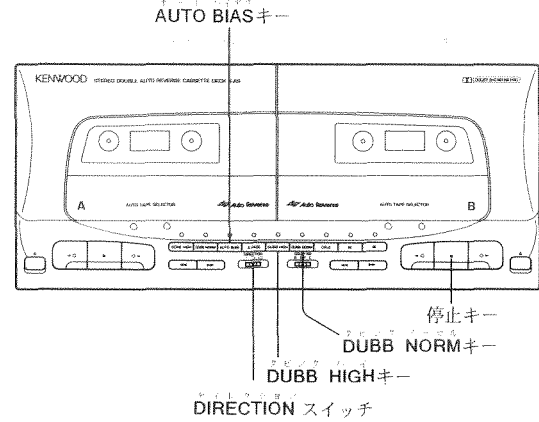
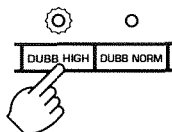
●約45秒で適正バイアス値が設定され、停止します。

5 ダビングを始める

ノーマルダビングのとき

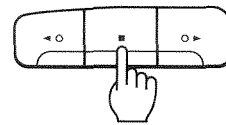


高速ダビングのとき



ダビングを停止するには

Bデッキの停止キーを押す



●A、Bデッキとも停止状態になります。

ダビングを一時停止するには

ノーマルダビングのとき：NORMキーを押す

高速ダビングのとき：HIGHキーを押す

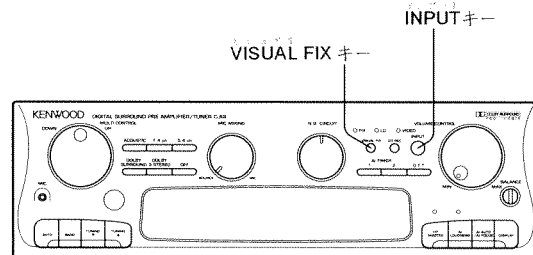
- ノーマルでは約4秒間、高速では約6秒間の無録音部分を作った後、Bデッキのみ一時停止状態になります。
- ダビング中に、ダビングしたくない曲を飛ばしたいときは、Aデッキの [▶▶] キーを押します。
- ダビングを再開するときは、押した DUBB キー ([NORM] または [HIGH]) を、もう一度押します。

ご注意：

1. ダビング時は、録音レベルの調節ができません。
2. ダビング時は、[DOLBY NR] スイッチは機能しません。ダビングしたテープはAデッキと同じノイズリダクションで作られます。
3. TVのそばで高速ダビングをすると、TV雑音が入ることがあります。TVから離してください。
4. 録音レベルが高いテープを高速ダビングすると、音質を損なうことがあります。このようなときは、ノーマルでダビングしてください。

映像機器を使用するには

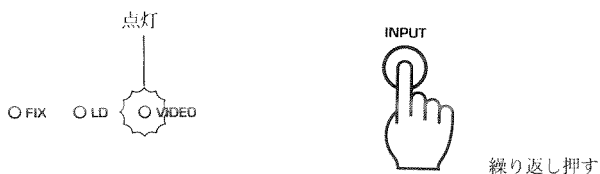
各 AV 機器との接続は 10 ページをお読みください。
 接続や操作については、接続する映像機器の取扱説明書を
 あわせてよくお読みください。



■ビデオ再生のしかた

1 モニターTVの電源を入れる

2 入力切換を VIDEO にする



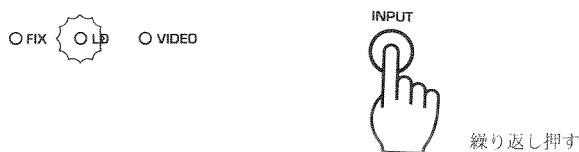
3 ビデオデッキを再生する

■ビデオ録画のしかた

1 録画したい機器を接続する

- ビデオ再生デッキ、ビデオカメラ、LDプレーヤー、BSチューナーなどが接続できます。

2 入力ソースを切り換える

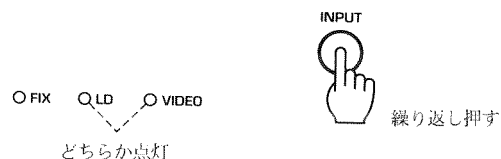


3 録画したい機器を再生する

4 ビデオデッキを録画状態にする

■ビデオを見ながら、CDやテープをきく

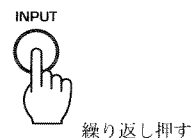
1 見たい映像機器を選ぶ



2 VISUAL FIX キーを押す



3 ききたい音楽ソースを選ぶ

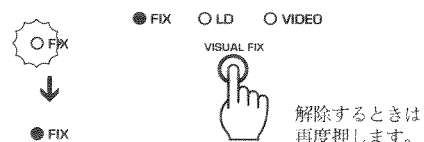


- 見ている映像はそのまま、オーディオ系の音声だけが切り換わります。

4 選んだ映像機器およびオーディオ機器を再生する

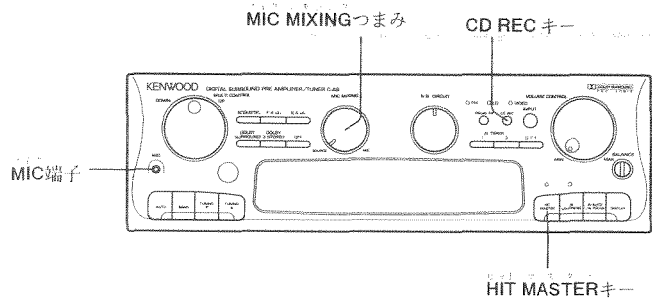
VISUAL FIX キーについて

入力ソースの切換に対し、映像系(LD/AUX、VIDEO)の入力を固定する機能です。映像系のインプットが選ばれていて、他の映像系のインプットに切り換えても、VISUAL FIXがONのときには、映像は切り換わりません。



簡単にカラオケを楽しむには

ヒットマスター
HIT MASTER: CD等のボーカルだけを小さくして、カラオケとして楽しむことができます。最新ディスクの曲を練習したいときに便利です。ただし DOLBY SURROUND および DOLBY 3 STEREO のときは、働きません。



■マイクをつなぐ

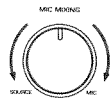
1 MIC MIXING つまみを左いっぱいに戻す



2 MIC 端子にプラグを差し込む



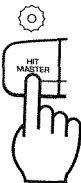
3 マイクとソースの音量のバランスを調節する



■カラオケをする

1 音楽ソースを再生する

2 HIT MASTER キーを押す



● 音楽ソースからボーカルだけが小さくなります。ただし、ソースによっては効果があまり得られないことがあります。

3 曲に合わせて歌う

● 全体の音量は VOLUME CONTROL つまみで調節してください。

ご注意:

1. マイクを使用しないときは MIC MIXING つまみを左いっぱいに戻しておいてください。
2. テープの再生音とミキシングした音は録音できません。

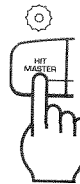
■カラオケを録音する

1 マイクをつなぐ

2 CD REC が OFF であることを確認する



3 HIT MASTER キーを押す



4 “普通の録音”の手順4まで済ませる

● 46 ページをごらんください。

5 録音を始める

- ① 音楽ソースを再生する
- ② 録音キーを押す
- ③ 曲に合わせて歌う

● MIC MIXING つまみを左いっぱいに戻して録音すると、カラオケテープを作ることができます。

6 録音を止める

タイマーの使いかた

必ず時刻合わせを終わらせてからタイマー設定してください

本システムのタイマーには、次のような機能があります。

プログラムタイマー : ON時刻に電源が入り、放送の受信や録音をしたり、テープ・CDの再生をしたあと、OFF時刻で電源が切れます。時刻設定のできるプログラムは最大4つです。このプログラムタイマーに、AI TIMERの機能をつけ加えることができます。

AI TIMER 1 : タイマー ONで電源が入ったあと、目覚し効果として音量が3段階に大きくなります。

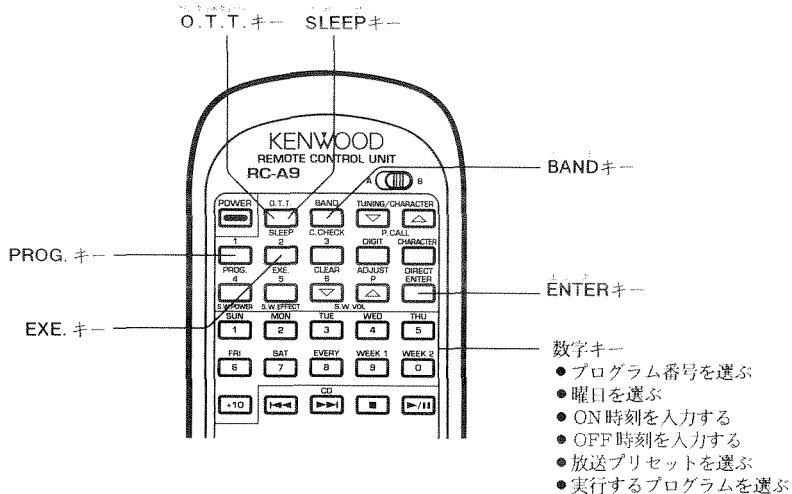
AI TIMER 2 : タイマー ONで電源が入ったら、CDを2曲再生し、そのあと自動的に放送を受信します。

スリープタイマー : おやすみのときなど、設定した時間が過ぎると自動的に電源が切れます。

ワンタッチタイマー : 12時間以内の区切りのよい時間に自動的に電源をONさせます。AI TIMERの機能をつけ加えることができます。

カレンダーチェック : 年、月、日を入力するとその日が何曜日かをインジケータで表示します。

- タイマーの設定のしかたについては次ページ以降をお読みください。
- プログラムの内容は自由に変更できます。
- プログラムが入力されていても、実行を指示しないとタイマーは作動しません。
- AI TIMERは不要な時には、OFFにしてください。その日に実行する全部のプログラムに付加されます。
- 一度入力したプログラム内容は一度に消すことはできません。内容を変更することにより、以前の内容を消します。
- プログラムはそれぞれの時間が重ならないようにしてください。



数字キーで指定する曜日の種類

1. 実行指示をするとその曜日に一度だけ実行する。

数字キー

日曜日	1/SUN
月曜日	2/MON
火曜日	3/TUE
水曜日	4/WED
木曜日	5/THU
金曜日	6/FRI
土曜日	7/SAT

- 次の週も同じ時間にタイマーを作動させたいときは、あらためて実行を指示します。

2. 実行指示をすると毎週繰り返し実行する。

数字キー

月曜日～日曜日の毎日	8/EVERY
月曜日～土曜日の毎日	9/WEEK 1
月曜日～金曜日の毎日	0/WEEK 2

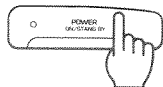
- タイマーを作動させないときはプログラムの実行を取り消します。

■プログラムタイマーで放送を受信する

リモコンのみ

1 電源をONにする

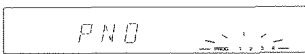
パワーアンプ部のPOWERキーを押す



2 プログラム設定モードにする

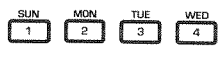


SELECT PROGRAM



- プログラム番号(1-4)が点滅します。

3 プログラムしたい番号を選ぶ

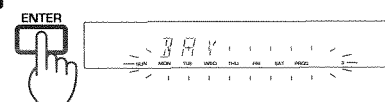
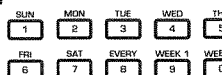


1-4の中から選ぶ

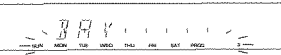
8秒以内に押す

- 選んだプログラム番号が点滅します。

4 曜日を数字キーで指定する

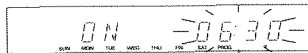


SELECT DAY



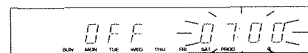
5 ON時刻を数字キーで入力する

午前6時30分: 0 6 3 0 INPUT ON TIME

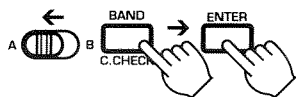


6 OFF時刻を数字キーで入力する

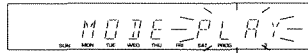
午前7時00分: 0 7 0 0 INPUT OFF TIME



7 モードをPLAYにする

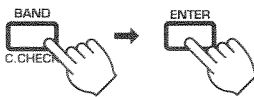


SELECT MODE

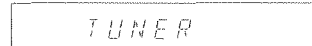


BANDキーを押すごとにPLAYとRECに切り換わります。

8 TUNERを選ぶ



SELECT SOURCE

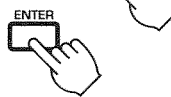
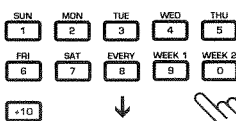


TUNER → CD TAPE → LAST

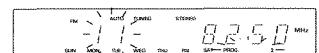
BANDキーを押すごとに切り換わります。

- “LAST”は接続したBSチューナーやLDプレーヤーを録画するときなどに選びます。

9 受信する放送局のプリセットチャンネルを選ぶ



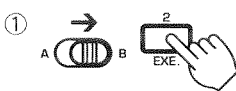
SELECT PRESET



END

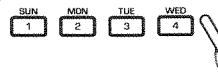
- 放送局は必ずプリセットしておいてください。

10 プログラムを実行する



SELECT PROGRAM

- ②設定したプログラム番号を数字キーで選ぶ

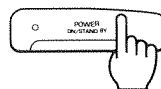


- 指定したプログラム番号が点灯します。

11 音量・音質を調整する

12 電源を切る

パワーアンプ部のPOWERキーを押す



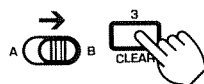
タイマーで電源がONになったあと、そのまま放送を受信したいとき

- ①OFF時刻になる前にCLEARキーを押す
- ②実行中のプログラム番号キーを押す
- プログラム数字が消灯すると、そのまま放送を受信できます。

プログラムを変更するには

設定中

設定後



手順2からやり直す

ご注意:

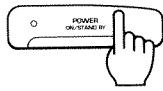
- 手順3で、すでにプログラムされているプログラム番号を選んだときは、新しい設定内容に変わります。
- タイマーで電源がONしているときに、CLEARキーや、POWERキーを押すと、正常に作動しなくなります。

■プログラムタイマーでCDを再生する

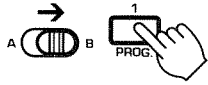
リモコンのみ

1 電源をONにする

パワーアンプ部の **POWER** キーを押す



2 プログラム設定モードにする



SELECT PROGRAM

PNO

●プログラム番号(1-4)が点滅します。

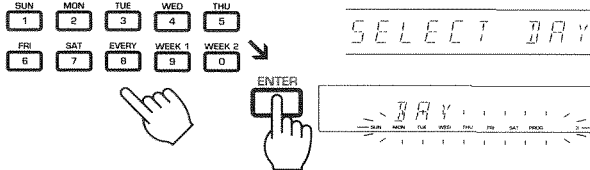
3 プログラムしたい番号を選ぶ



1-4の中から選ぶ 8秒以内に押す

●選んだプログラム番号が点滅します。

4 曜日を数字キーで指定する

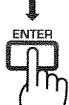


SELECT DAY

DAY

5 ON時刻を数字キーで入力する

午前6時30分: 0 6 3 0 INPUT ON TIME



ON 06:30

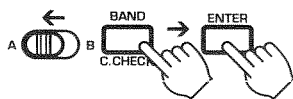
6 OFF時刻を数字キーで入力する

午前7時00分: 0 7 0 0 INPUT OFF TIME



OFF 07:00

7 モードをPLAYにする

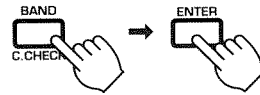


SELECT MODE

MODE → PLAY

BAND キーを押すごとにPLAYとRECに切り換わります。

8 CDを選ぶ



SELECT SOURCE

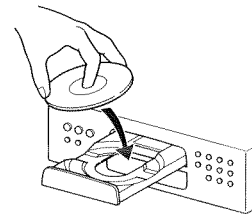
CD

END

TUNER → CD → TAPE → LAST

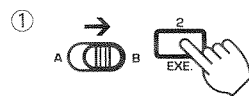
BAND キーを押すごとに切り換わります。

9 CDプレーヤーにディスクを入れる



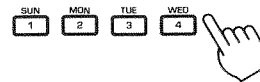
●曲をプログラムしておくことはできません。

10 プログラムを実行する



SELECT PROGRAM

②設定したプログラム番号を数字キーで選ぶ

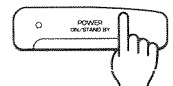


11 82.50 MHz

●指定したプログラム番号が点灯します。

11 音量・音質を調整する

12 電源を切る

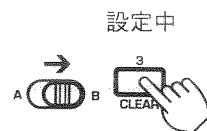


パワーアンプ部の **POWER** キーを押す

ご注意:

- 手順3で、すでにプログラムされているプログラム番号を選んだときは、新しい設定内容に変わります。
- タイマーで電源がONしているときに、**CLEAR** キーや、**POWER** キーを押すと、正常に作動しなくなります。

プログラムを変更するには



設定中

設定後

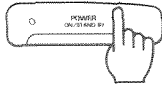
手順2からやり直す

■プログラムタイマーでテープを再生する

リモコンのみ

1 電源をONにする

パワーアンプ部の **POWER** キーを押す



2 プログラム設定モードにする



SELECT PROGRAM

PN0

- プログラム番号(1~4)が点滅します。

3 プログラムしたい番号を選ぶ

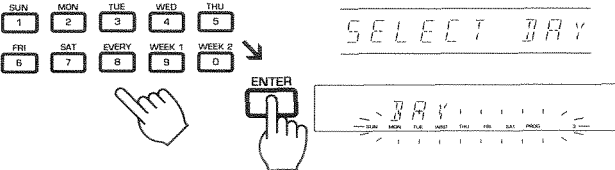


1~4の中から選ぶ

8秒以内に押す

- 選んだプログラム番号が点滅します。

4 曜日を数字キーで指定する



SELECT DAY

DAY

5 ON時刻を数字キーで入力する

午前6時30分: 0 6 3 0 INPUT ON TIME



ON 06:30

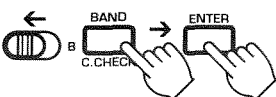
6 OFF時刻を数字キーで入力する

午前7時00分: 0 7 0 0 INPUT OFF TIME



OFF 07:00

7 モードをPLAYにする

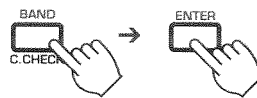


SELECT MODE

MODE PLAY

BAND キーを押すごとにPLAYとRECに切り換わります。

8 TAPEを選ぶ



SELECT SOURCE

TAPE

END



BAND キーを押すごとに切り換わります。

9 テープを入れ、再生条件を決める

再生する面と DOLBY NR を選ぶ



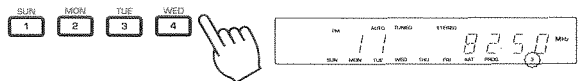
- A、Bどちらに入れても再生できますが、両方に入れた場合はBデッキから始まります。

10 プログラムを実行する



SELECT PROGRAM

②設定したプログラム番号を数字キーで選ぶ



- 指定したプログラム番号が点灯します。

11 音量・音質を調整する

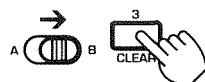
12 電源を切る

パワーアンプ部の **POWER** キーを押す

プログラムを変更するには

設定中

設定後



手順2よりやり直す

ご注意:

- 手順3で、すでにプログラムされているプログラム番号を選んだときは、新しい設定内容に変わります。
- タイマーで電源がONしているときに、**CLEAR** キーや、**POWER** キーを押すと、正常に作動しなくなります。

■プログラムタイマーで放送を録音する

リモコンのみ

1 電源をONにし、録音する放送局を受信する

2 プログラム設定モードにする



●プログラム番号(1~4)が点滅します。

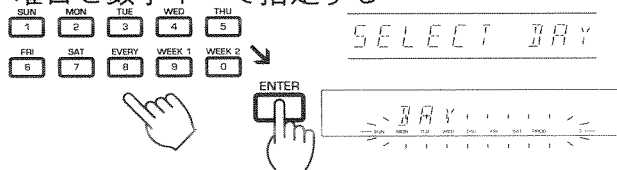
3 プログラムしたい番号を選ぶ



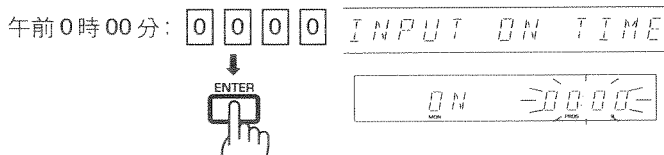
1~4の中から選ぶ 8秒以内に押す

●選んだプログラム番号が点滅します。

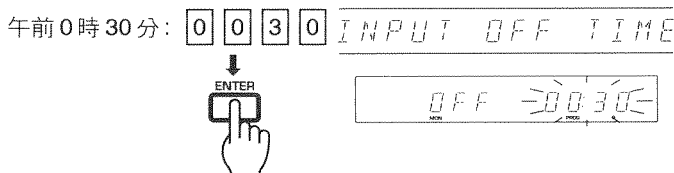
4 曜日を数字キーで指定する



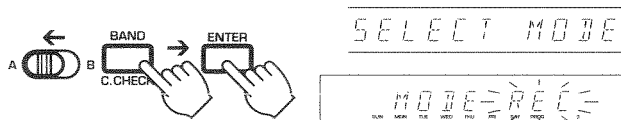
5 ON時刻を数字キーで入力する



6 OFF時刻を数字キーで入力する

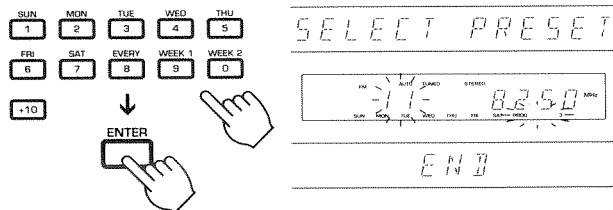


7 モードをRECにする



[BAND]キーを押すごとにPLAYとRECに切り換わります。

8 受信する放送局のプリセットチャンネルを選ぶ

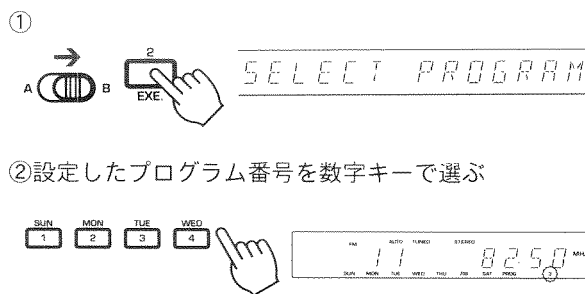


●放送局は必ずプリセットしておいてください。

9 録音の準備をする

- ①Bデッキにテープを入れる
 - ②走行方向を合わせる
 - ③録音する面を選ぶ
 - ④DOLBY NRを選ぶ
 - ⑤入力切換をチューナーにする
 - ⑥CRLSキーを押す
- オートバイアスは使えません。

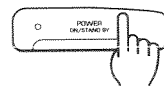
10 プログラムを実行する



●指定したプログラム番号が点灯します。

11 電源を切る

パワーアンプ部の[POWER]キーを押す



ご注意:

1. 手順3で、すでにプログラムされているプログラム番号を選んだときは、新しい設定内容に変わります。
2. タイマーで電源がONになると、音量は最低に設定されます。
3. タイマーで電源がONしているときに、[CLEAR]キーや、[POWER]キーを押すと、正常に作動しなくなります。

プログラムを変更する

設定中



設定後

手順2からやり直す

タイマーの使いかた

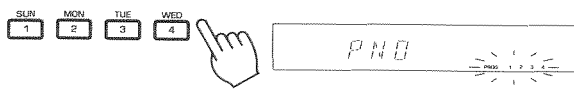
■プログラムの内容を確認する

リモコンのみ

1 PROG. キーを押す



2 確認するプログラムの数字キーを押す

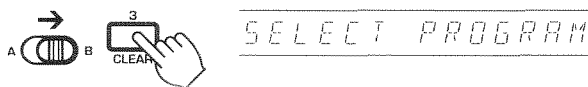


- プログラム番号が点滅中に指定されないと、元に戻ります。
- プログラムの内容を約3秒ずつ表示していきます。そのあと、元に戻ります。

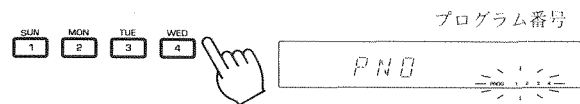
■プログラムの実行をキャンセルする

リモコンのみ

1 CLEAR キーを押す



2 実行させたくないプログラム番号を消す



数字キーで番号を選ぶ



- 実行を取り消してもプログラムの内容は消えません。

再びタイマーで機器を作動させるとき

プログラムは記憶していますので、内容を確認のうえ、『プログラムを実行する』から後を設定し直します。

- ① EXE. キーを押す
- ② 実行するプログラム番号を数字キーで選ぶ
- ③ 放送の受信とCD・テープの再生のときは、音量・音質を調整する
- ④ 電源を切る

■ワンタッチタイマーの使いかた

O.T.T. (ワンタッチタイマー) キーを押すだけで30分単位で電源をONさせることができます。プログラムタイマーより優先します。

1 ON時間を設定する

O.T.T. キーを押す O.T.T. 点灯



ONになる時間を表示します
押すたびに30分ずつ追加されます

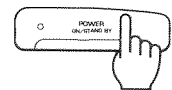
- 1回押すと、今の時間から30分以内で区切りのよい時間が設定されます。(例：7時40分→8時00分)
- ON時間は、0時、0時30分、1時、1時30分のように、30分単位で設定されます。
- 12時間先まで設定できます。
- 電源OFF時でも設定できます。

2 好きな音楽ソースを選び音量を調節する

(CD、TUNER、TAPE)の中から選ぶ

3 電源を切る

パワーアンプ部のPOWERキーを押す



- O.T.T. キーを1回押すとON時間が確認できます。
- 電源がONになると、自動的にSLEEPタイマーが60に設定されます。
- 電源がONになると、選んだ音楽ソース(CD、TUNER、TAPE)が再生されます。

ワンタッチタイマーを解除するとき

電源をONにする

または、

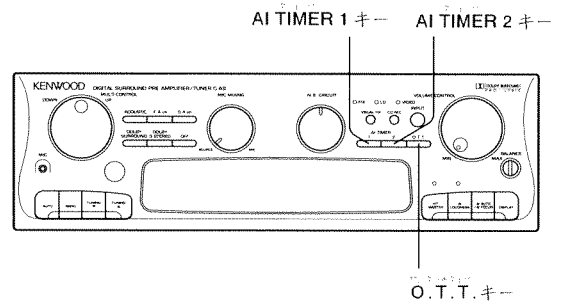
O.T.T. 表示が消えるまでO.T.T. キーを押す

ご注意:

1. インプットセレクターでCDまたはTAPEを選んだとき、ディスクまたはカセットテープが入っていないと、最後にきいていた放送局が受信されます。
2. 時刻合わせのために **ADJUST** キーを押すと、ワンタッチタイマーは解除されます。

プログラムタイマーで時刻を設定したあと、AI TIMERキーを押すと、プログラムタイマーに下記の機能が追加されます。

AI TIMER 1、AI TIMER 2ともにタイマーで録音するときには動きません。



■ AI TIMER 1の使いかた

プログラムタイマーで電源が入ると、作動した機器の音量が3段階で大きくなる機能です。

■ AI TIMER 2の使いかた

プログラムタイマーで電源が入ると、CDを2曲再生した後、自動的に放送を受信します。他のプログラムタイマーよりも優先されます。

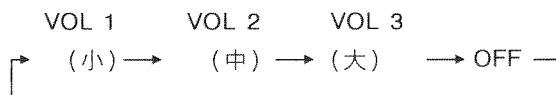
1 プログラムタイマーの設定を完了する

パワーアンプ部の電源を切る

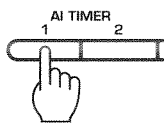
2 AI TIMER 1キーを押す

“AI TIMER 1”が点灯します。

最大音量を選ぶ



- 押すごとに最大音量が変わります。手を離すと消灯し、そのレベルを記憶します。



1 CDプレーヤーにディスクを入れる

2 “タイマーで放送を受信する”を済ませる

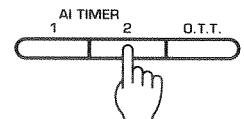
- 61ページをごらんください。

3 AI TIMER 2キーを押す

“AI TIMER 2”が点灯します。



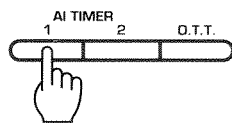
- 音量を3段階で大きくしたいときはAI TIMER 1を押します。



AI TIMER 1の解除

AI TIMER 1キーを押してOFFを選ぶ

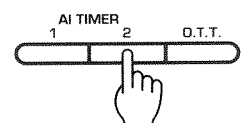
- AI TIMER 1が消灯します。



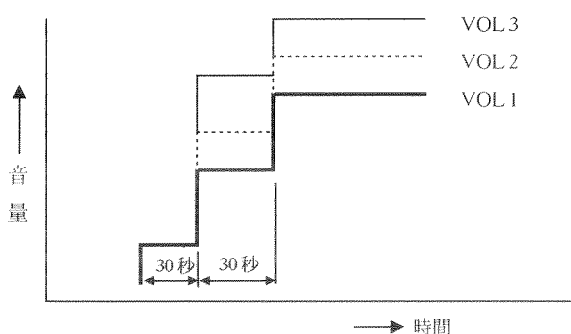
AI TIMER 2の解除

もう一度キーを押す

- AI TIMER 2が消灯します。



音量のめやす

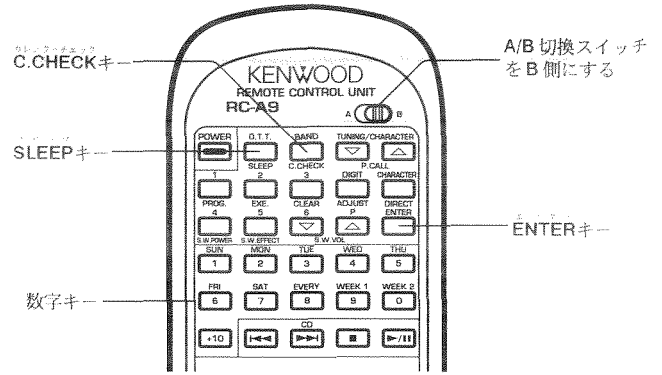


- VOLUMEつまみは音量に合わせてまわります。
- グラフィックイコライザーのカーブも変化します。

ご注意:

- AI TIMER 1の作動中にグラフィックイコライザーの操作キーまたはリモコンの[VOLUME]キーを押すと、音量はその時点で固定されます。
- AI TIMER 2のCDの再生中に入力切換キーをTUNERやTAPEにすると、そこでCDの再生をやめ、AI TIMER 2は解除します。
- AI TIMER 2のCDの再生中にCDプレーヤーの操作キーを押すと、そこでCDの再生をやめ、AI TIMER 2は解除します。
- ディスクを入れ忘れたときは、CDの再生をせずに、放送を受信します。
- プログラムタイマーの動作が終了しても、AI TIMER 1および2のインジケータは消えません。AI TIMERを使わないときは必ずインジケータを消しておいてください。

タイマーの使いかた



■スリープタイマーの使いかた

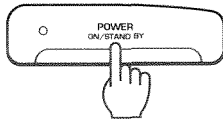
設定した時間が過ぎると電源が切れます。おやすみの前などにお使いになると便利です。

10分単位で最大90分まで設定できます。

スリープタイマーはほかのタイマーより優先します。

リモコンのみ

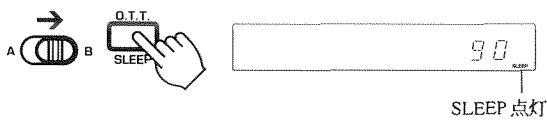
1 電源を入れる



パワーアンプ部のPOWERキーを押す

2 何分後に電源を切るかを設定する

SLEEPキーを押す



→90→80→70→……→20→10→解除

●1回押すごとに10分ずつ減っていきます。

スリープタイマーを解除するとき

SLEEPキーを解除になるまで押す
または
電源をOFFにする

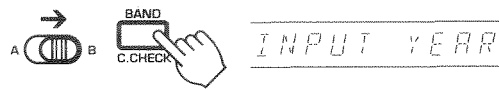


■カレンダーチェックのしかた

西暦年、月、日を入力すると、その日が何曜日がわかります。1900年1月1日~2099年12月31日の間で検索します。

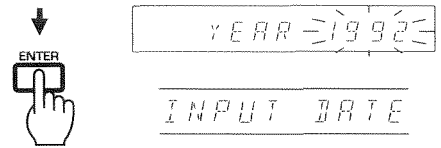
リモコンのみ

1 C.CHECKキーを押す



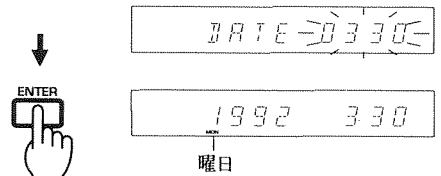
2 西暦年を数字キーで入力する

1992年: [1][9][9][2]



3 月、日を数字キーで入力する

3月30日: [0][3][3][0]



●入力した日の曜日が、自動的に点灯します。数秒後に元の表示に戻ります。

タイマーの使いかた

故障と思われる症状ですが.....

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

リモコン部

症 状	原 因	処 置
リモコンで操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●平行コードが正しく接続されていない。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい電池に入れ換える。 ●操作範囲内で操作する。 ●“接続のしかた”をみて正しく接続し直す。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。

プリアンプ/チューナー部・パワーアンプ部・スピーカー部

症 状	原 因	処 置
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●レシーバーのMUTINGがONで、VOLUMEポイントインジケーターが点滅している。 ●ヘッドホンプラグが差込まれている。 ●平行コードの接続がはずれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“接続のしかた”をみて正しく接続し直す。 ●適当な音量にする。 ●MUTINGをOFFにする。 ●ヘッドホンプラグを抜く。 ●平行コードの接続を確認する。
ヘッドホンから音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ●アコースティックモードのNON DIRECTION 1になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●NON DIRECTION 1以外にする。
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがショートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一時電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源スイッチを入れる。
スピーカーの片側から音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがはずれている。 ●BALANCEつまみが片側いっぱい絞られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“接続のしかた”をみて正しく接続し直す。 ●左右のバランスを調節する。
サラウンドリアスピーカー、センタースピーカーから音が出ない。または、小さい。	<ul style="list-style-type: none"> ●リアスピーカーコードおよびセンタースピーカーコードがはずれている。 ●サラウンド再生モードになっていない。 ●REAR VOL.、CENTER VOL. レベルが最小になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“接続のしかた”をみて正しく接続し直す。 ●サラウンドモードにする。 ●REAR VOL.、CENTER VOL. を調節する。
時刻表示が、ある時間で止まったまま点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> ●停電があった。 ●電源プラグを一度抜いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在時刻をもう一度合わせる。 ●現在時刻をもう一度合わせる。
タイマーが作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●現在時刻を合わせていない。停電があった。 ●タイマーのON時刻とOFF時刻を設定していない。 ●タイマーの実行指定をしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“時刻合わせ”をみて現在時刻を合わせる。 ●タイマーのON時刻とOFF時刻を設定する。 ●[EXE]キーで実行指定をする。
放送局が受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンテナを接続する。 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。
雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。

故障と思われる症状ですが...

故障と思われる症状ですが.....

症 状	原 因	処 置
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。

カセットデッキ部

症 状	原 因	処 置
再生キーを押しても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●コードの接続が間違っている。 ●ヘッドが汚れている。 ●巻き取りムラがありテープが重くなっている。 ●未録音テープを再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“接続のしかた”に従い正しく接続する。 ●“ヘッドのお手入れ”をみて、ヘッドを清掃する。 ●テープを交換してみる。 ●録音済テープを使う。
操作キーを押しても作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットホルダーが完全に閉まっていない。 ●カセットホルダーを閉めて、すぐ操作キーを押している。 ●電源を入れてから、3秒以内に操作キーを押している。 ●テープが入っていない。 ●巻き取りムラがありテープが重くなっている。 ●テープがどちらかに巻きとられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホルダーを完全に閉める。 ●ホルダーを閉めてから何秒か待って操作キーを押す。 ●3秒以上たってから操作キーを押す。 ●テープを入れる ●テープを交換してみる。 ●デッキの走行方向をかえる。またはテープを裏返す。
DPSS が誤動作する。	<ul style="list-style-type: none"> ●曲と曲の間が短いなど DPSS に不適切なテープを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“DPSS の使いかた”をお読みください。
CCRS が作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●Bデッキに録音できるテープが入っていない。 ●CDプレーヤーにディスクが入っていない。 ●ディスクが汚れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●Bデッキに録音できるテープを入れ、操作をやり直す。 ●CDプレーヤーにディスクを入れ、操作をやり直す。 ●ディスクを清掃したあと、CDプレーヤーに入れ、操作をやり直す。
AデッキとBデッキで、ダビングの終わる時間が違う。	<ul style="list-style-type: none"> ●テープの長さやカセットデッキのメカニズムの特性によるもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ●多少の時間差は故障ではありません。
イジェクトキーを押してもホルダーが開かない。	<ul style="list-style-type: none"> ●録音中、または再生中に押している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●停止状態で押す。
音がかすれたり高音が出なくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘッドが汚れている。 ●テープがのびたり、ワカメ状になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“ヘッドのお手入れ”をみて、ヘッドを清掃する。 ●テープを交換する。
音がひずむ。	<ul style="list-style-type: none"> ●CRLSキーで録音レベルの設定をしていない。 ●ひずんだ音で録音されたテープを再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“普通の録音”をお読みください。 ●テープを交換する。
雑音大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘッドが磁気を帯びている。 ●外部の雑音を誘導している。 ●ドルビーNRをONで録音したテープを、OFFで再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“ヘッドのお手入れ”をみて、消磁する。 ●電気器具、テレビなどから離す。 ●DOLBY NRスイッチをBかCにする。

故障と思われる症状ですが.....

症 状	原 因	処 置
音がふるえる。	<ul style="list-style-type: none"> ●キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。 ●テープに巻き取りムラがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“ヘッドのお手入れ”をみて、ヘッドを清掃する。 ●テープの端から端まで通して早送り、巻き戻し、または再生をして巻き直す。
録音キーを押しても録音できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットテープのツメが折れている。 ●カセットホルダーが完全に閉まっていない。 ●レシーバーの入力切換キーがTAPEになっている。 ●テープがどちらかに巻き取られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ツメの折れていないテープを使う、または穴をふさぐ。 ●ホルダーを完全に閉める。 ●入力切換キーを録音したいソースにする。 ●Bデッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。

CD プレーヤー関係

症 状	原 因	処 置
ディスクを入れても再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクが裏返しに入っている。 ●ディスクがずれている。 ●ディスクがひどく汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●光学レンズに露がついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ラベル面を上にして、正しく入れる。 ●ディスクを正しく入れ直す。 ●“ディスク取扱上のご注意”を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。 ●“露付きにご注意”を参照し、露を蒸発させる。
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクが入っていない。 ●再生状態になっていない。 ●ディスクがひどく汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●接続コードがしっかり差込まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクを入れる。 ●▶/■キーを押す。 ●“ディスク取扱上のご注意”を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。 ●しっかりと接続する。
音とびがする。	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクが汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●本機に振動が加わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“ディスク取扱上のご注意”を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。 ●振動のない場所に設置する。

ご注意：

1. 本システムはマイコンを使用していますので、外部からの雑音や、妨害ノイズにより、正常に動作しないことがあります。そのような場合、電源コードを一度抜いてからあらためてご使用ください。
2. 接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。
3. テープの種類によっては、自動的にテープが止まったときに“キュー”という音がすることがあります。これはテープ保護機構が働くため、故障ではありません。
4. 110 / 120分テープは、テープ厚がうすくてワカメ状になりやすいため、ご使用にならないでください。
5. 本システムのTV受信回路はFM受信回路と兼用しています。そのため地域によってはテレビの2または3チャンネルの音声受信時にFM放送が混信することがあります。

アフターサービスについて

- 1.保証書—この商品の保証書は別途添付しております。
必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
- 2.保証期間—お買い上げの日より1年間です。
正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買い上げの販売店またはケンウッドの営業所が無料修理いたします。
- 3.保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 4.補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年間です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 5.アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所に、ご遠慮なくご相談ください。

サービス依頼について

本機の修理を依頼される時は、本体のままお渡しにならないで、必ず何かに包装しておわたしてください。本体のまま修理にだされますと、途中の事故等で外観に傷がつくおそれがありますのでご注意ください。

※包装材はアフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するためにご利用ください。

修理のため、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所に、セットをお持ちになるときは、お買い上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーを除きます。)

ステレオ音のエチケット

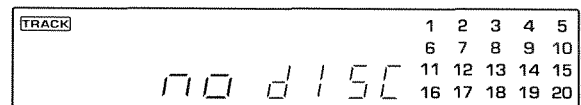


楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

輸送時または移動時のご注意 (CDプレーヤー)

本機を輸送するときや、移動するときは、下記の操作を行ってください。

1. ディスクを入れないで電源をONにします。
2. 数秒間待って、ディスプレイ部が図の表示になったことを確かめてください。



3. 電源をOFFにします。

定格

プリアンプ/チューナー部 (C-A9)

[FMチューナー部]

受信周波数範囲 76 MHz~90 MHz
アンテナインピーダンス 75 Ω 不平衡
実用感度 (モノラル) 17.2dBf (2.0 μV, 75 Ω)

高調波ひずみ率

モノラル 0.5 % (1kHz)
ステレオ 0.6 % (1kHz)

SN比

モノラル 76 dB (85 dBf 入力時)
ステレオ 72 dB (85 dBf 入力時)
実効選択度 (± 400 kHz) 50 dB
ステレオセパレーション (1kHz) 40 dB
周波数特性 30 Hz~15 kHz, +0.5 dB, - 3.0 dB

[AMチューナー部]

受信周波数範囲 531 kHz~1,602 kHz
実用感度 10 μV (500 μV/m)
SN比 48 dB

[TVチューナー部]

受信チャンネル
VHF 1~12 CH
UHF 13~62 CH

[プリアンプ部]

定格出力電圧 (PRE OUT) 1.0V (40Hz~20kHz, 0.02%)
全高調波ひずみ率 0.02% (40Hz~20kHz)
..... 0.01% (1kHz)
SN比 85dB (EIAJ) / 90dB (IHF)
入力感度/インピーダンス
MD/DAT, LD/AUX, VIDEO 200mV/47k Ω
MIC 1.2mV/47k Ω
ラウドネスコントロール特性 +6dB (100Hz)
(音量ボリューム - 30dB)
N.B. CIRCUIT 特性 +12dB (60Hz)
出力レベル/インピーダンス
MD/DAT, VIDEO 200mV/2.2k Ω
グラフィックイコライザー
中心周波数
..... 60Hz, 150Hz, 400Hz, 1kHz, 2.5kHz, 6kHz, 15kHz

[ビデオ部]

入力端子 (感度/インピーダンス)
..... VIDEO (コンポジット): 1Vp-p / 75 Ω
入力端子 (LD/AUX, VIDEO IN)
出力端子 (レベル/インピーダンス)
..... VIDEO (コンポジット): 1Vp-p / 75 Ω
出力端子 (MONITOR OUT, VIDEO OUT)

最大外形寸法 幅 270 mm
高さ 85 mm
奥行 318 mm
重量 (正味) 3.1 kg

パワーアンプ部 (B-A9)

実用最大出力

フロント (EIAJ, 4 Ω) 50W+50W
ノンディレクション (EIAJ, 8 Ω) 30W+30W

全高調波ひずみ率 0.06% (40Hz~20kHz)
..... 0.005% (1kHz)
周波数特性 40Hz~70kHz, +0dB, - 1.5dB

SN比 90dB (EIAJ) / 105dB (IHFA)

[電源・その他]

電源電圧、電源周波数 AC100V, 50Hz/60Hz
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) 125W
総合消費電力 (C-A9, X-A9, DP-A9 接続時) 145W
最大外形寸法 幅 270 mm
高さ 120 mm
奥行 317 mm
重量 (正味) 6.4 kg

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。

カセットデッキ部 (X-A9)

トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
録音方式	交流バイアス(周波数:105 kHz)
ヘッド	
Aデッキ用 再生用	1
Bデッキ用 録音/再生用	1
消去用	1
モーター	
Aデッキ用	1
Bデッキ用	1
早巻き時間	約110秒(C-60)
周波数特性	
ノーマルテープ	35 Hz~17,000 Hz, ± 3 dB
クロムテープ	35 Hz~18,000 Hz, ± 3 dB
メタルテープ	35 Hz~18,000 Hz, ± 3 dB
SN比	
EIAJ	56 dB
DOLBY NR OFF	58 dB
DOLBY B NR ON	66 dB
DOLBY C NR ON	74 dB
ワウ・フラッター	0.08 % (WRMS) ± 0.18%(W.Peak)
ひずみ率(1 kHz, 3rd H.D, メタルテープ)	0.9%
最大外形寸法	幅 270 mm 高さ 120 mm 奥行 259 mm
重量(正味)	2.7 kg

CDプレーヤー部 (DP-A9)

読み取り方式	非接触光学式読み取り(半導体レーザー)
回転数	200rpm~500rpm(CLV)
周波数特性(EIAJ)	20Hz~20kHz,+0dB,-1.5dB
SN比(EIAJ)	93dB以上
全高調波ひずみ率(EIAJ)	0.01%以下(1kHz)
チャンネルセパレーション(EIAJ)	85dB以上(1kHz)
ワウ・フラッター(EIAJ)	測定限界以下
最大外形寸法	幅 270 mm 高さ 85 mm 奥行 259 mm
重量(正味)	2.0 kg

スピーカー (LS-A9)

エンクロージャー	バスレフ
スピーカー構成	3ウェイ
ウーファー	150mmコーン型
スコーカー	80mmコーン型
ツイーター	25mmドーム型
ノンディレクション	120mmコーン型
インピーダンス	
メイン	4 Ω
ノンディレクション	8 Ω
最大入力	
メイン	70W
ノンディレクション	45W
周波数帯域	
メイン	43Hz~20kHz
ノンディレクション	100Hz~17kHz
最大外形寸法	幅 205 mm 高さ 436 mm 奥行 285 mm
重量(正味)	7.2 kg (1本)

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。

定格

プリアンプ/チューナー部 (C-A9)

[FMチューナー部]

受信周波数範囲 76 MHz~90 MHz
アンテナインピーダンス 75 Ω 不平衡
実用感度 (モノラル) 17.2dBf (2.0 μV, 75 Ω)

高調波ひずみ率

モノラル 0.5 % (1kHz)
ステレオ 0.6 % (1kHz)

SN比

モノラル 76 dB (85 dBf 入力時)
ステレオ 72 dB (85 dBf 入力時)
実効選択度 (± 400 kHz) 50 dB
ステレオセパレーション (1kHz) 40 dB
周波数特性 30 Hz~15 kHz, +0.5 dB, -3.0 dB

[AMチューナー部]

受信周波数範囲 531 kHz~1,602 kHz
実用感度 10 μV (500 μV/m)
SN比 48 dB

[TVチューナー部]

受信チャンネル
VHF 1~12 CH
UHF 13~62 CH

[プリアンプ部]

定格出力電圧 (PRE OUT) 1.0V (40Hz~20kHz, 0.02%)
全高調波ひずみ率 0.02% (40Hz~20kHz)
..... 0.01% (1kHz)
SN比 85dB (EIAJ) / 90dB (IHF)
入力感度/インピーダンス
MD/DAT, LD/AUX, VIDEO 200mV/47k Ω
MIC 1.2mV/47k Ω
ラウドネスコントロール特性 +6dB (100Hz)
(音量ボリューム - 30dB)
N.B. CIRCUIT 特性 +12dB (60Hz)
出力レベル/インピーダンス
MD/DAT, VIDEO 200mV/2.2k Ω
グラフィックイコライザー
中心周波数
..... 60Hz, 150Hz, 400Hz, 1kHz, 2.5kHz, 6kHz, 15kHz

[ビデオ部]

入力端子 (感度/インピーダンス)
..... VIDEO (コンポジット): 1Vp-p / 75 Ω
入力端子 (LD/AUX, VIDEO IN)
出力端子 (レベル/インピーダンス)
..... VIDEO (コンポジット): 1Vp-p / 75 Ω
出力端子 (MONITOR OUT, VIDEO OUT)

最大外形寸法 幅 270 mm
高さ 85 mm
奥行 318 mm
重量 (正味) 3.1 kg

パワーアンプ部 (B-A9)

実用最大出力

フロント (EIAJ, 4 Ω) 50W+50W
ノンディレクション (EIAJ, 8 Ω) 30W+30W

全高調波ひずみ率 0.06% (40Hz~20kHz)
..... 0.005% (1kHz)
周波数特性 40Hz~70kHz, +0dB, -1.5dB

SN比 90dB (EIAJ) / 105dB (IHFA)

[電源・その他]

電源電圧、電源周波数 AC100V, 50Hz/60Hz
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) 125W
総合消費電力 (C-A9, X-A9, DP-A9 接続時) 145W
最大外形寸法 幅 270 mm
高さ 120 mm
奥行 317 mm
重量 (正味) 6.4 kg

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

- 1.保証書—この商品の保証書は別途添付しております。
必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
- 2.保証期間—お買い上げの日より1年間です。
正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買い上げの販売店またはケンウッドの営業所が無料修理いたします。
- 3.保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 4.補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年間です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 5.アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所に、ご遠慮なくご相談ください。

サービス依頼について

本機の修理を依頼されるときは、本体のままお渡しにならないで、必ず何かに包装しておわたしてください。本体のまま修理にだされますと、途中の事故等で外観に傷がつくおそれがありますのでご注意ください。

※包装材はアフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するためにご利用ください。

修理のため、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所に、セットをお持ちになるときは、お買い上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーを除きます。)

ステレオ音のエチケット

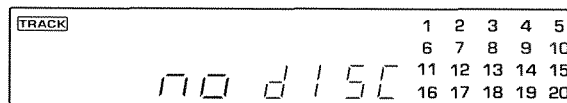


楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

輸送時または移動時のご注意 (CDプレーヤー)

本機を輸送するときや、移動するときは、下記の操作を行ってください。

1. ディスクを入れないで電源をONにします。
2. 数秒間待って、ディスプレイ部が図の表示になったことを確かめてください。



3. 電源をOFFにします。